

文化庁委託事業報告書

平成27年度
危機的な状況にある言語・方言の
アーカイブ化を想定した実地調査研究

2016年3月

琉球大学
国際沖縄研究所

はじめに

石原昌英（琉球大学）

本書は、平成27年文化庁委託事業「平成27年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」の報告書である。「危機的な状況にある言語・方言」に関する文化庁の委託事業は、昨年度まで4カ年間にわたり、「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」（平成23年度・平成25年）と「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態に関する調査研究事業」（平成24年度・26年度）として実施された。八丈方言および奄美・琉球諸方言の危機の実態と保存・継承に係る取組等の実態については、これまでの研究である程度の目途がついたと思える。（集落により方言に差異があるということを考慮すると、これまでの実態に関する研究で十分とは言えないことは明らかではある。）今年度は、危機的な状況にある言語・方言の保存・継承にむけた取組のひとつとなるアーカイブ化を想定した記録・保存を目的とした実地調査研究である。

以下に、本事業の目的・計画を記しておく。本報告書を利用していただくことの参考となれば幸いである。

業務の目的

我が国における言語・方言のうち、消滅の危機にあるものについて、ユネスコが平成21年に発行した“Atlas of the World's Languages in Danger”の内容及び、平成23年度から平成26年度にかけて大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所及び琉球大学国際沖縄研究所が実施した文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」及び「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実体に関する調査研究事業」を参照の上、消滅の危機にある七つ（八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言）の区画において、音声資料や映像資料、調査研究が十分とは言えない区画内の地域の方言について、当該地域の方言の保存・継承に資するため、アーカイブとして公開することを想定した実地調査研究を行う。なお、調査研究の結果については、事業報告書を作成する。

アイヌ語を除く日本国内の消滅の危機に瀕した七つの言語については、研究蓄積の多い島・地域と不足している島・地域とがあり、その質と量は一様ではない。また、同じ島とはいっても大きな島もあれば小さな島もあり、一つの島の中にも大きな言語差がある。同じ島の中でも研究蓄積の多い地域と全く不足している地域がある。沖縄島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、久米島、宮古島、石垣島、西表島などの大きな島の内部には、母音の数や子音の数が異なったり、文法体系や語彙体系の大きく異なる個性的な下位方言が多くある。それほど大きな島とは言えない宮古伊良部島には六つの集落があるが、発音上の特徴及び文法上の特徴の違いによって個性的な4つの下位方言に区分される。沖縄島、奄美大島、喜界島、石垣島等の大きな島の内部には多くの個性的な下位方言が存在する。

島ごとの研究蓄積の多寡の差が大きいだけでなく、島の内部でも研究蓄積の多寡に大きな差がある。沖縄県の沖縄島南部の那覇方言、首里方言、北部の今帰仁方言に関しては数多くの研究と音声資

料がある。しかし、那覇方言、首里方言、今帰仁方言以外の個性的な小規模集落や沖縄島の周辺離島については研究も研究蓄積も不足している。石垣島の中心市街地の方言については多くの研究があるが、その周辺の集落や地域、石垣島以外の離島では研究が不足している。奄美大島については、旧名瀬市市街地の方言の研究が多く、瀬戸内町の加計呂麻島、請島や与路島の研究が不足している。また、喜界島の方言も研究蓄積のある下位方言とほとんど無い下位方言がある。特に喜界島北部の方言の研究は不足している。

公開されている音声・映像資料については、琉球大学附属図書館のホームページ上に公開している琉球語音声データ、日本放送協会編『全国方言資料第11巻琉球編Ⅰ』、『全国方言資料第12巻琉球列島編Ⅱ』等があるが、琉球諸語全体の多様性の維持と継承を考慮すると、質、量ともに絶対数が不足している。近年、インターネット上で、映画の一部の音声だけを方言に直したもの、例えば「アナと雪の女王、ウチナーグチ・バージョン」などがあるが、どの下位方言なのか話者が誰なのか不明である場合がほとんどで、学術的資料としての観点から見ると大きな問題がある。

本事業で調査対象地としている8地点での調査（音声資料・映像資料を含む）は2年計画のものである。本年度は、当該方言の特徴、当該方言に対する意識、方言継承のあり方、危機の程度を調査（石垣市宮良・黒島については調査済み）し、また、アーカイブ化を想定して、言語的な特徴や5分程度の短い会話場面等を収録する。収録した音声・映像資料に注釈（アノテーション）をつけて、将来の公開に備える。なお、公開については、調査協力者の承諾が必要であり、公開する機関との調整も必要である。これらの条件がと整ってから公開されることになるが、多少時間がかかるだろう。

当該年度における業務実施計画

（1）消滅の危機に瀕しているとされ、音声資料や映像資料、調査研究が、保存・継承にとって十分ではない7区画内の8地点（鹿児島県の喜界島・加計呂麻島、沖縄県平安座島・津堅島・久高島・奥武島・石垣島・黒島）において、その特徴、地域における当該方言に対する意識、地域での継承のありかた、危機の程度等に関する調査およびその分析を行う。なお、ユネスコの消滅危機言語に関する専門家グループ(UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages)が2003年に発表した「言語の活力と危機度」(Language Vitality and Endangerment)で提唱された9項目からなる基準を適用し、当該方言の活力と危機度を分析する。なお、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所及び琉球大学国際沖縄研究所が実施した文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」及び「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係わる取組等の実体に関する調査研究事業」においてもユネスコの基準に基づいた分析がなされている。

（2）消滅の危機に瀕しているとされる7方言の区画内で、緊急度の高い以下の8地点の伝統方言の調査を実施する。

鹿児島県

1. 喜界島（奄美方言）、2. 加計呂麻島（奄美方言）

沖縄県

3. うるま市平安座島（沖縄方言）、4. 南城市奥武島（沖縄方言）、5. 南城市久高島（沖縄方言）、6. うるま市津堅島（沖縄方言）、7. 石垣島・宮良（八重山方言）、8. 石垣島・黒島（八重山方言）

当該区画内での地域方言の調査については、将来のアーカイブ化を想定して、次の項目の臨地調査と、伝統方言話者をインフォーマントとした音声・映像記録の収録を行う。

- (2-1) 当該方言の発音（音声）の特徴が分かるように作成された音節一覧表とその単語例（3単語前後）の記述と録音。
- (2-2) 当該方言の文法的な特徴が分かるように作成された格助詞、とりたて助詞の基本的な意味と例文の記述と録音。
- (2-3) 5分程度の短い会話を音声・映像記録として収録する。併せて、その文字化作業を行なう。
- (2-4) 知名度が高い童謡またはおとぎ話の方言訳を伝統方言のインフォーマントに読んでもらい音声・映像記録として収録する。併せて、その文字化作業を行なう。

なお、言語・方言（例えば「奄美語」「沖縄語」）の名称については調査担当者が提出した原稿に記されて名称をそのまま使用し、報告書全体で統一させてはいない。

平成27年度
危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した
実地調査研究報告書

目 次

はじめに……………	石 原 昌 英	
消滅の危機に瀕する各地の方言のデータ収集……………	かりまたしげひさ	1
喜界島小野津方言のモーラ表／語例と格助詞／とりたて助詞の例文……	白 田 理 人	5
奄美語（大島南部方言）の社会言語学的状況とその言語的特徴 ……………	前 田 達 朗・讃 井 綾 香	33
沖縄県うるま市平安座方言……………	當 山 奈 那	45
沖縄県奥武島方言……………	中 本 謙	71
沖縄県久高島方言……………	新 永 悠 人	81
沖縄語津堅方言の記述……………	又 吉 里 見	95
八重山語宮良言葉による「桃太郎」の書き起こしと表記法……………	Christopher Davis	137
沖縄県黒島方言の音節一覧・助詞・談話資料……………	原 田 走一郎・荻 野 千砂子	145
沖縄県内のマスメディアにおける「しまくとぅばコンテンツ」の調査……	石 原 昌 英	185

消滅の危機に瀕する各地の方言のデータ収集

消滅の危機に瀕する各地の方言のデータ収集

かりまたしげひさ（琉球大学）

1. 琉球方言の現状

いま世界の多くのマイノリティーの言語が消滅に瀕している。その危機的な状況は、19世紀以降の西洋化、近代化とともに、特定の価値観が支配的になり、言語に優劣をつけ、暴力的ともいえる圧倒的な力によってマジョリティーの言語への置き換えが短期間に起きた結果である。マイノリティーの言語の自立的な存続が困難状態に陥っている。

ユネスコは、日本国内においてアイヌ語が最も危険な状態にあり、沖縄県の与那国方言と八重山方言が重大な危険にさらされ、沖縄方言と国頭方言、宮古方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈島方言が危険な状態にあるという調査結果を2009年2月に発表した。

琉球方言の危機的な状況が進行するなか、研究者に対して琉球方言の継承・普及への貢献が求められていることを痛感する。方言を自在に使いこなせる堪能な方言話者の高齢化に伴う減少と、標準語化の影響による伝統的方言の急激な変容とが進行している。

変化や変容は避けられない。古いものがすべて望ましいものであるわけでもない。しかし、その変化・変容・消失が望まれたものでないとするなら、それを取り戻す方策を考えると、いまそこにあるものを持続的に維持していく方策を考えることは重要である。

母語話者がいなくなったあとでも非母語話者の学習者が発するであろうさまざまな疑問にこたえながら、琉球諸語の下位方言をまるごと継承させるには、できるだけ詳細で体系的な記述研究が必要である。個々の方言がどんなに小さくとも、それが固有の体系をもち、言語機能という点で大言語とおなじであるならば、簡単な会話だけでなく、どんな出来事も、どんなに高度で複雑な考えも、微妙で繊細な感情も表現できる言語として方言を活性化させること、そんな言語運用能力を次世代の人々に身につけさせることが真の継承であろう。琉球諸語が消滅の危機に瀕し、堪能な方言話者の数が減少していく現実に向き合っている。いまもっとも必要なことは、できるだけ詳細で体系的な記述研究をすすめることである。

2. 多様な琉球方言

約1千kmにおよぶひろい海域に島々が点在しているために、琉球方言内の方言差は非常におおきく、青森方言と鹿児島方言の違いに匹敵する。琉球列島の北の端と南の端とではことばがまったく通じないのはもちろん、与那国島と石垣島、宮古島と沖縄本島、奄美大島と沖縄本島のあいだでも方言では会話が通じない。沖縄本島のような大きな島ではその内部差もおおきく、南の那覇の人々は、北の、たとえば今帰仁村の人たちが方言ではなしはじめると、何をいっているのか理解できないことがあるほどである。奄美、沖縄、宮古、八重山の各諸島間で方言が異なり、むつつの下位言語を設定できるほど内部の言語差がおおきい。それだけでなく、沖縄島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、久米島、宮古島、石垣島、西表島などの大きな島の方言は、母音の数や子音の数が異なったり、文法体系や語彙体系の異なる複数の下位方言グループに分かれている。あるいは、慶良間諸島

の中の阿嘉島、慶留間島、沖縄本島東側の久高島、津堅島、奄美諸島の請島、与路島、宮古諸島の大神島、伊良部島、八重山諸島の石垣島や西表島以外の小さな島々も個性的な方言である。恩納村恩納、具志頭村具志頭、旧具志川市具志川、国頭村宇嘉・辺野喜、奄美大島笠利町佐仁言、喜界島小野津・志戸桶・佐手久などのように周辺地域の方言と大きく異なる個性的な特徴を持った集落の方言がある。

3. The Boasian tradition (辞書と文法書とテキスト)

Tsunoda (2005) ¹⁾は、危機言語の継承と再活性化の方法として包括的で体系的な辞書と文法書とテキストの3点セットの整備を提示している。危機言語としての琉球方言を全体として生きた形で継承・再活性化させるためにも The Boasian tradition と呼ばれる辞書と文法書とテキストの3点セットの整備は必要である。

琉球方言のばあい、辞書とテキストに関してはある程度の成果を残している。1万5千語以上の単語を記録した琉球方言の辞典が10以上の地域の下位方言で既に刊行されているし、民話を方言のまま記録した読谷村史民話編14巻、具志川市誌民話編3巻などの民話集や千首近くの諺を収録した諺集 ²⁾が主要な下位方言で刊行されている。近年は、複数の下位方言の文法記述もすすんでいて、一定程度の量と質を確保された下位方言もある。

研究蓄積の多い島・地域と不足している島・地域とがあり、その質と量は一様ではない。同じ島の中でも研究蓄積の多い地域と全く不足している地域がある。那覇市首里方言や今帰仁村与那嶺方言、石垣市市街地の四箇方言、奄美大島名瀬方言などのような、辞書や文法記述があり、音声テキストも多く残されている方言は少数である。琉球列島には、その存在の痕跡さえも残さずに消えてしまった方言、わずかな記録だけを残して消えた方言がある。いまはまだ母語話者はいるものの、わずかな記録をのこして消えていこうとする方言もある。記録し保存する作業が急がれる。

伝統方言の話されている全ての47の有人島ごとに少なくとも1冊ずつの方言辞典と詳細な記述文法書と音声テキストを残しておくことが必要である。大きな島には、下位方言グループごとに、そして個性的な方言ごとに方言辞典と記述文法書と音声テキストが望まれる。しかし、1万語の辞典や詳細な記述文法書を完成させるには長い時間が必要である。記録保存できる人員と予算には制約がある。

4. 音節一覧と格形式

今年度は、ある特定の方言の音節一覧表を作成してその語例を挙げ、録音すること、名詞の格形式の主要な用法を例文とともに示して録音すること、談話資料を録音することを目標にした。

音節とは、一度に発音しうる、ひとまとまりのきこえをつくる音声の最小の分節的な単位である。音節は、ひとつあるいはいくつかの音素によって構成されている。音節は単語の音声を直接構成する単位であり、1個またはそれ以上の数の音節が組み合わさって単語が形成される。1時間、あるいは数時間の談話テキストを残しても、その中に当該方言の音素と音節がすべて含まれるわけではない。特定の単語にしか含まれない、しかし、当該方言を特徴づける音素があるし、特定の音素のくみわさった音節がある。したがって、当

該方言の音素目録だけでなく、当該方言に存在する音節の一覧表を作成しておくことは、当該方言の音韻体系がどのようなものであったかを知る重要な手掛かりになる。当該方言の音節の語例を複数個記載し、その録音を残しておくことは重要である。

琉球諸語の格形式には、助詞なしのハダカ格、**nu** 格、**ga** 格、**ni** 格が全体的に共通にみられるが、一方で、与格の格形式に **Ngati** 格(名護市幸喜方言)、**Nkai** 格(那覇市泉崎方言)、**Nga** 格(石垣市四箇方言) など、地域によって形の異なる形式がある。したがって、どのような格形式があるかを列挙しなければならない。

次表の名護市幸喜方言の **ni** 格の名詞にみるように、個々の格形式は多義的である。

与格 あいて	taru _{ja} puppu:= <u>ni</u> nur-att-a-N. 太郎=TOP 祖父=ADD 叱る-PASS-PAST-IND (太郎は 祖父に しかられた。)
与格 くつつくところ	panadzaki= <u>ni</u> me: fikat <u>u</u> N. 鼻先=ADD 飯.NOM 付く-GER-NPST-IND (鼻先に 飯粒が ついている。)
与格 比較の対象	hanako=ja tʃira=nu ha:pa=ni na:t-u-N. 花子=TOP 顔=NOM 祖母=ADD 似る-GER-NPST-IND (花子は 顔が おばあさんに 似ている。)
所格 あいか	taru:=ja hudʒu:=ra to:kjo:= <u>ni</u> u:-N. 太郎=TOP 去年=ABL 東京=LOC 居る-IND (太郎は 去年から 東京に いる。)
時間格 成立つ時間	taru:=ja patʃigwatʃi= <u>ni</u> ke:ti kuN. 太郎=TOP 八月=TIM 帰る-GER 来る-NPST-IND (太郎は 八月に 帰ってくる。)

それがくつつく名詞が他の単語とどのような関係をあらわすかを表現する。他の単語との関係は、名詞の語彙的な意味に大きく依存するし、結びつく述語になる動詞の語彙的な意味に大きく依存する。その詳細を記述するには、たくさんの例文を収集し、それらを検討、分析するために時間を要する。一つの方言に存在する格形式は 10 数個であるが、それを抜き出し、個々の格形式の多義的な意味とそれが実現する条件まで含めて詳細な記述を実施するには時間が必要である。限られた人員で 47 の有人島の方言、個性的な特徴を有する方言で実施するにはたくさんの時間が必要である。記述しなければならないのは格形式だけではなく、とりたて助詞等の形式、動詞のさまざまな活用形、形容詞の活用形の抽出とその文法的な意味の記述も行なわなければならないし、さまざまなタイプの文の記述も行なわなければならない。

限られた人員と予算と日数の中で、本年度は、喜界島、加計呂麻島、沖縄県うるま市平安座島、南城市奥武島、南城市久高島、うるま市津堅島、石垣島・宮良、石垣島・黒島の各方言で、格形式とその代表的な用法を例文とともに記載し、録音資料を残しておくことにしたのである。そうすることで、詳細な記述に成功した主要な方言の成果を参考にしながら、当該方言の概要をつかむことが可能になる。そうした記述を琉球諸語全体にひろげていくことが必要である。

-
- i Tsunoda (2005) “Language endangerment and language revitalization”
 - ii 仲井真元楷 (1971) 『沖縄ことわざ事典』には 788 首、吉村玄得 (1974) 『沖縄宮古ことわざ全集』には 564 首、宮城信勇 (1977) 『八重山ことわざ全集』には 1057 種、狩俣繁久・上村幸雄編 (2003) 『石崎公曹の奄美のことわざ』には 1080 種のことわざがそれぞれ収録されている。

喜界島小野津方言のモーラ表／
語例と格助詞／とりたて助詞の例文

喜界島小野津方言のモーラ表／語例と格助詞／とりたて助詞の例文

白田 理人[†]

1. はじめに

奄美語喜界島方言（以下喜界島方言）は、鹿児島県大島郡喜界町で話されている、琉球諸語に属する方言である。喜界島には 30 余の集落があり、語彙面・音韻面・形態面に渡って集落差が見られる。本稿では筆者が現地調査¹で得たデータに基づき、喜界島方言のうち小野津集落（方言名ʔu]nu[tsu）において話されている地域変種（以下小野津方言）を対象に、モーラ一覧と語例、格助詞・とりたて助詞の例文を提示する。

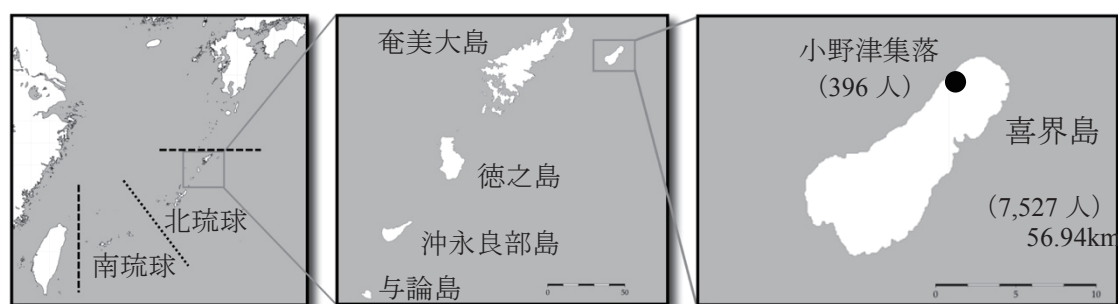


図 1 琉球諸語圏／奄美群島／喜界島／小野津集落の位置²

2. モーラ一覧と所属語例

モーラ一覧と語例を提示する前に、前提として小野津方言の音素と音節構造について概観する。まず、小野津方言の母音音素／子音音素の一覧を以下に示す。

表 1 小野津方言の母音目録

	前舌		奥舌	
	短	長	短	長
狭	i	i:	u	u:
半狭	e	e:	o	o:
広			a	a:

[†] 日本学術振興会特別研究員／琉球大学人文社会科学研究科

¹ 小野津集落出身・在住の 80 代男性 1 名、70 代女性 2 名を調査協力者とした聞き取り調査である。

² 本稿では、国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図を適宜加筆・編集して用いている。（ ）内は喜界町役場発行の資料に基づく 2015 年月現在の人口である。

表 2 小野津方言の子音目録

		両唇音	歯音	歯茎 硬口蓋音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無声無気	p[pʔ]	t[tʔ]			k[kʔ]	
	無声有気	p ^h	t ^h			k ^h	
	有声無気	b	d			g	
破擦音	無声		ts	tɕ			
	有声		dz	dʑ			
摩擦音(無声)			s				h
鼻音		m	n		ɲ	ŋ	
弾音			r				
半母音		w			j		

以下補足説明を加える。異音について、/p^h/, /dʑ/, /dʑ/はそれぞれ（特に母音間で）摩擦音 [ɸ], [z], [z] で現れることがある。/p^h/については老年層（80代以上）を除いては語頭でも [ɸ]（または [pɸ]）で現れることが多い。/s/の異音として、/i(:)/および /j/の前では [ɕ] で実現する。音節構造は (C)(S)V:(C) または (C)(S)V(V)(C) であり、S には半母音 /j/, /w/ が分布し、先行子音をそれぞれ口蓋化／唇音化する。音節末鼻音は調音点の対立がなく、後続する子音と調音点と同化する。本稿では音節末鼻音について形態素末では /n/ を、それ以外では音声実現に応じて /m/, /n/, /ɲ/, /ŋ/ を用いて表記することとする。

特に母音の解釈については先行研究間で相違が見られるため、本稿の立場を示しておく。多くの先行研究（平山 1966, 上村 1972・1992, 中本 1976, 松本 2000, 大野 2002・2003, 木部 2011・2012）で小野津方言を含む喜界島北部諸方言には中舌母音があるとされ、木部 (2011: 25) では /ɹ/, /ɕ/ を加えた 7 母音体系が示されている。しかしながら、この「中舌母音」と前舌母音の違いは、母音自体の調音位置ではなく先行する子音及び子音から母音への渡りにあり、服部（1959: 284）において指摘されているように、直前の子音の非口蓋化／口蓋化の対立と解釈できる。本稿では服部に倣い、他の先行研究で「中舌母音」とされてきた母音を含む音節を /C₁i(V)(C₂)/ 及び /C₁e(V)(C₂)/、これと対立する前舌母音を含む音節を /C₁ji(V)(C₂)/ 及び /C₁je(V)(C₂)/ と解釈する。

以上を踏まえ、次頁以降に表の形で頭子音と母音の組み合わせ及びコード子音の語例を示す。頭子音と母音の組み合わせについては、語例ごとに、モーラ、音節初頭子音、母音、構造、音素表記、音声表記、意味、グロスの順に示す。音節末子音の成すモーラについては子音、音素表記、音楽表記、意味、グロスを示す。

● モーラ語例

i	—	i	V	i-jui	ʔi[ju]i	入る	入る-NPST
i	—	i	V	t ^h ui	[t ^h u]i	鳥	鳥
i	—	i	V	mai:	ma[i]:	目下の女	目下の女
i	—	i	V	k ^h ui	k ^h ui	声	声
e	—	e	V	e:ḁza:	[ʔe]:[ḁza]:	とんぼ	とんぼ
e	—	e	V	e:-jui	[ʔe:-]jui	開ける	開ける-NPST
e	—	e	V	t ^h ue:	t ^h u[e:]	鳥は	鳥.TOP
a	—	a	V	atẽa	ʔa[t̃ẽa	明日	明日
a	—	a	V	ami	ʔa[m ^(ʷ) i	雨	雨
a	—	a	V	a:	[a]:	赤	赤
o	—	o	V	o:	[ʔo]:	青	青
o	—	o	V	o:-jui	[o:]ju[i	会う	会う-NPST
u	—	u	V	utu	[ʔu]t ^ʷ u	音	音
u	—	u	V	u:-jui	[ʔu:]jui	追う	追う-NPST
pi	p	i	CV	app-i	[ʔap]p ^ʷ i	遊べ	遊ぶ-IMP
pa	p	a	CV	<pan>	[p ^ʷ a]n	パン	パン
pa	p	a	CV	app-a	[ʔap]p ^ʷ a	遊ぼう	遊ぶ-INT
po	p	o	CV	app-o:	[ap]p ^ʷ o:	遊ぼう	遊ぶ-INT/HOR
pu	p	u	CV	puntu	[pun]tu	全く	全く
pji	pj	i	CSV	app-ji	ʔap]p ^ʷ i	遊び	遊び-INF
pji	pj	i	CSV	ampjirabukku:	[am]p ^ʷ irabuk[k ^ʷ u:	麻袋	麻袋
pje	pj	e	CSV	app-je:	[ap]p ^ʷ e:	遊びは	遊ぶ-INF.TOP
pja	pj	a	CSV	app-jaruu	[ap]p ^ʷ a[ru]u	遊びながら	遊ぶ-SIM
pjo	pj	o	CSV	t ^h oppjo:	t ^h op[p ^ʷ o]:	かぼちゃ	かぼちゃ
pju	pj	u	CSV	app-jui	[ap]p ^ʷ ui	遊ぶ	遊ぶ-NPST
p ^h i	p ^h	i	CV	p ^h i:	ϕ ^(ʷ) i[:	屁	屁
p ^h i	p ^h	i	CV	p ^h iru	[ϕ ^(ʷ) i]ru	にんにく	にんにく
p ^h e	p ^h	e	CV	p ^h e:-sa	[ϕ ^(ʷ) e]:[sa	早い	早い-ADJ
p ^h a	p ^h	a	CV	p ^h a:	[ϕa]:	葉	葉
p ^h a	p ^h	a	CV	p ^h ama	ϕa[ma	浜	浜
p ^h a	p ^h	a	CV	gip ^h a:	gi[ϕa]:	髪留め	髪留め
p ^h o	p ^h	o	CV	p ^h o:ra-sa	[ϕo:]rasa	嬉しい	嬉しい-ADJ
p ^h o	p ^h	o	CV	p ^h o:kji	[ϕo]:[k ^ʷ i	簞	簞
p ^h u	p ^h	u	CV	p ^h u:ra	[ϕu]:[ra	頬	頬
p ^h u	p ^h	u	CV	hap ^h u:	ha]ϕu[:	幸せ	幸せ

p ^h u	p ^h	u	CV	ujap ^h ud̥zi	[uja]ɸu[d̥zi	先祖	先祖
p ^h u	p ^h	u	CV	p ^h usi	ɸu]ei	星	星
p ^h ji	p ^h j	i	CSV	p ^h ji:-sa	[ɸi:]sa	寒い	寒い-ADJ
p ^h ji	p ^h j	i	CSV	p ^h jiru	[ɸi]ru	昼	昼
p ^h je	p ^h j	e	CSV				
p ^h ja	p ^h j	a	CSV	p ^h ja	ɸja	足	足
p ^h ja	p ^h j	a	CSV	p ^h jaku	[ɸja]ku	百	百
p ^h jo	p ^h j	o	CSV	s-imp ^h jo:r-i	[ɛim]p ^h jo:r-i	しなさい	する-HOR-IMP
p ^h ju	p ^h j	u	CSV				
bi	b	i	CV	bi:-jui	[b ^(ʷ) i:]ju[i	吠える	吠える-NPST
bi	b	i	CV	nabi	na[b ^(ʷ) i	鍋	鍋
bi	b	i	CV	t ^h ub-i	[t ^h u]b ^(ʷ) i	飛べ	飛ぶ-IMP
be	b	e	CV	t ^h uikkabe:	[t ^h ui]kk ^ʔ a[b ^(ʷ) e]:	取り合い	取り合い
be	b	e	CV	ube:-jui	ʔu[b ^(ʷ) e:]ju[i	薄める	薄める-NPST
ba	b	a	CV	ba:	ba[:	嫌	嫌
ba	b	a	CV	basa:	[ba]sa[:	バナナ	バナナ
ba	b	a	CV	saba	[sa]ba	草履	草履
bo	b	o	CV	bo:	[bo]:	目下の男	目下の男
bo	b	o	CV	bo=ŋa	boŋa	目下の男が	目下の男=NOM
bo	b	o	CV	nipb-o:	[nip]bo:	眠ろう	眠ろう
bu	b	u	CV	t ^h ub-una	t ^h u[bu]na	飛ぶな	飛ぶ-PROH
bu	b	u	CV	buti-jui	[bu]t ^ʔ iju[i	怒る	怒る-NPST
bji	bj	i	CSV	bji:~bji	[bi:]bi	びっしょり	OMP~RED
bji	bj	i	CSV	habji	[ha]bi	紙	紙
bji	bj	i	CSV	t ^h ub-ji	[t ^h u]bi	飛ぶ	飛ぶ-NPST
bje	bj	e	CSV	t ^h ub-je:	t ^h u[bie:	飛びは	飛ぶ-INF.TOP
bja	bj	a	CSV	t ^h ub-ja:ru:	t ^h u[bja:[ru]:	飛びながら	飛ぶ-SIM
bjo	bj	o	CSV	bjo:kji	[bio]:[k ^ʔ ji	病気	病気
bju	bj	u	CSV	t ^h ub-jui	t ^h u[bju]i	飛ぶ	飛ぶ-NPST
ti	t	i	CV	ti ^h tsu	t ^ʔ i[ts ^ʔ u	一つ	一つ
ti	t	i	CV	ti-jui	t ^ʔ i[ju]i	捨てる	捨てる-NPST
ti	t	i	CV	asati	[ʔa]sa[t ^ʔ i	明後日	明後日
ti	t	i	CV	utti:	ut[t ^ʔ i]:	一昨日	一昨日
te	t	e	CV	te:bui	[t ^ʔ e:]bui	二家、両家	二家、両家
te	t	e	CV	p ^h ate:	[ɸa]t ^ʔ e[:	畑	畑
ta	t	a	CV	tai	[t ^ʔ a]i	二人	二人

ta	t	a	CV	ta:tsu	[tʰa:]tsu	二つ	二つ
ta	t	a	CV	hata	ha[tʰa	肩	肩
to	t	o	CV	to:~to:	[tʰo]:[tʰo]:	お墓 (幼児語)	OMP~RED
tu	t	u	CV	utu	[u]tʰu	音	音
tu	t	u	CV	utu	[u]tʰu	夫	夫
tʰi	tʰ	i	CV	tʰida	tʰi[da	太陽	太陽
tʰi	tʰ	i	CV	tʰi:	tʰi:	手	手
tʰe	tʰ	e	CV	tʰe:	tʰe:	背丈	背丈
tʰa	tʰ	a	CV	tʰa:	tʰa:	田	田
tʰa	tʰ	a	CV	tʰaŋe-ui	[tʰa]ŋeui	立つ	立つ-NPST
tʰo	tʰ	o	CV	tʰo:	tʰo:	タコ	タコ
tʰo	tʰ	o	CV	tʰo:ri-ti	[tʰo:]ri[ti	倒れて	倒れる-SEQ
tʰu	tʰ	u	CV	tʰu:	[tʰu]:	戸	戸
tʰu	tʰ	u	CV	tʰudzi	[tʰu]zi	妻	妻
di	d	i	CV	dika	di[kʰa	さあ	さあ
di	d	i	CV	pʰudi:	[ɸu]di:	稲光	稲光
di	d	i	CV	pʰudi	ɸu[di	筆	筆
de	d	e	CV	de:	[de]:	竹	竹
de	d	e	CV	pʰude:-jui	ɸu[de:]jui	育つ	育つ-NPST
da	d	a	CV	da:	[da]:	お前	お前
da	d	a	CV	uda	ʔu[da	早く	早く
da	d	a	CV	daku	da[kʰu	楽	楽
do	d	o	CV	do:	do:	ところ	ところ
do	d	o	CV	do:mo:	[do]:[mo]:	毫碌	毫碌
du	d	u	CV	du:	du:	自分	自分
du	d	u	CV	madu	ma[du	暇、時間	暇、時間
du	d	u	CV	duku-sa	[du]kʰu[sa	健康である	健康である-ADJ
ki	k	i	CV	ki+mun	[kʰi]mun	漬物	漬ける+物
ki	k	i	CV	su:ki	[su]:[kʰi	料理	料理
ki	k	i	CV	jakki:	jak[kʰi]:	おじさん	おじさん
ke	k	e	CV	tʰukke:s-ui	tʰuk[kʰe:]sui	取り返す	取り返す-NPST
ka	k	a	CV	kam-jui	[kʰa]mʲu[i	掴む	掴む-NPST
ka	k	a	CV	kamma	[kʰa]m[ma	朝	朝
ka	k	a	CV	kʰak-a	kʰa[kʰa	書く	書く-INT/HOR

ko	k	o	CV	kon~kon	kʔoŋ]kʔoN	水の流れ る音	OMP~RED
ko	k	o	CV	siko:-jui	ɛi[kʔo:]jui	作る	作る-NPST
ku	k	u	CV	ku:-jui	[kʔu:]jui	閉める	閉める-NPST
ku	k	u	CV	kumu	kʔu[mu	雲	雲
ku	k	u	CV	kut̪ei	[kʔu]t̪ei	口	口
ku	k	u	CV	pʰaku	[pʰa]kʔu	箱	箱
kji	kj	i	CSV	kjin	kʔji[N	着物	着物
kji	kj	i	CSV	kji-i	kʔji[:	切る	切る-INF
kji	kj	i	CSV	gukji	gu[kʔji	茎	茎
kje	kj	e	CSV	kʰak-je:	kʰa[kʔje:	書きは	書く-INF.TOP
kja	kj	a	CSV	kja-jui	[kʔja]ju[i	光る	光る-NPST
kja	kj	a	CSV	kjapb-jui	[kʔap]bui	漏らす	漏らす-NPST
kja	kj	a	CSV	kʰak-ja:ru:	[kʰa]kʔja:[ru]:	書きながら	書く-SIM
kjo	kj	o	CSV				
kju	kj	u	CSV	kʰak-jui	[kʰa]kʔu[i	書く	書く-NPST
kwi	kw	i	CSV				
kwe	kw	e	CSV	kwe:	[kʔwe]:	鋤	鋤
kwe	kw	e	CSV	kwe:-ti	[kʔwe]:[tʔi	肥えた	肥える-PST2
kwa	kw	a	CSV	kwa	kʔwa	子	子
kwa	kw	a	CSV	kwad̪zi	kʔwa[d̪zi	火事	火事
kʰe	kʰ	e	CV	kʰe:-ti	[kʰe]:[tʔi	掛けた	掛ける-PST2
kʰa	kʰ	a	CV	kʰam-jui	[kʰa]m̪u[i	食べる	食べる-NPST
kʰa	kʰ	a	CV	kʰak-a	kʰa[kʔa	書こう	書く-INT/HOR
kʰa	kʰ	a	CV	kʰa:-jui	[kʰa:]ju[i	かかる	かかる-NPST
kʰo	kʰ	o	CV	kʰo:	[kʰo]:	甲斐	甲斐
kʰo	kʰ	o	CV	kʰo:de:	[kʰo:]de[:	自慢	自慢
kʰu	kʰ	u	CV	kʰu:	kʰu[:	来い	来る.IMP
kʰu	kʰ	u	CV	kʰubu	[kʰu]bu	昆布	昆布
kʰu	kʰ	u	CV	kʰutei	kʰutei	東風	東風
kʰji	kʰj	i	CSV	kʰjiga	kʰji[ga	怪我	怪我
kʰji	kʰj	i	CSV	kʰji-i	kʰji[:	来る	来る-INF
kʰje	kʰj	e	CSV	kʰje:-ti	[kʰje]:[tʔi	来ました	来る.POL-PST2
kʰje	kʰj	e	CSV	kʰje:ku	[kʰje]:[kʔu	稽古	稽古
kʰja	kʰj	a	CSV	kʰjaku	[kʰja]kʔu	客	客
kʰja	kʰj	a	CSV	kʰjassi	[kʰjaɛ]ei	どう	どう

khjo	khj	o	CSV	khjo:de:	[k ^h jo]:[de]:	兄弟	兄弟
khju	khj	u	CSV	khju:	k ^h ju[:	今日	今日
khju	khj	u	CSV	khjura-sa	[k ^h u]ra[sa	美しい	美しい-ADJ
gi	g	i	CV	gip ^h a:	gi[φa]:	髪留め	髪留め
gi	g	i	CV	kjimuteagi-sa	[k ^ʔ imu]tea[gi]sa	かわいそう	かわいそう-ADJ
ge	g	e	CV	mange:-jui	[man]ge:[ju]i	転ぶ	転ぶ-NPST
ga	g	a	CV	gaja	ga[ja	かや	かや
ga	g	a	CV	ga:	ga[:	根気	根気
ga	g	a	CV	p ^h agama	φa[ga]ma	釜	釜
go	g	o	CV	p ^h ago:-sa	[φa]go:[sa	憎たらしい	憎たらしい-ADJ
go	g	o	CV	go:ḍza:	[go]:[ḍza]:	お節介	お節介
gu	g	u	CV	gusani	[gu]sa[ni	杖	杖
gu	g	u	CV	p ^h ingu	[φ ^(y) in]gu	垢	垢
gji	gj	i	CSV	gji:~gji	[gji]:[gji	ずっしり	OMP~RED
gji	gj	i	CSV	jagji:	ja[gji]:	ヤギ	ヤギ
gje	gj	e	CSV	gje: ne:	gie[:	面白くない	面白み
gja	gj	a	CSV	gja:~gja	[gja]:[gja	うるさい様子	OMP~RED
gjo	gj	o	CSV	kjingjo	[k ^ʔ in]gio	金魚	金魚
gju	gj	u	CSV	gju:~gju	[gju]:[gju	詰め込んでい る様子	OMP~RED
gwa	gw	a	CSV	rukawatdo:	[ruk]awat[do]:	六月燈	六月燈
gwa	gw	a	CSV	gwa:~gwa	[gwa]:[gwa	うるさい様子	OMP~RED
ṭso	ṭs	o	CV	p ^h utso:	φu[ṭs ^ʔ o:	よもぎは	よもぎ.TOP
ṭsu	ṭs	u	CV	ṭsura	ṭs ^ʔ u[ra	顔	顔
ṭsu	ṭs	u	CV	p ^h utsu	φu[ṭs ^ʔ u	よもぎ	よもぎ
ḍze	ḍz	e	CV	saŋŋo:ḍze:	[saŋ]ŋo:[ze]:	懷酒	懷酒
ḍza	ḍz	a	CV	kuru+ḍzata:	[k ^ʔ uru]za[t ^ʔ a:	黒砂糖	黒い+砂糖
ḍzo	ḍz	o	CV	midzo:	m ^(y) i[zo:	水は	水.TOP
ḍzu	ḍz	u	CV	ḍzumja:	ḍzu[mja]:	斧	斧
ḍzu	ḍz	u	CV	hudzu	hu[ḍzu	去年	去年
ḍzu	ḍz	u	CV	midzu	[m ^(y) i]ḍzu	水	水
ṭei	ṭe	i	CV	ṭei	ṭei	来て	来る.SEQ
ṭei	ṭe	i	CV	ṭeika-sa	[ṭei]k ^ʔ asa	近い	近い-ADJ
ṭei	ṭe	i	CV	ṭei:	ṭei[:	乳	乳
ṭei	ṭe	i	CV	mjitṭei	[mji]ṭei	道	道
ṭei	ṭe	i	CV	mutṭei:	mut[ṭei]:	餅	餅

t̃ee	t̃e	e	CV	mjit̃ee:	mji[t̃ee:	道は	道.TOP
t̃ea	t̃e	a	CV	t̃ea	t̃ea	来た	来る.PST
t̃ea	t̃e	a	CV	t̃eakki	t̃eak[kʰi	ずっと	ずっと
t̃ea	t̃e	a	CV	mjit̃ea	mji[t̃ea	土	土
t̃eo	t̃e	o	CV	t̃eo: ura:	[t̃eo:	人は	人.TOP
t̃eu	t̃e	u	CV	t̃eu	t̃eu	人	人
t̃eu	t̃e	u	CV	t̃hate-ui	[t̃h̥a]t̃eu[i	立つ	立つ-NPST
t̃eu	t̃e	u	CV	jateu:	ja[t̃eu]:	灸	灸
d̃zi	d̃z	i	CV	d̃zida	d̃zi[da	地面	地面
d̃zi	d̃z	i	CV	t̃hud̃zi	[t̃h̥u]zi	妻	妻
d̃ze	d̃z	e	CV	t̃hud̃ze:	t̃h̥u[ze:	妻は	妻.TOP
d̃za	d̃z	a	CV	d̃za:	[d̃za]:	どこ	どこ
d̃za	d̃z	a	CV	had̃za	[ha]za	匂い	匂い
d̃za	d̃z	a	CV	sad̃zawan	[sa]zawa[N	湯飲み	湯飲み
d̃za	d̃z	a	CV	wad̃za+mun	[wa]zamu[N	器用な人	器用+人
d̃zo	d̃z	o	CV	d̃zo:	d̃zo[:	門	門
d̃zu	d̃z	u	CV	d̃zu:	[d̃zu]:	尻尾	尻尾
d̃zu	d̃z	u	CV	t̃id̃zuku	[t̃i]zu[kʰu	技術	技術
d̃zu	d̃z	u	CV	kjind̃zu	[kʰin]d̃zu	近所	近所
d̃zu	d̃z	u	CV	d̃zuri	[d̃zu]ri	どれ	どれ
si	s	i	CV	si:	ei[:	志戸桶	志戸桶(集落名)
si	s	i	CV	t̃h̥usi	t̃h̥u[ei	年	年
si	s	i	CV	sima	ei[ma	島	島
se	s	e	CV	se:	se]:	酒	酒
se	s	e	CV	ɲise:	ɲi[se]:	青年	青年
sa	s	a	CV	sa	sa	草	草
sa	s	a	CV	sata:	sa]tʰa[:	砂糖	砂糖
sa	s	a	CV	sa:	sa]:	下	下
sa	s	a	CV	sa:	sa[:	茶	茶
sa	s	a	CV	sa	sa	した	する.PST
sa	s	a	CV	isasama	[ʔi]sasa[ma	医者	医者
so	s	o	CV	so:de:	[so:]de[:	竿竹	竿竹
so	s	o	CV	buso:	[bu]so[:	狼狽	狼狽
so	s	o	CV	so:su	[so]:[su	ソース	ソース
su	s	u	CV	su:	su[:	塩	塩
su	s	u	CV	masu	ma]su	潮	潮

su	s	u	CV	susu	su[su	裾	裾
su	s	u	CV	suka:	su[kʰa]:	急須	急須
sje	sj	e	CSV	tʰusje:	tʰu[ɛe:	年は	年.TOP
sja	sj	a	CSV	<isja>	i[ea	医者	医者
sjo	sj	o	CSV	<sjo:gakko:>	[eo:]gak[ko]:	小学校	小学校
sju	sj	u	CSV	<sjukudai>	[ɛu]ku[da]i	宿題	宿題
hi	h	i	CV	hi:	h ^① i[:	木	木
he	h	e	CV	he:-jui	[he:]jui	変える	変える-NPST
ha	h	a	CV	ha:	[ha]:	井戸	井戸
ho	h	o	CV	ho:-jui	[ho:]jui	買う	買う-NPST
hu	h	u	CV	humi	hu[m ^(ʷ) i	米	米
hu	h	u	CV	husi	[hu]ei	腰	腰
hje	hj	e	CSV				
hja	hj	a	CSV	<hjakuen>	[hʲa]kʰu[e]N	百円	百円
hjo	hj	o	CSV				
hju	hj	u	CSV				
mi	m	i	CV	mi:+mun	[m ^(ʷ) i:] + mu[n	雌	雌+もの
mi	m	i	CV	ami	a[m ^(ʷ) i	雨	雨
mi	m	i	CV	midzu	[m ^(ʷ) i]dzu	水	水
me	m	e	CV	numje:	nu[mʲe:	飲めるほうが いい	飲む.INF.TOP
me	m	e	CV	ame:	ʔa[m ^(ʷ) e:	雨は	雨.TOP
ma	m	a	CV	ma:	ma[:	釣り竿	釣り竿
ma	m	a	CV	mami	ma[m ^(ʷ) i	豆	豆
ma	m	a	CV	hama	ha[ma	鎌	鎌
mo	m	o	CV	mo:ki-jui	[mo:]kʰi[ju]i	儲ける	儲ける-NPST
mu	m	u	CV	mupi	mu[ni	麦	麦
mji	mj	i	CSV	mji:+mun	[mʲi:]mun	新しいもの	新しい+もの
mji	mj	i	CSV	amji	a[mʲi	網	網
mji	mj	i	CSV	mjisija	[mʲi]ei[ja	店	店
mja	mj	a	CSV	hamja	ha[mʲa	神宮	神宮
mjo	mj	o	CSV	mjo:=dza	[mʲo]:dza	妙だ	妙=COP
mju	mj	u	CSV	num-jui	[nu]mʲu[i	飲む	飲む-NPST
ni	n	i	CV	ni:	ni[:	傍	傍
ni	n	i	CV	hani	[ha]ni	お金	お金
ne	n	e	CV	ne:	[ne]:	お姉さん	お姉さん

ne	n	e	CV	hane:	ha[ne:	お金はない	お金はない
na	n	a	CV	na:	[na]:	名	名
na	n	a	CV	namji	na[m̥i	波	波
na	n	a	CV	p ^h ana	ɸa[na	花	花
no	n	o	CV	no:-jui	[no:]ju[i	治る	治る-NPST
no	n	o	CV	nuno:	nu[no:	布は	布.TOP
nu	n	u	CV	nu:	[nu]:	何	何
nu	n	u	CV	nuku	nu[kʰu	のこぎり	のこぎり
nu	n	u	CV	nunu	[nu]nu	布	布
ɲi	ɲ	i	CV	ɲi:	ɲi[:	荷物	荷物
ɲi	ɲ	i	CV	muɲi	mu[ɲi	麦	麦
ɲe	ɲ	e	CV	muɲe:	mu[ɲe:]	麦は	麦.TOP
ɲa	ɲ	a	CV	ɲa:	[ɲa]:	もう	もう
ɲa	ɲ	a	CV	mjiɲa:	m̥i[ɲa]:	貝	貝
ɲa	ɲ	a	CV	ɲama	ɲa[ma	今	今
ɲo	ɲ	o	CV	ɲiɲɲo:	[ɲi]ɲ[ɲo]:	人形	人形
ɲu	ɲ	u	CV	kjiɲu:	kʰji[ɲu]:	昨日	昨日
ɲi	ɲ	i	CV	haɲi	ha[ɲi	かげ	かげ
ɲi	ɲ	i	CV	huɲ-i	hu[ɲi	漕げ	漕ぐ-IMP
ɲi	ɲ	i	CV	hassaɲi:	[has]sa[ɲi]:	髪の毛	髪の毛
ɲe	ɲ	e	CV	misɲe:	[m ^(ʷ) i]ɲe[:	しゃもじ	しゃもじ
ɲe	ɲ	e	CV	k ^h aɲɲe:	[k ^h aɲ]ɲe[:	考え	考え
ɲa	ɲ	a	CV	aɲa-jui	a[ɲa]jui	上がる	上がる-NPST
ɲa	ɲ	a	CV	wa=ɲa	wa[ɲa	私が	私=NOM
ɲa	ɲ	a	CV	a:ɲa:	[a]:[ɲa]:	赤子	赤子
ɲa	ɲ	a	CV	so:ɲatei	so:ɲatei	正月	正月
ɲo	ɲ	o	CV	i ^h ɲeɲo:	[ʔi]ɲeɲo[:	1 合	1 合
ɲu	ɲ	u	CV	huɲ-una	[hu]ɲu[na	漕ぐな	漕ぐ-PROH
ɲji	ɲj	i	CSV	huɲ-ji	hu[ɲji	漕ぎ	漕ぐ-INF
ɲji	ɲj	i	CSV	huɲ-ji:=ɲi	huɲji:ɲi	舟漕ぐときに	漕ぐ-NMLZ
ɲje	ɲj	e	CSV	huɲ-je:	hu[ɲje:	漕ぎは	漕ぐ-INF.TOP
ɲja	ɲj	a	CSV	huɲ-ja:ru:	[hu]ɲja:[ru]:	漕ぎながら	漕ぐ-SIM
ɲjo	ɲj	o	CSV				
ɲju	ɲj	u	CSV	huɲ-jui	[hu]ɲju[i	漕ぐ	漕ぐ-NPST
ri	r	i	CV	t ^h u-ri	t ^h u[ri	取れ	取る-IMP

re	r	e	CV	t ^h are:	t ^h a[re]:	盥	盥
ra	r	a	CV	tsura	ts ^ʔ ura	顔	顔
ro	r	o	CV	p ^h aro: d̂zi:	[ɸa]ro:[d̂zi]:	親戚	親戚
ru	r	u	CV	p ^h jiru	ɸiiru	昼	昼
ru	r	u	CV	saru:	sa[ru]:	猿	猿
ru	r	u	CV	p ^h uru:	ɸu[ru]:	風呂	風呂
rja	rj	a	CSV				
rjo	rj	o	CSV				
rju	rj	u	CSV				
ji	j	i	CV	ji-jui	ji[ju]i	座る	座る-NPST
ji	j	i	CV	jiŋŋa	[ji]ŋ[ŋa]	男	男
je	j	e	CV	je:-jui	[je:]ju[i]	痩せる	痩せる-NPST
ja	j	a	CV	ja:	ja[:]	家	家
ja	j	a	CV	jama	ja[ma]	山	山
ja	j	a	CV	japi	ja[ni]	来年	来年
ja	j	a	CV	mijj-a:ru:	mi[ja]:[ru]:	見ながら	見る-SIM
jo	j	o	CV	joi~joi	[jo]joi	ゆっくり	OMP~RED
jo	j	o	CV	jo:	jo[:]	櫓	櫓
jo	j	o	CV	mji-jo:	mi[jo]:	見よう	見る-INT.HOR
ju	j	u	CV	ju:	ju[:]	湯	湯
ju	j	u	CV	iju	[i]ju	魚	魚
ju	j	u	CV	juta-sa	[ju]t ^ʔ a[sa]	良い	良い-ADJ
wi	w	i	CV	wi:-jui	[wi:]ju[i]	起きる	起きる-NPST
we	w	e	CV	we:	we[:]	分ける	分ける-INF
we	w	e	CV	we:si-jui	[we:]ei[jui]	供える	供える-NPST
wa	w	a	CV	wan	wa[N]	私	私
wa	w	a	CV	siwa	ei[wa]	心配	心配
wa	w	a	CV	wa:	wa[:]	豚	豚
p	NA	NA	C	apba	ap[ba]	油	油
t	NA	NA	C	watda-jui	[wat]dajui	扶養する	扶養する-NPST
k	NA	NA	C	akk-jui	[ʔak]kjui	歩く	歩く-NPST
s	NA	NA	C	jas-sa	jas[sa]	安い	安い-ADJ
n	NA	NA	C	t ^h an-di	t ^h a[n]di	頼んで	頼む-SEQ
m	NA	NA	C	amma:	[ʔa]m[ma]:	おばあさん	おばあさん
j	NA	NA	C	nippo:	[ni]n[no]:	人形	人形
ŋ	NA	NA	C	iŋŋa:	[ʔi]ŋ[ŋa]:	犬	犬

2. 格助詞・とりたて助詞の文例

以下に、本稿で扱う格助詞、とりたて助詞とその主な機能の一覧を示す。

	機能ラベル	形式	主な機能
格助詞	主格 1	=ŋa	自動詞主語、他動詞主語
	主格 2	=nu	自動詞主語の一部
	属格	=nu	連体修飾
	対格	=jo:ba ~ =joba ~ =juba	他動詞目的語
	与所格	=ŋi	受け手、(共同) 動作の相手、受動文の動作主、使役文の被使役者、存在の場所、移動先
	所具格	=d̥zi	動作・出来事の場所、材料、道具、原因
	方向格 1	=kai	移動先、方向、移動の目的
	奪格	=kara	起点
	限界格	=gari	終点、境界
	共格	=tu	共同動作の相手、並列
	比較格	=jukka	比較の基準
とりたて助詞	主題	=ja (または融合)	主題、対照主題
	焦点	=du	項焦点 (対照焦点)
	添加	=mu	添加
	曖昧、限定	=be:	曖昧、限定
	例示	=do:	例示

このほか、格助詞に準ずる機能を持つ形式名詞 *nai* (方向) がある。また、とりたて助詞に分類しうるものとして、=(t)ŋeiba (「~とは」) =kusa (「こそ」)、=se: (「さえ」、条件節中)、ŋeo: (「さえ」、否定文中) がある。

以降、小野津方言の格助詞、とりたて助詞の文例を示す。まず、主格 1=ŋa の用例を示す。

- (1) khju:=ja tʰakasi=ŋa sima=kai mudu-ti khjun=do:.
 今日=TOP タカシ=NOM1 島=ALL 戻る-SEQ 来る.NPST=ASS

「今日はタカシが島に帰ってくるよ。」

- (2) hun siguto: wa=ŋa s-un=do:.

この 仕事.TOP 1.SG=NOM1 する-NPST=ASS

「この仕事は私がするよ。」

- (3) kjiŋu:=ja ami(=ŋa) gaba p^hu-tan=do:.

昨日=TOP 雨(=NOM1) たくさん 降る-PST1=ASS

「昨日は雨がたくさん降ったよ。」

- (4) d̄zuri=ŋa da: hasa=jo — huri=ŋa wa:-su=do:.

どれ=NOM12.SG.POSS 傘=WHQ これ=NOM1 1.SG.POSS-NMLZ=ASS

「どれがお前の傘？—これが私のだよ。」

- (5) ora kuruma=ŋa t̄c̄an=do:.

ほら 車=NOM1 来る.PST1=ASS

「ほら、車が来たよ」

- (6) hun kwa: iru=ŋa siju-sa(-i)=ja:.

この 子.TOP 色=NOM1 白い-ADJ(-NPST)=SFP

「この子は色が白いね。」

- (7) t̄an=ŋa an kwasi k^ha-di=jo? — t̄akasi=ŋa k^ha-dan=do:.

誰=NOM1 あの 菓子 食べる-PST2=WHQ タカシ=NOM1 食べる-PST1=ASS

「誰があの子食べた？—タカシが食べたよ。」

- (8) nubi:=ŋa ha:ra-t̄c̄an=nati midzu(=ŋa) p^hu-sa-i.

喉=NOM1 渴く-PST=CSL1 水(=NOM1) 欲しい-ADJ-NPST

「喉が渴いたから水が欲しい」

- (9) nubi:=ŋa ha:ra-t̄c̄an=nati midzu(=ŋa) num-bu-sa-i.

喉=NOM1 渴く-PST=CSL1 水(=NOM1) 飲む-DES-ADJ-NPST

「喉が渴いたから水が飲みたい」

- (10) da=ja sima+jumuita(=ŋa) utsu-jun=ŋa?

2.SG 島+ことば(=NOM1) 分かる-NPST=YNQ

「お前がわかるか？」

- (11) da=ja jeigo(=ŋa) jum-arin=na?
 2.SG=TOP 英語(=NOM1) 読む-POT.NPST=YNQ
 「お前英語読めるの？」

次に、主格 2=nu の用例を示す。主格 2=nu は、述語が形容詞の-sa の形または動詞過去 2-Ti の形の場合に現れうる。現時点のデータからは自動詞に限られる。

- (12) kjiɲu:=ja ami(=nu) gaba p^hu-ti.
 昨日=TOP 雨(=NOM2) たくさん 降る-PST2
 「昨日は雨がたくさん降った。」

- (13) nuŋa(=jo)? — hamatei=nu ja-di.
 なぜ=WHQ 頭=NOM2 痛い-PST2
 「どうしたの？—頭が痛いんだ。」

- (14) hun kwa=nu iru=nu siju-sa=ja:.
 この 子=GEN 色=GEN 白い-ADJ=SFP
 「この子は色が白いね。」

対格はゼロで現れるか、対格助詞=jo:ba で標示される。以下に例文を示す。対格助詞は話者によって=joba、=juba も見られるが以下では=jo:ba で統一する。

- (15) t^haru=ka wan(=jo:ba)abi-ti=na?
 誰=INDEF1.SG(=ASS) 呼ぶ-PST2=YNQ
 「誰か私を呼んだ？」
- (16) da=ja nu:(=jo:ba) t^hume:-tu-su=jo?
 お前=TOP 何(=ACC)探す-PROG.NPST-NMLZ=WHQ
 「お前何を探してるの？」

- (17) t^hakasi=ŋa hiro:si(=jo:ba) ut-t^hean=ti:sa.
 タカシ=NOM1 ヒロシ(=ASS) 打つ-PST=REP
 「タカシがヒロシをぶったんだって。」

- (18) hun tsukue(=jo:ba) wattai=d̥zi hakub-o:.

この 机(=ACC) 1.INCL=LOC/INST 運ぶ-INT/HOR

「この机を私たち二人で運ぼう」

- (19) an mitee: o:-san {=karapi/=nati}

あの 道.TOP 危ない-ADJ.NPST {=CSL/=CSL}

hun mitei(=jo:ba) t̥u:ti ik-i=yo:..

この 道 (=ACC) 通る-SEQ 行く-IMP=ASS

「あの道は危ないからこの道を通って行け」

- (20) kiju:=ja asa hateid̥zi=pi ja:(=jo:ba) id̥zi-tan=do:.

昨日=TOP 朝 八時=DAT/LOC 家(=ACC)出る-PST=ASS

「昨日は朝八時に家を出たよ」

- (21) hun kwase: da=pi kuri-ra.

この 菓子.TOP お前=DAT/LOC やる／くれる-IMP

「このお菓子はお前にやろう。」

- (22) t̥akasje: sinse:(=pi/=kara) buti-rat-tan=ti:sa.

タカシ.TOP 先生(=DAT/LOC/=ABL) 叱る-PASS-PST1=REP

「タカシは先生にしかられたそうだ。」

- (23) ubus-sa-n pi:=ja wanna: bo=pi mut-as-o:.

重い-ADJ.NPST-ADN 荷物=TOP 1.PL.EXCL 目下の男=DAT/LOC 持つ-CAUS-INT/HOR

「重い荷物はうちの息子に持たせよう。」

- (24) ho:-i+mun+si mudu-i:=pi t̥akasi {=tu/=pi}

買う-INF+もの+する.SEQ 戻る-NMLZ=DAT/LOC タカシ {=COM/=DAT/LOC}

o:-tan=do:.

会う-PST1=ASS

「買い物して、帰りにタカシに会ったよ」

- (25) t̥omoko: okka={=tu/=pi} ju: pi-t̥eu-so:.

トモコ.TOP お母さん {=COM/=DAT/LOC} よく 似る-PROG.NPST-EXCLAM

「トモコはお母さんによく似ているなあ」

- (26) p^huka-n+teu=ni jindzu ssi k^ham-ar-an-tan=do:.
 他-LNK+人=DAT/LOC 遠慮 する.SEQ 食べる-POT-NEG-PST=ASS
 「他の人に遠慮して食べられなかったよ」

- (27) wanna: ja:=nu jamme:=pe: habidan hi:=ŋa an=do:.
 1.PL.EXCL 家=GEN 庭=DAT/LOC.TOP こんなに大きい 木=NOM1ある.NPST=ASS
 「うちの家の庭にはこんなに大きな木があるよ。」

- (28) hun p^haku-n+na:=pe: nu:=ŋa it-teu-su=jo?
 この 箱-LNK+中=DAT/LOC.TOP 何=NOM1 入る-PROG.NPST-NMLZ=WHQ
 — wa:+mɪŋani=ŋa it-teun=do:.
 1.SG.POSS+眼鏡=NOM1 入る-PROG-NPST=ASS
 「この箱には何が入っているの？—私の眼鏡が入っているよ。」

- (29) t^hakasje: nama hiko:dzo:=pi t^hut-tean=do:.
 タカシ.TOP 今 飛行場=DAT/LOC 着く-PST=ASS
 「タカシは今飛行場に着いたよ」

- (30) jase:=ja hun p^hukku(=ni/=kai) iri-ri.
 野菜=TOP この 袋(==DAT/LOC/=ALL) 入れる-IMP
 「野菜はこの袋に入れろ」

- (31) kɪnu:=ja asa hateidzi=pi ja:(=jo:ba) idzi-tan=do:.
 昨日=TOP 朝 八時=DAT/LOC 家(=ACC)出る-PST=ASS
 「昨日は朝八時に家を出たよ」

- (32) { wan=pe: / wano: } uttu+bo=ŋa teui u-i.
 私=DAT/LOC.TOP 私.TOP 目下+目下の男=NOM1 一人 いる-NPST
 「私は弟が一人いる。」

- (33) hun siguto: { wan=pe: / wano: } diki-ra:.
 この 仕事.TOP 私=DAT/LOC.TOP 私=TOP できる-NEG.NPST
 「この仕事は私にはできない。」

以下に所具格= \widehat{dzi} の例文を示す。

- (34) $kwa-n-kja:=\eta a$ $p^hama=\widehat{dzi}$ $at-tu-i$.

子-LNK-PL=NOM1 浜=LOC/INST 遊ぶ-PROG-NPST

「子供たちが浜で遊んでいる。」

- (35) $\widehat{ate}a:$ $p^hama=\widehat{dzi}$ $app-o:$.

明日.TOP 浜=LOC/INST 遊ぶ-INT/HOR

「明日は浜で遊ぼう。」

- (36) $jube:$ $\widehat{dza}:=\widehat{dzi}$ mun $k^ha-di=jo?$ — $wan+dumai=\widehat{dzi}$

昨夜.TOP どこ=LOC/INST もの 食べる-PST2=WHQ — 湾+港=LOC/INST

$k^ha-dan=do:$.

食べる-PST1=ASS

「昨夜はどこでご飯食べた? — 湾（集落名）で食べたよ。」

- (37) hun $p^ho:\widehat{tea}:=\widehat{dzi}$ $jase:$ $kji-iba$ $k^hjura:sa$ $kjij-arin=do:$.

この 包丁=LOC/INST 野菜 切る-COND きれい.ADV 切る-POT.NPST=ASS

「この包丁で野菜を切ると、きれいに切れるよ。」

- (38) $t^ha:+ja:=\widehat{dzi}=ka$ $\widehat{atsumai}=\eta a$ $a-n$ $saku=\widehat{dza}$.

誰.INDEF.POSS+家=LOC/INST 集まり=NOM1 ある.NPST.ADN らしい=COP

「誰かの家で集まりがあるらしい。」

- (39) hun $p^hako:$ $habji=\widehat{dzi}$ $diki-tu-i$.

この 箱.TOP 紙=LOC/INST できる-PROG-NPST

「この箱は紙でできている。」

- (40) $t^he:p^hu:=\widehat{dzi}$ $ja-n+me:=nu$ $hi:=\eta a$ $t^ho:ri-ti$.

台風=LOC/INST 庭-LNK+前=GEN 木=NOM1 倒れる-PST2

「台風で庭の木が倒れた。」

- (41) $anna:$ $\widehat{adzi}=ja$ $gan=\widehat{dzi}$ $ma:i$ $ssan=do:$.

彼.PL おじいさん=TOP 癌=LOC/INST 逝去 する.PST=ASS

「うちのおじいさんは癌で亡くなった。」

- (42) hun hagake: gomme:=dzi <hjakuen>=do:.

この はがき.TOP 五枚=LOC/INST <百円>=ASS

「このはがきは五枚で百円だよ」

以下に方向格=kai の例文を示す。=kai が基本的に場所名詞に後続するのに対し、形式名詞 nai は人を表す名詞の所有形に後続するか、連結辞-n を介して後続し、=kai と類似した意味機能を果たす。

- (43) khju:=ja thakasi=ŋa sima=kai mudu-ti khjun=do:.

今日=TOP タカシ=NOM1 島=ALL 戻る-SEQ 来る.NPST=ASS

「今日はタカシが島に帰ってくるよ。」

- (44) jase:=ja hun phukku(=pi/=kai) iri-ri.

野菜=TOP この 袋(=DAT/LOC/=ALL) 入れる-IMP

「野菜はこの袋に入れろ」

- (45) { {da:-ma/ da:+huma}=kai / da:+nai } thigamji uku-ro:.

2.SG-NMLZ /2.SG.POSS+ここ=ALL1 2.SG.POSS+ALL2 手紙 送る-INT/HOR

「お前のところへ手紙を送ろう。」

- (46) { wa:-ma=kai / wa:+nai bo:ru nagi-ri.

1.SG.POSS-NMLZ=ALL1 / 1.SG.POSS+ ALL2 ボール 投げる-IMP

「私の方へボール投げろ」

- (47) takasje: du:+kkwa-n+nai i-dzun=ti:sa.

タカシ.TOP REFL.SG.POSS+子-LNK+ALL2 行く-PROG.NPST=REP

「タカシは自分の子のところへ行っているようだ」

以下に奪格=kara の例文を示す。

- (48) k^hagusima=kara dusi=ŋa tteu-i.

鹿児島=ABL 友=NOM1 来る.PROG-NPST

「鹿児島から友人が来ている。」

(49) hun maja:=ja d̥za:=kara it̤tei t̤tea-su=ka=ja:.

この 猫=TOP どこ=ABL 入る-SEQ 来る-PST-NMLZ=Q=SFP

「この猫はどこから入ってきたのだろう。」

(50) hun pʰanasi tʰaru=kara kji-t̤tea-su=jo?

その 話 誰=ABL 聞く-PST-NMLZ=WHQ

「その話誰から聞いたの？」

(51) pʰanasi s-u-n me:=ɲi mid̥zu=kara sakji=ɲi num-i.

話 する-NPST-ADN まえ=DAT/LOC 水=ABL さき=DAT/LOC 飲む-IMP

「話をするまえに、水からさきに飲め。」

(52) mid̥zu nu-di=kara pʰanasi si-ro:.

水 飲む-SEQ=ABL 話 する-INT/HOR

「水を飲んでから話をしよう。」

(53) nu:=kara kʰamo:=ka?

何=ABL 食べる-INT/HOR=Q

「何から食べようか。」

(54) at̤tea=kara nats̥u+jasumji=d̥za.

明日=ABL 夏+休み=COP

「明日から夏休みだ。」

(55) se:=ja humi=kara siko:-jui.

酒=TOP 米=ABL 作る-NPST

「酒は米から作る。」

以下に限界格=gari の例文を示す。

(56) wanna: bo=ja huɖzu=gari tʰo:kjo:=ɲi u-tan=do:.

1.PL.EXCL 目下の男=TOP 去年=LMT 東京=DAT/LOC 居る-PST=ASS

「うちの子は去年まで東京にいたよ。」

- (57) sima=pe: itsu=gari ur-ari:=jo.

島=DAT/LOC.TOP いつ=LMT 居る-POT=WHQ

「島にはいつまでいられるの?」

- (58) wanna: inasa-i:=gare: p^hansu:+binto: k^ham-ju-tan=do:.

1.PL.EXCL 小さい-NMLZ=LMT さつまいも+弁当 食べる-HAB-PST=ASS

「私の小さいころまでは、さつまいも弁当を食べていたよ。」

以下に共格=nu の例文を示す。

- (59) mukasje: ju: t^hakasi=tu se: num-ju-tan=do:.

昔.TOP よく タカシ=COM 酒 飲む-HAB-PST=ASS

「昔はよくタカシと酒を飲んでいたよ。」

- (60) t^homoko=tu naoko: dusi=do:.

トモコ=COM ナオコ.TOP 友=ASS

「トモコとナオコは友達だ。」

- (61) wa:+kuruma: t^hakasi=nu mun=tu {jin/tits^u}+mun=do:.

1.SG.POSS車.TOP タカシ=GEN もの=COM 同じ/一つ+もの=ASS

「私の車はタカシのと同じだ。」

- (62) ho:-i+mun si mudu-i:=pi t^hakasi={tu /=pi}

買う-INF+もの する.SEQ 戻る-NMLZ=DAT/LOC タカシ={COM/=DAT/LOC}

o:-tan=do:.

会う-PST1=ASS

「買い物して、帰りにタカシに会ったよ」

- (63) t^homoko: okka {=tu/=pi} ju: ji-t^heu-so:.

トモコ.TOP お母さん={COM/=DAT/LOC} よく 似る-PROG.NPST-EXCLAM

「トモコはお母さんによく似ているなあ」

- (64) t^hakasje: t^haru=tu=mu jumita si-ra: .

タカシ.TOP 誰=COM=ADD 話 する-NEG.NPST

「タカシは誰とも話をしない。」

以下に比較格=nu の例文を示す。

- (65) $\text{t}^{\text{h}}\text{erebj}i=\widehat{\text{d}}\text{zi}$ $\text{mjij-un}=\text{jukka}$ $\text{kjura-ku}=\widehat{\text{d}}\text{zaso:}$.
 テレビ=LOC/INST 見る-NPST=CMPR きれい-CMPR =COP.NPST.EXCLAM
 「テレビで見るよりきれいだな。」
- (66) $\text{akk-a}=\text{jukka}$ kuruma nu-e: $\text{k}^{\text{h}}\widehat{\text{atei}}$.
 歩く-INT=CMPR 車 乗る-INF.TOP よりよい
 「歩くより、車に乗るほうがいい。」
- (67) hun $\text{p}^{\text{h}}\text{o:}\widehat{\text{tea:}}=\text{ja}$ me: ka-tu-ta-n $\text{mun}=\text{jukka}$ kjiri-jun-ku
 この 包丁=TOP 前 使う-PROG-PST-NMLZ もの=CMPR 切る-NPST-CMPR
 $\text{a-i}=\text{ja:}$.
 STV-NPST=STV
 「この包丁は前使っていたのよりよく切れるな。」
- (68) $\text{t}^{\text{h}}\text{akasje:}$ $\text{hirosi}=\text{jukka}$ $\text{t}^{\text{h}}\text{e:}=\text{nu}$ $\text{t}^{\text{h}}\text{a:}=\text{sa}$.
 タカシ.TOP ヒロシ=CMPR 背丈=NOM1 高い-ADV.NPST
 「タカシはヒロシより背が高い。」

以下に主題助詞=ja 及び焦点助詞=du の例を示す。主題助詞=ja は短母音に後続する場合融合して実現する。対照主題の場合は主格=ŋa と共起しうるが、それ以外の場合は共起せず主題助詞のみが現れる。

- (69) $\text{t}^{\text{h}}\text{akasje:}$ $\text{t}^{\text{h}}\text{omoko}=\text{jo:baut-t}^{\text{h}}\widehat{\text{ei}}=\text{na?}$ — a:i $\text{hirosi}=\text{du}$ $\text{ut-t}^{\text{h}}\widehat{\text{ean}}=\text{do:}$.
 タカシ.TOP トモコ(=ACC)打つ-PST2=YNQ いいや ヒロシ=FOC 打つ-PST1=ASS
 「タカシはトモコをぶったの？—いいやヒロシをぶったよ。」
- (70) $\text{wa}=\text{ŋa:}$ ar-a: $\text{t}^{\text{h}}\text{akasi}=\text{ŋa}$ $\widehat{\text{tsukkwa-ti}}=\text{do:}$.
 .SG=NOM1.TOP COP-NEG タカシ=NOM1 割る-PST=ASS
 「私がじゃなくてタカシが割ったよ」

- (71) k^hju:=ja hirosi=ŋa k^hju:-su=na?
 今日=TOP ヒロシ=NOM1 来る.NPST-NMLZ=YNQ
 — a:i t^hakasi(=ŋa)=du k^hjun=do:.
 いいや タカシ(=NOM1)=FOC 来る.NPST=ASS
 「今日はヒロシが来るの?—いいやタカシが来るよ。」

以下に添加助詞=mu の例を示す。

- (72) t^hakasi=mu hirosi=mu sima=kai mudu-ti t^hεun=do:.
 タカシ=ADD ヒロシ=ADD 島=ALL1 戻る-SEQ 来る.PROG.NPST=ASS
 「タカシもヒロシも島に帰ってきているよ。」
- (73) t^hakasje: t^haru=tu=mu jumita si-ra:.
 タカシ.TOP 誰=COM=ADD 話 する-NEG.NPST
 「タカシは誰とも話をしない。」
- (74) k^hju:=ja t^ha:+ja:=d̥zi=mu numjikai ssun=nessu-i.
 今日=TOP 誰.SG.POSS+家=LOC/INST=ADD 飲み会 する.PROG.NPST=みたいだ-NPST
 「今日は誰の家でも飲み会をしているみたいだ。」
- (75) hutabje: p^hjitt̃ei:=mu jasum-an=nen p^hatara-t̃εan=do:.
 今年.TOP 一日=ADD 休む-NEG.NPST=ように 働く -PST1=ASS
 「今年は一日も休まずに働いたよ」
- (76) an t̃εo: ja: sima+t̃εu=mu jin+mun=d̥za.
 あの 人.TOP もう 島+人=ADD 同じ+もの=COP
 「あの人はもう島の人も同然だ。」

以下に曖昧、限定の助詞=be:の例を示す。

- (77) hun hasa:mut̃tei: siko:-e: ikka=be: k^ha:-ti=jo?
 この ハサームッチー 作る-NMLZ.TOP 幾日=例示 掛かる-PST2=WHQ
 「このハサームッチーをつくるのに何日ぐらいかかった」

- (78) an adzi=ja mago:=ŋa o:dzi-ran-su=mi:
 あの おじいさん=TOP 孫=NOM 少ない-NEG-NMLZ=SFP
 — mago:=be: a-ra: matamago:=madi un=do:
 孫=限定 COP-NEG ひ孫=ADD 居る.NPST=ASS
 「あのおじいさんは孫が多いでしょ？—孫だけじゃなく、ひ孫までいるよ。」

最後に=(t)teiba (「~とは」)、=kusa (「こそ」)、=se: (「さえ」、条件節中)、teo: (「さえ」、否定文中) の例を示す。

- (79) t^hakasi=teiba hirosi=nu uttu:=na?
 タカシ=とは ヒロシ=GEN 目下のきょうだい=YNQ
 「タカシってヒロシの弟？」

- (80) suma:=ja: — a:i wan=kusa suma:=ja:
 すむ-NEG.NPST=SFP — いや 1.SG=こそ すむ-NEG.NPST=SFP
 「すまないね — いや、私のほうこそすまないね。」

- (81) se:=se: a-riba nu:=mu ij-a:.
 酒=さえ ある-COND 何=ADD 要る-NEG.NPST
 「酒さえあれば何もいない。」

- (82) an^hteo: ja: do:mo: ssi du:+namai=teo:=mu
 あの 人.TOP 耄碌(老耄)する.SEQ REFL.SG.POSS+名前=さえ 2=ADD
 ij-ar-an=ti:=do:.
 言う-PASS-NEG.NPST=REP=SFP
 「あの人はもうろくして自分の名前さえも言えないそうだよ」

- (83) hun hasa:muttei: siko:-e: ikka=be: k^ha:-ti=jo?
 この ハサームッチー 作る-NMLZ.TOP 幾日=APPR 掛かる-PST2=WHQ
 「このハサームッチーをつくるのに何日ぐらいかかった？」

- (84) inŋa:=do: maja:=do: gaba u-i.
 犬=APPR 猫=APPR たくさん 居る-NPST
 「犬やら猫やらたくさんいる。」

付録

以下、付録として、民謡「七つの子」（野口雨情作曲、本居長世作詞）、「とおりゃんせ」、詩「雨ニモマケズ」（宮沢賢治作）を小野津方言で表したもの（音素表記と共通語訳）を提示する。なお、方言に訳しやすいように一部改めた部分がある。

● 「七つの子」

garasa: nuŋa nakjuso: garasa:ja jama=pi

カラス なぜ 鳴くの カラスは 山に

hanasan nanats̥u=nu kwa=ŋa un=nati=do

かわいい 七つの 子が いるからだよ:

hanasa hanasan̄tei garasa:=ja nakjusu=do:

かわいい かわいいと カラスは 鳴くんだよ

hanasa hanasan̄tei nakjusu=do:=jo

かわいい かわいいと 鳴くんだよ

jama=nu su:=kaiid̄zi mjitei mi:

山の 巣へ 行って 見てごらん

mammaru mi: ssanu jukakkwa=do:=jo

まんまる 目をした いい子だよ

● 「とおりゃんせ」

th̥u:inph̥jo:ri th̥u:inph̥jo:ri

通りなさい 通りなさい

huma: d̄za:=nu iba+mjitei:=jo

ここは どの 細道？

th̥end̄zinsama=nu iba+mjitei:=do:

天神さまの 細道だよ

ittukji th̥u:tei th̥abo:ran=na?

少しの間 通して くだらないか

ju:dzu=nu nen teo: tʰu:sara:

用事の ない 人は 通せない

hun kwa=nu nanatsun+ju:we:=:ni

この 子の 七つの祝いに

pʰuda=jo:ba usamijna ikji=ded=do:

札を 納めに 行くのですよ

ikje: jutasan=ŋa mudue: utussa

行きは よいが 戻りは 恐い

utussa ati=mu tʰu:inpʰo:ri tʰu:inpʰo:ri

恐くても 通りなさい 通りなさい

● 「雨ニモマケズ」

ami=pi=mu makjiran=nen hadzi=pi=mu makjiran=nen

雨にも 負けず 風にも 負けず

jukji=pi=mu natsu=nu attea=pi=mu makiran teusanu kʰarada ssi

雪にも 夏の 暑さにも 負けない 強い 体をして

juko: ne: kʰjassissi=mu butiran=nen

欲は なく 何があっても 怒らず

itsumu mikka ssi ikati ui

いつも 静かにして 笑って いる

pʰittei=pi namatsukji+humi: siggo:=tu misu=tu nai=nu jase: kʰadi

一日に 玄米 四合と 味噌と 少しの 野菜を 食べ

nu:hin+kʰutu=jo:ba du:+kʰutu kʰanŋe:ran=nen si

あらゆることを 自分のことを 考えずにして

ju: miteai kiitei ssi wakati assissi wassiran=nen

よく 見たり 聞いたり してきし 分かって そして 忘れず
 p^haru=nu matsu+jama=nu hapi=nu ina:sanu gaja+ja-n-kwa:=pi u-ti
 野原の 松林の 陰の 小さな 萱ぶきの小屋に いて

aŋari-n+ja:=pi jadun kwa=ŋa uriba idzi o:re: ssi
 北東隣りの家に 病気の 子供が いれば 行って 看病 して

p^he-n+ja:=pi daritunu okka=ŋa urib
 南西隣りの家に 疲れている お母さんが いれば

idzi huŋŋa ipi-n+t^haba:=jo:ba hakkiti
 行って 彼女の 稲の束を 背負って

wi-n+ja:=pi sinka:ritunu teu=ŋa uriba
 南東隣りの家に 死にそうな 人が いれば
 t^hamagarantimu k^hja:mu nen=do:=tfei itei
 怖がらなくても 大丈夫だと 言い

sa-n+ja: pi sikkji=do: uttaigutu=ŋa ariba
 北西隣りの家に 喧嘩やら 訴訟が あれば

nu:=mu naran=nati jamiri=tfei itei
 何にも ならないから やめろと 言って

p^hjidui=n+dukje: nada t^haratei p^hji:san natso: t^hadaattei
 日照りの時は 涙を 流して 寒い 夏は ただ 歩いて

hippa=pi ju:p^haran+munu:=tfei ijatti
 みんなに 役立たずと 言われて

humirari=mu sira: dzama+mun=pi=mu sirara:
 褒められも せず 邪魔者にも されない

assan teu=pi wano: naibusa
 そういう 人に 私は になりたい

グロス一覧

1	first person	一人称	LNK	linnker	連結辞
2	second person	二人称	LOC/INST	locative/instrumental	所具格
ABL	ablative	奪格	NEG	negative	否定
ACC	accusative	対格	NMLZ	nominalizer	名詞化
ADD	additive	添加	NOM	nominative	主格
ADJ	adjectivizer	形容詞化	NPST	non-past	非過去
AND	adnominal	連体	OMP	onomatope	オノマトペ
ADV	adverbializer	副詞化	PL	plural	複数
ALL	allative	方向格	PASS	passive	受身
APPR	approximative	曖昧	PL	plural	複数
ASS	assertive	断定	POL	polite	丁寧
CAUS	causative	使役	POSS	possessive	所有
CMPR	comparative	比較格	POT	potential	可能
COM	comitative	共格	PROG	progressive	進行
COND	conditional	条件	PROH	prohibitive	禁止
COP	copula	コピュラ	PST	past	過去
CSL	causal	理由	Q	question	疑問
DAT/LOC	datlocive/locative	与所格	REC	recitation	列举
DES	desiderative	願望	RED	reduplication	重複
EXCL	exclusive	除外	REFL	reflexive	再帰代名詞
EXCLAM	exclamative	感嘆	REP	reportative	伝聞
FOC	focus	焦点	SEQ	sequential	継起
GEN	genitive	属格	SFP	sentence final particle	文末助詞
HAB	habitual	習慣	SG	singular	単数
HOR	hortative	勧誘	SIM	simultaneous	同時
IMP	imperative	命令	TOP	topic	主題
INCL	inclusive	包括	WHQ	wh question	疑問詞疑問
INDEF	indefinitizer	不定化	YNQ	yes-no question	真偽疑問
INF	infinitive	不定形	-		接辞境界
INST	instrumental	具格	=		接語境界
INT	intentional	意志	+		複合語境界
INT/HOR	intentional/hortative	意志/勧誘	~		重複境界
LMT	limitative	限界格	<.>		借用語

参考文献一覧

- 上村幸雄（1972）「琉球方言入門」『言語生活』251: 20-37.
- （1992）「琉球列島の言語（総説）」亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典世界言語編下2』771-814. 東京：三省堂.
- 大野眞男（2002）「奄美方言における中舌母音の歴史的重層性」『国語研究』41: 78-69.
- （2003）「北奄美周辺方言の音韻の特徴」『岩手大学教育学部研究年報』63: 51-70.
- 木部暢子（2011）「喜界島方言の音韻」木部暢子・窪菌晴夫・下地賀代子・ローレンス ウェイン・松森晶子・竹田晃子著『国立国語研究所共同研究報告 11-01 消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 喜界島方言調査報告書』12-50. 東京：国立国語研究所.
- （2012）「奄美喜界島方言の母音の特徴について」『国語研プロジェクトレビュー』3(1): 3-14
- 中本正智（1976）『琉球方言の音韻』東京：法政大学出版局.
- 服部四郎（1959）『日本語の系統』東京：岩波書店.
- 平山輝男・大島一郎・中本正智（1966）『琉球方言の総合的研究』東京：明治書院.
- 松本幹男（2000）「沖永良部島方言と喜界島方言における中舌母音について」『語学研究』95: 169-173.

奄美語（大島南部方言）の社会言語学的状況と その言語的特徴

奄美語（大島南部方言）の社会言語学的状況とその言語的特徴

前田達朗（東京外国語大学）¹

讃井綾香（大阪大学）²

0. はじめに

ここで奄美語の大島南部方言とするのは、SIL の Amami-Oshima, Southern とされているものと理解している。奄美大島はその人口分布や旧来の共同体から考えると、旧名瀬市、笠利町、龍郷町で構成される北部と、大和村、宇検村、旧住用町で構成される中部、そして瀬戸内町の南部と分けられるだろう。現在でこそ道路の整備でこれらの地域の行き来は簡単になっているが、山がちで海岸線も複雑な地形は、かつては同じ島の中とはいえ海路以外での往来を妨げていたことは間違いない。

ユネスコの危機言語地図では Amami と一言語にされた奄美語であるが、人口が集中する北部についての研究とその成果は比較的豊富である一方で、中南部についてはまとまった研究成果は数が少ない。宇検村湯湾方言についての新永(2014)³、瀬戸内の諸方言についての真田ほか(2006)⁴などの研究をあげておく。

今回の調査では当初「加計呂麻島」が調査地点として指示されていたが、今回の調査では改めて「大島南部」とした。その理由を含めて瀬戸内町をその調査範囲とした理由を述べることから奄美語大島南部方言について述べる手がかりとする。また同じ「琉球（諸）語圏」とされることはあっても、沖縄県域と大きく違う奄美のことばをめぐる状況についても特に述べておく必要があると考えている。

本報告の目的は、①奄美語をめぐる社会言語学的状況の概括と②調査において見られた大島南部方言の特徴の指摘、である。

1 奄美語の社会言語学的状況

1-1 本調査の調査範囲瀬戸内町と大島内部での位置づけ

「はじめに」で述べたように、奄美大島内部は北部、南部、中部と分けられるのであるが、中部とした二つの村のうち、大和村は名瀬との結びつきが強く、宇検村を南とした、南北二つに分けられることもある。しかしどちらもなんらかの行政的な根拠があるわけではなく、首都とも呼べる名瀬から見たときには、瀬戸内町の中心地である古仁屋近辺を象徴として「南」とする感覚も存在する。名瀬から古仁屋までの距離はおおよそ 50 キロとされているが、トンネルが整備されるにつれ所要時間は短くなり、この 10 年でおおよそ 20 分短縮されて、自動車でも 1 時間未満の移動である。しかしいわゆる「ストロー現象」がおり、古仁屋の機能は縮小され、名瀬への一極集中が起きている。

瀬戸内町は「復帰」直後の 1955 年のいわゆる「昭和の大合併」で現在の行政区域となる。町村制の導入は 1908 年を待たなければならなかったが、古仁屋町、西方村、実久（さねく）村、鎮西村が

¹ 東京外国語大学 国際日本研究院准教授

² 大阪大学大学院 言語文化研究科博士課程

³ 新永悠人 2014 「北琉球奄美大島湯湾方言の動詞形態論」

⁴ 真田信治ほか 2006 『薩南諸島におけるネオ方言（中間方言）の実態調査』

合併前最後の行政区であるが、東方村が 1936 年に古仁屋町になったため、古仁屋以外の旧東方村を指して今でも東方と呼ぶことがある。合併前の旧村が今でも強く意識されている。この地域的なつながりに説明を割くのは、この旧村が行き来の日常的にある範囲であるからだ。合併以前を知る高齢者だけでなくその下の世代にも引き継がれている。240 km²の面積（大阪市域とほぼ同じ）におよそ 9000 人程度の人口で、そのうちの 7000 人ほどが古仁屋とその周辺に集中するという偏りは、より地域性を意識させることと、古仁屋にいかにつながるかを考えることにつながっている。旧村のうち古仁屋、西方が奄美大島に位置するが、西方のうちでも古仁屋に近い集落がなんとか人口と本来持っていた機能を保っている。加計呂麻のうちでも古仁屋と渡船で 15 分の距離にあるのは鎮西村側であり、教育・医療・流通などを大島側に依存しながらもなんとか集落を維持している。加計呂麻島のうち移動を制限する山地を挟んで大島と反対側と、請島、与路島が旧の実久村であり、より過疎化がすすんでいる。加計呂麻の南側、つまり旧実久村側には定期船は通わず日に数本のバスだけが自動車を運転しない高齢者の移動手段である。

こうした地形による往来の制限と近代以降の行政区の変化が、いまま集落同士の切り・結びに関わっている。そしてそのことと言語のバラエティは人々の意識の中で結びついている。「シマごとの違い」が強調されるのはこうした背景がある。「どこのシマの出身かはアクセントでわかる」という言説はいまだ生き続けている。⁵

こうした社会言語学的背景から、島としての加計呂麻を取り出す意義はないと判断し、大島最南部と加計呂麻、請、与路にまたがる現瀬戸内町域を「奄美大島南部」としたのはこういった理由がある。かつての間切をもとにした集落共同体とその集まりは、薩摩時代も支配のために利用され、後述するが近代化以降も続いた鹿児島による支配と施策が集落共同体とその生活、そして生活言語の維持に大きく関わったことは想像できる。

1-2 奄美と奄美語の歴史的背景

この節では他の琉球(諸)語地域、すなわち沖縄県域との差異を中心に述べていく。言語的な近似性はいうまでもない。しかし近世以降の奄美と沖縄の歴史はもちろん重なり合いながらも異なり、それは今に続いている。言うまでもなく、薩摩・鹿児島島の支配が 17 世紀以来続いていることがそれらの異同と深く関わっている。

1609 年の琉球への薩摩の軍事侵攻の結果、与論以北の奄美群島は薩摩藩の直轄植民地となる。琉球王国時代の沖縄の農民に対する「二重支配」も苛烈であったが、薩摩藩直接のサトウキビのモノカルチャー、「換糖上納制」もそれに勝るとも劣らぬ残忍さをもって人々に記憶されている。ノルマの過酷さと耕地面積の制限から島民の食料生産は最低限に抑制され、天候不良などで簡単に飢饉に陥った。「ソテツ地獄」として語られる貧しさと飢えの記憶は、薩摩支配とほぼ同意で、いまもなお語られる。

また「ヤンチュ（家人）」と呼ばれ、幕末期には総人口の 20~30%に達したと言われる債務奴隷の存在も、奄美の植民地期の過酷さの象徴の一つであろう。明治維新に薩摩が軍事集団として大きな役割を果たせた原資は、植民地奄美の黒糖であったといえる。差別的な施策がとられ今に至る奄美人への

⁵ 地域には「シマグチ名人」と呼ばれる人がなんにんかおり、出身集落がわかるということになっているが、多くの場合人間関係が濃密であり特に都市化した古仁屋ではどこの集落出身かということが、日常的にとりざたされており、ことばだけが手がかりかどうかは不明である。

まなざしがこの頃に形成されたことも間違いない。

明治期になっても鹿児島が奄美の黒糖の独占は続き、国庫補助金を「県本土」に集中させるための「独立採算制」がひかれた。サトウキビ栽培と製糖に極端に偏った産業構造が 1920 年代初頭の「糖価暴落」の打撃をうける。そもそもが経済規模や生産から余剰人口・余剰労働力がある中での窮地であった。そして当時まさに朝鮮半島と沖縄から最大の工業生産高を誇り安価な労働力を大量に必要としていた阪神工業地帯への航路が開かれ、奄美もその航路上にあった。

この「移民」が奄美語の言語状況に大きな影響を与えることになる過程は、沖縄のそれと酷似している。「本土」「内地」あるいは「外地」への移動を経験することで、自分たちが「日本」の枠組みの中でどのような位置にあり、自分たちのことばがどれほど「日本語」とされるものから距離があるのかに気づく。

そして差別的な扱いを受ける原因の多くを自分たちの母語に求めることになる。

さらに方言排斥の象徴的な出来事である教育現場での「方言矯正」は奄美でも見られた。方言札の記憶は共通していると言えよう。しかし、奄美の場合は鹿児島の教育行政の支配を受けていたという点で沖縄とは異なる。鹿児島でも、鹿児島方言は戦中戦後を通じて強制すべき対象だと考えられてきた。特に戦中の「標準語励行」期には組織的な方言矯正をすすめた。その力が奄美にも及んだと考えられるだろう。日本の敗戦後、琉球列島全域が米軍統治下に置かれたが、早くから沖縄との分離復帰が唱えられていた。その際に自分たちの「日本人性」を主張する手段は、自分たちは沖縄ではないと主張することであり、そのためにも奄美語は捨て去るべきものであった。「本土復帰運動」の時期もまた方言排斥のひとつのピークであった。

移民と学校現場での方言矯正という経験では沖縄と奄美は現象面では共通しているように見えるが、薩摩・鹿児島との関係に規定されていくという背景を持つ点で現在に至るまで大きく異なるのである。

1-3 言語状況と伝承活動

1974 年の「奄美大島総合社会教育研究大会」で初めて「方言の尊重」が議題になった。これは全国的な趨勢でもあった。教師によっては「努力目標」として方言をできるだけ使わないという形で生き残りをはかった。が、70 年代半ばには特別の場合をのぞき子どもたちに奄美語の能力が無くなり、矯正する必要がなくなったとも言えよう。このことから「ネイティブ世代」といえるのは現在の 60 代以上と推測される。琉球列島全域に共通する現象であろう。そして尊重されるべき「シマグチ」の継承は途絶していた。さらに「方言は役に立たないもの」という言語意識は教育の成果として徹底されており、後述する子ども向けの「シマグチ」教室を開催する際に反対したのは子どもたちの親だった。使うなといわれ、罰まで与えられた経験を持つ中年以上の世代にとっては受け入れられないものであった。

瀬戸内町についていえば 10 年近くたった 80 年代半ば、公民館で教室が開かれるまで、「シマグチ」が教えられるということはなかった。これらのことを考えると尊重されているというよりも、ようやくシマグチが消えていく可能性があるということが認識されたということだと言える。

古仁屋にある中央公民館を中心に大島、加計呂間島、諸島、与路島の 41 の集落に分館があった。公民館は「文化の中心」とされ、存在意義は住民の中で大きく、郵便局、学校とともに公民館があることで「一人前の集落」と考えられている。2000 年代半ばまで子ども向けの「シマグチ教室」は 18 の公民館で行われていた。しかし「受け手」である子どもの数の減少、社会教育予算の削減などが契機となって、すべての集落でかつて行われていた伝承活動は途絶えている。子ども向けのプログラ

ムに「シマウタ教室」があるが、この活動がいま奄美語の唯一のてがかりと言えよう。教え手が高齢者、受け手が子どもという構図からも抜け出せずにいるが、たとえば集落の行事でネイティブ世代の下の中年層にシマグチの能力がないために、開催や進行に支障が出ている事例が散見される。

こういった伝承活動が停滞する中「子ども島口大会」は、1994年に第一回大会が開かれ現在も続いている。子どもだけを対象としたシマグチの催しとしては奄美で唯一のものであったが、「島口」だけでの大会の維持は難しく、名瀬での「弁論大会」が「芸能大会」へと形を変えたのと同様に 2006 年度から「子ども島口・伝統芸能大会」へと名称を変えた。学校ごとの代表が出場することになっているが、全ての学校が代表を送っているわけではない。シマグチを指導できる教員が学校にはいないために、前述のように教え手を地域の老人に頼らざるを得ないと言う事情があるためだ。当初は学校で教えようと試みられたらしいが、地域への依存度が高くなっている。そして「大会のための練習」に現在ではとどまっており、継続的、組織的な伝承活動が望めない状況が続いている。

2. 調査項目について

今回の調査では共通の調査項目を求められたため、それに従い下記の要領で調査を行った。

調査期間 2016 年 1 月 21~27 日

調査地点 鹿児島県大島郡瀬戸内町 古仁屋、篠川、俵、瀬相集落

調査協力者の概要

A I.K 氏男性 1930 年大連生まれ。1945~1953 俵、古仁屋。1953~1988 大阪。
1988~俵

B U.S 氏男性 1929 年俵生まれ。内地に 20 年程度の居住歴あり（詳細不明）

C H.S 氏 1938 年 篠川生まれ。移住歴なし。

2-1 調査項目と記録

調査項目については、かりまた・しげひさによる「名護市幸喜方言の名詞の格＝とりたての形」の調査票に倣った。25 については「茶毘にする」ことが奄美でも火葬の習慣が長くなかったため、「吊いをする」に変えた。日本語文をカードに書き、その場で発話してもらうという方式をとった。以下その記録である。

1. 東の空が鳴ると、大風が吹く

- (A) $\text{çiJanuu soraga naruba tep nuu } \phi ucuuru$
- (B) $\text{koteino soraga narjunteicijn:a o:kazega } \phi ucuuddo$
- (C) $\text{çiJanuu nabbaja tepdo}$

2. シュロの皮をはいで、「もっこ」を作る

- (A) $\text{eurunono kurwo hadzi mokko ticiirjuu}$
- (B) $\text{eurunono kawa hadzi mokko tikurjuu}$
- (C) $\text{tikuno ko: hadzi mokko ticiirjuu}$

3. 暑いから、氷がほしい

- (A) $\text{itea:sanjkara ko:ri } \phi uea$

- (B) itea:san̄kara ko:r̄iga nuŋŋuea
(C) itea:san̄ ko:r̄iga φueaja:
4. おまへの着物が引き裂けて、破れている
(A) ura cin̄nuu çicisakareturru
(B) ura cin̄ çiksəhə:te jaburetuuddo
(C) ura:cina çicisake:te jaburetusuka
5. 段取りをするので、四五日貸しておいてくれ
(A) dandori eunkara eigonitei karateikuriri
(B) tikubari eunkara eigonteï karateitikuriri
(C) tikubari eunnati(eunkara/eiccuunkaran̄) eigonteï karateukuri
6. 去年妹は、中学の先生になった
(A) kuudu unaŋja teu:gakko:no sense:ni nata(do)
(B) kuudu imo:toja teu:gakko:no sense:ni natado
(C) kuudu imo:toja gakkono sense:ni natta
7. 校長先生が、バスから降りてきた
(A) ko:teo:sense:ga basuhara urititt̄ea
(B) ko:teo:sense:ga basuhara oritecit̄ea
(C) koteonse:ga basukara urititt̄ea
8. 花子の顔は、おばあさんによく似ている
(A) hanakono kaoja amman̄ dziciteiba niteurru
(B) hanakono kaoja ammani jokuu niteuuddo
(C) hanakono kaoja oba:sanni dzi:fi niteurru(ja)
9. 車が飛び出してきた
(A) kuurumanu tubidacit̄tei
(B) kuurumanu tobidadzittean̄
(C) kuurumaga tadaidziteit̄ea
10. かず子の布団が、屋根の上に、干してある
(A) kazuikono φutuŋga janenu uenan̄ φuteinan̄
(B) kazuikono φuton̄ janeno unan̄ φuteijaddo
(C) kazuiko: φuton̄ga janenu unan̄ φusatteoru
11. 太郎はじいさんにしかられた
(A) taro:ja dzuun̄ tatarata

- (B) taro:ja dzu:ni jattuuttado
(C) taro:ja dzi:sanno i:kusatta
12. 鼻にごはん粒がついている
(A) hananan meeitebunui çitçuurui
(B) hananan meeitsubuno tsusjuussa
(C) hananan meeitsubuno tsujorui
13. 花子は、顔がおばあさんに似ている
(A) hanakoja kaoga ?amman niteuurui (niteuuddo)
(B) hanakoja tirano ba:teanni(ammami) niteuuddo
(C) hanakoja kaoba oba:sanni niteu:ruu
14. 太郎は去年から東京にいる
(A) taro:ja kuuduhara to:co:nan orui
(B) taro:ja kuudu:hara to:conan oddo
(C) taro:ja kuuduhara to:co:nan orui
15. 太郎は八月に帰ってくる
(A) taro:ja hateigatin mudo:ticuurui
(B) taro:ja hateigwatunpa modo:ticuuddo
(C) taro:ja hatigwatuniwa modotticijorui
16. 役場に行ってくれ
(A) jakubahatei idzikuriri
(B) jakubahatei idzikuriri
(C) jakubahatei idziteikuriri
17. それをおれに渡せ
(A) uruba wanun watasi
(B) urja wanumaha watasi(kanjarasi)
(C) ũi wani jarasi
18. うちの玄関は東向きだ
(A) wa:ca ja:nui genkanna çigja muukido
(B) ja:nui genkwanna kotei muukido
(C) ja:nui genkwanna çigaei muukudo
19. 太郎はものさしで次郎をたたいた
(A) taro:ja monosaei dziro:(ba) uttea

- (B) taro:ja monosaei d_ziro:ba utteaddo
 (C) taro:ja monosaei d_ziro:ba cu: d_za(uttea)
20. 車で行くよりバスの方がいい
 (A) kuurumaei icum çimma basuno ho:ga i:do(itteaddo)
 (B) kuurumaei icummun ikka basudtu itteaddo
 (C) kuuruməka icikkwa: basude iteān
21. 次郎は紙でこいのぼりを作った
 (A) d_ziro:wa kamiei koinoboriba tikita
 (B) d_ziro:ja kamiei koinoboriba tikita
 (C) d_ziro:ja kaŋei koinobori tikitam
22. 花子は昨日から病気で寝ている
 (A) hanakojā cijnuhara bjokuēi nepturuu
 (B) hanako cijnū:hara bjokuēi neputundo
 (C) hanakojā cijnuhara guwaino waru:te nepturuu
23. 学校に早く行った
 (A) gakkohatei he:ki idza:
 (B) gwakohaei həkitei
 (C) gwakwohateuasai idza:
24. この上着は、東京で二千円で買った
 (A) kuun uwaŋja to:co:nanti nisēnei ko:ta
 (B) kuun uwaŋja to:co:nanti nisēnei ko:tado
 (C) kuun ŋuukuja to:co:nanti nisēnei ko:ta
25. 祖母が亡くなったから、今日弔いをする
 (A) ammaga umorangutunnatan cu: so:ēici euuddo (euuru)
 (B) ammaga mo:ricattahara cu: kujamieuddo
 (C) ammaga mo:ricankaran cu:nanti tomo:suramba
26. 花子がアメリカから今日来る
 (A) hanakojā amerikahara cu: cuuru
 (B) hanakojā amerikahara cu: cuuddo
 (C) hanakojā amerikakara cu: cu:ru
27. わたしたちはわからないので、あのひとたちから習う
 (A) wacaja wakarākaran anteuncahara naro:

- (B) wa:caja wakan̄kara ant̄euncahara nare:
 (C) waca: wakan̄karan̄ ant̄euncahara cico:

28. 焼酎はサトウキビから作る

- (A) eo:teuja (seheja) stahara (staci) tikiɾjuu
 (B) sehəgwaja ugi hara(eiru) ticiɾjuu
 (C) sehəja(eo:teuja) sta ei(hara) tikiɾjuu

29. 畑の中をイヌが歩いている

- (A) hate:no na:ba innu at̄teuruu
 (B) atehenu nahaba innu at̄teuruu
 (C) atehen nahaba innu at̄teuruu

30. 家の隙間から、風がはいる

- (A) ja:nuu suCIMahara kazenu it̄teicuɾuu
 (B) jana:tei kazenu it̄teicuɾdu
 (C) ja:nuu e:dahara kazenu(kazega) it̄tei

31. 荷物を、バス停まで、かついで行け

- (A) nimotsuba basute:gadi katamiti ici
 (B) nimotuba basuteimade katamuɾi ici
 (C) nimotuba basute:gadi katamuɾi ici

32. 明日まで待っておれ

- (A) at̄tea:gadi mat̄teori
 (B) at̄tea:gade mat̄teore
 (C) at̄tea:gadi mat̄teore

33. ひろえばあさんまでは、入れ墨（はぢち）を してあった

- (A) ɕiroeba:sangadija hadeciba ei:jattado
 (B)
 (C) ɕiroeba:sangadija hadici ɕi:jata

34. 花子のかず子と、仲がよい

- (A) hanakoja kazuikotuu nakaga it̄tea
 (B) hanakoja kazuikoto i:duu euɾdu
 (C) hanakoto kazuikotja dzikka nakano it̄teaddo

35. 昨日友達とあそんだ

- (A) ciɾuu: duɾei asuda

(B) cijnu: dueitu asudado

(C) cijnu: dueito adda

36. 君らとは家が近所だな

(A) ura:catuja ja:ga teicasan

(B) uracatuja ja:ga teicasancinne

(C) ura:toja jaga teicasareja

37. この魚は、天ぷらよりも刺身がうまい

(A) ku:n juu:ja tempura çim:a saeimidu ma:sa

(B) ku:n juu:ja tempura (e)ikka saeimidu ma:saddo

(C) ku:n tempura ikka saeimidu ma:san

38. おまえはこの魚の名前を知っているか？

(A) uraja ku:n juu:nu na:ba eitteunja

(B) uraja un juu:nu namaeba eitteunja

(C) uraja ku:n juunu na: eitteunja

39. 母さんも、風邪をひいている

(A) ammagadi kaze(ba) çiteuru(çiteuddo)

(B) ammam kazeba hiteuddo

(C) hokka teiba kaze: çiteuru

40. 八月踊りのときは、小さな子どもまで踊った

(A) hateigatsuuudurinuu tucca insan kwancagadi udu:ta

(B) hateigatsuuudurinuu tucinja inasan kwancagadi uduuru

(C) hatigwatuunnuu tucina i:ناسangwancagadi uduuttuta

41. 豚の声が聞こえるが、豚がいるのだろうか？

(A) wa:nuu kui:nuu cicattuska wa:ga ʔummuundaro:ka

(B) wa:nuu kuenuu cicadusuga wa:nuu urjuukai

(C) wa:nuu kui:nuu eu wa:nuu uruŋkaja

42. むだにかつかわない道具ばかり 集めてある

(A) mudani tskon dogubəhər atimeteaŋ

(B) numkuəa dogubehe atumeteru

(C) ammari tsuikon dogu atumetearu

43. 次郎は、家屋敷まで売ってしまった

(A) dʒi:ro:ja ja:jaeici gadi utieimoti

- (B) ja:jaeici gadi utado
 (C) dziro:ja ja:jaeici gadi utijaruba

2-2 音節構造

音節構造における特徴として、以下の(1)に示すように、子音のみでモーラを成すことがあげられる。

- (1) [ura cin ɕiksəhə:te jabuuretuuddo]
 おまえの着物が引き裂けて、破れている。

2-3 子音

子音音素として /p, t, k, b, d, g, m, n, r, h, s, z, ɕ/ が立てられる。実際に観察される音声との対応は以下のようになる。

[p] (/p/)	[t] (/t/)	[c] (/k/)	[k] (/k/)
[b] (/b/)	[d] (/d/)	[ɟ] (/g/)	[g] (/g/)
[m] (/m/)	[n] (/n/)	[ɲ] (/n/)	[ŋ] (/n/)
	[r] (/r/)		
[ɸ] (/h/)	[s] (/s/)	[ɕ] (/h/)	[h] (/h/)
	[z] (/z/)		
	[tɕ] (/c/)		
	[dz] (/z/)		

2-4 母音

中舌母音 [ɪ], [ə] を含む [i, ɪ, e, ə, a, o, u] が観察される。しかし、中舌母音の表出頻度には以下の(2a), (2b)に示すように個人差がある。

- (2a) [seheja stahara tikiɾju]

焼酎は砂糖から作る。

- (2b) [sehəja stahara tikiɾju]

焼酎は砂糖から作る。

(2a), (2b) はそれぞれ別のインフォーマントから得られたものである。「焼酎は」に当たる部分を比べると、(2a) は [seheja] であるのに対し、(2b) は [sehəja] になっている。このように、今回得られたデータからは、中舌母音が意味の弁別に関わっているとは言い難い。母音音素として /i, e, a, o, u/ が立てられ、[ɪ], [ə] はそれぞれ /i/, /e/ の異音だと考えられる。

2-5 半母音

半母音音素として /j, w/ が立てられる。共通日本語には見られない当該地域の言語の特徴として、以下の(3), (4)に示すように合拗音の存在があげられる。

(3) [ja:nui genkwanna ɕigaɕi muukuɔɔ]

うちの玄関は東向きだ。

(4) [gwakohaɕi həkɪtɕi]

学校に早く行った。

合拗音も先述の中舌母音のように個人差があり、意味の弁別には関わっていないとみられる。/k/の異音として[kw]、/g/の異音として[gw]が観察される。

2-6 音声・音韻についてのまとめ

奄美語大島南部及び加計呂麻島方言には、子音のみによるモーラの形成、中舌母音、合拗音という現代共通日本語には見られない特徴が観察された。しかし、このような特徴の表出頻度には個人差があり、当該地域の言語の特徴は徐々に失われている可能性がある。

3 語彙について

それぞれの発話の中に日本語の混淆が一定程度みられる。歴史的背景の項でも述べたように早くから薩摩の支配を受け、他の琉球語圏以上に日本語特に九州方言の影響を強く受けているといえよう。一例として親族呼称の混乱がみられる。

本来母親を現す *amma* が祖母をさすことがあるが、39(C)のような日本語の侵入によって起こった現象だと考えられる。

(参考文献)

上里隆史(2009) 『琉日戦争一六〇九—島津氏の琉球侵攻』 ボーダー・インク

先田光演(2013) 『奄美諸島の砂糖政策と倒幕資金』 南方新社

土岐 哲(2009) 「第5章 現代語の音声学・音韻論」 工藤 浩・他『改訂版 日本語要説』 pp.117-157, ひつじ書房

前田達朗(2006) 「奄美大島瀬戸内町における『シマグチ』伝承活動」 『多言語社会研究会 年報4』 多言語社会研究会

前田達朗(2010) 「経験としての『移民』とそのことば」 『ことばと社会』12号特集移民と言語② 三元社

前田達朗(2013) 「鹿児島県の国語教育における標準語/方言イデオロギー」

『日本語・日本学研究』3号 東京外国語大学国際日本研究センター

Maeda,Tatsuro 2014 *Amamian Language Life ~Experience of Migration and “Dialect Correction”*
MarkAnderson&PatrickHeinrich (eds.) *Language Crisis in Ryukyus* Cambridge Scholars
Publishing, New Castle upon Tyle

沖縄県うるま市平安座方言

沖縄県うるま市平安座方言

當山 奈那（琉球大学）

1 沖縄県うるま市平安座島の概要

平安座方言とは、ここでは、平安座島で話されている地域言語のことをさす。平安座島は勝連半島の東北に位置し、与勝半島とは 1971 年に完成した「海中道路」で結ばれている。この「海中道路」を介して、宮城島、浜比嘉島、そして、与勝半島の屋慶名と隣接している。周囲は約 6500 メートルで総面積は埋め立て地を含めて約 5 キロ平方メートル、最高点は海拔 130 メートルである。宮城島側の島の北東側は埋め立てられており、白い石油タンクが並ぶ。平成 22（2010）年 1 月時点での実人口は 1425 人（557 戸）。

2 うるま市平安座島方言の概要

うるま市平安座島の方言は、UNESCO の Atlas of the World's language in Danger にあげられた沖縄語のなかの一つの下位方言である。沖縄語は、UNESCO のリストによると、「危険」と判定されている。しかし、同じ沖縄語に属する首里方言が『沖縄語辞典』のような本格的な辞典、談話資料と文法記述を有しているのに対して、平安座方言は、方言母語話者は存在するが、小中学校の統合問題にみられるように人の流出が激しく、行事においても言語においても継承する若い人がいない状況である。

平安座方言は、北琉球諸語の下位言語の沖縄語中南部方言に属する。音韻的には、他の中部方言と同様に、平安座方言も形容詞の活用語尾や終助詞、一部の名詞において、*a、*i と結合する *s を h に変化させる。文法的には、尊敬動詞が受け身動詞の形と同音形式（sari:N（される））であらわれる。平安座島周辺の勝連半島の方言の研究は少ないが、屋慶名方言も同様である。

3 人口構成からみた平安座方言

平安座島の平成 22 年 10 月末現在の年代別人口（国勢調査）は以下のとおりである。

75 歳以上	230 人
70 歳～74 歳	60 人
60 歳～69 歳	175 人
50 歳～59 歳	228 人
21 歳～49 歳	404 人

20 歳以下	224 人
計	1321 人

複数の人の話から、伝統的な平安座方言の話者は 65 歳以上であろうとのことである。60 歳以下になると、聞き取ることはできるが、話すことはできない。20 代後半までなら、方言を聞き取ることが可能だろうとのことだった。1971 年の「海中道路」の完成以降、他地域との言語接触が盛んになり、60 歳代の方が話す方言は他地域の方言が混ざっているという。

4 共通語教育と方言教育

文字資料は見つけることができなかったが、方言話者よりうかがった話をまとめておく。平安座島においても戦前から戦後にかけて共通語教育が行われた。平安座尋常高等小学校から国民学校の時代にかけて、方言札が使用された。校内、校外で方言を使った者に対して木で作られた方言札を渡して首からかけさせたという。方言札をかけさせられる以外の罰則はなかった。

共通語教育について、小学校卒業後に出稼ぎのために大阪の紡績工場へ勤めた話者は、「共通語が話せないと仕事もできないから、共通語を話せるようになることは生きていくために必要なことだった」と述べていた。共通語の習得過程では、目標言語が日本語共通語である「平安座共通語」とよばれる中間言語が存在したという。「平安座共通語」は本土では通じず、大変苦勞したとのことである。また、戦後、島外の女性が平安座に嫁いでくることが多くなったため、家庭内で方言を使う機会がめっきり減ったとのことだった。

平成 23 年度まで平安座島小中学校があったが、生徒の減少が進み、伊計島の伊計小中学校、宮城島の宮城小学校、桃原小学校、宮城中学校、浜比嘉島の比嘉小学校、浜中学校、平安座島の平安座小中学校とあった 7 つの学校を平安座島に統合し、24 年度に彩橋小中学校としてスタートさせることになった。伊計島も宮城島の方言も平安座方言とは特徴を大きく異にする。それぞれの方言差を考慮しながら語学としての方言教育を行うのは容易ではない。方言大会「しまくとうばひ語やびら大会」が年に一度催されるが、祖父母世代の協力を得て行なわれる大会ではなく、自治会の方が生徒の作文を翻訳し、方言指導までを行うとのことである。イントネーションの指導が特に難しく、不自然な平安座方言になってしまうとのこと指摘があった。

5 地域コミュニティーにおける方言保存活動

年に一度、平安座公民館において方言大会「しまくとうばひ語やびら大会」が催され、島の小中学生による平安座方言を使った朗読や演劇が上演される。平成 9 年 10 月 25 日に当時の与那城町で「第一回島くとうばし語やびら与那城町大会」が開かれ、平安座の生徒が出場したという記録が残っている。平成 17 年 11 月 2 日から、「平安座ぐちひ語やびら大会」が平安座自治会で催されるようになった。

年代によって発音や文法に少しずつ違いがみられるが、60 代以上の方は日常的に方言を

使用している。毎週水曜に平安座自治会館に年輩の方が集まり、楽しくおしゃべりをする「水曜会」や、自治会運営のゲートボール大会が開かれる。また、行事の多い平安座島ではアドバイザーとしての年輩者の存在は重要である。年輩の方が地域コミュニティーで平安座方言を使用できる機会が存在している。

6 方言資料の作成

久米島、粟国島を含む慶良間諸島、伊是名島、伊平屋島、古宇利島のような沖縄島の西に位置する周辺諸島と比べても、東海岸の周辺諸島の方言研究はずっと少ない。東海岸においても、久高島、奥武島、津堅島、また、平安座島と同じく海中道路でつながっている伊計島、浜比嘉島には音韻に関する先行研究があるものの、平安座島、そして、平安座島の隣島、宮城島をとりあげている先行研究は全くなく、平安座共有連合会（2008）による語彙集があるのみである。

琉球大学琉球方言研究室では、平安座島で話されている平安座方言について調査を行い、2011年に『沖縄県うるま市平安座島の方言－語いと音声を中心に－』という方言教育用のテキストを作成した。また、2012年には『平安座方言の名詞』を作成している。しかし、いずれも方言テキストとして簡単にまとめたもので、専門的なものではないし、詳しいものでもない。新垣貞雄（2012）『島乃影 平安座』（尚生堂）のなかで、一部の平安座方言の語彙や諺がとりあげられ、言及されている。

また、當山（2015）「琉球語平安座方言の名詞の格」や同（2016）「沖縄語平安座方言の受動、使役、授受」の報告がなされている。

なお、本報告のデータは、全て平安座出身／在住の話者3名、T・I（S3生、女性）、M・T（S4生、女性）、M・M（S10生、女性）への面接調査によるものである。

7 音素表

’ア	[ʔa]	[ʔasai]	’ア サイ	（蟻）
		[ʔatsahan]	’ア ツァハン	（暑い）
’イ	[ʔi]	[ʔi:bi]	’イ ービ	（指）
		[ʔiʃi]	’イ シ	（石）
		[ʔinnu]	’イ ンヌ	（犬）
イ	[i~ji]	[kaiN]	カイン	（借りる）
		[iN]	イン	（縁）
’ウ	[ʔu]	[ʔuʃi]	’ウ シ	（牛）
		[ʔukira:]	’ウ キラー	（起きろ）
		[ʔuki:N]	’ウ キーン	（起きる）
ウ	[u~wu]	[u:ʃi]	ウーシ	（白）
		[tsa:tsa:ma:u:]	ツァーツァーマーウー	（あめんぼ）
’エ	[ʔe]	[ʔe:]	’エー	（藍）

エ	[e~je]	[je:da]	エーダ	(間)
		[mue:]	ムエー	(よりあい)
		[ʔo:dʒi]	’オージ	(おうぎ)
		[ʔo:di]	’オーディ	(青い)
’オ	[ʔo]	[ʔo:da:]	’オーダー	(もっこ)
カ	[ka]	[ka:]	カー	(皮)
		[ka:]	カー	(井戸)
		[ŋkadʒi]	ンカジ	(むかで)
		[ɸuka]	フカ	(外)
キ	[ki]	[ki:]	キー	(木)
		[ki:]	キー	(毛)
		[ʔakira:]	’アキラ	(開ける)
		[ʔaki:n]	’アキーン	(開ける)
ク	[ku]	[saki]	サキ	(酒)
		[kubu]	クブ	(昆布)
		[ʔakubi]	’アクビ	(あくび)
		[gamaku]	ガマク	(腰)
ケ	[ke]	[ke:in]	ケーイン	(帰る)
		[ʔa:ke:du:]	’アーケーズ	(とんぼ)
		[ʔuke:]	’ウケー	(おかゆ)
コ	[ko]	[ko:dʒi]	ユージ	(麴。かび。)
サ	[sa~ʃa]	[kako:han]	カコーハン	(かゆい)
		[sabadzo:ri]	サバゾーリ	(ぞうり)
		[sansana:]	サンサナー	(クマゼミ)
		[basa:]	バサー	(芭蕉)
シ	[ʃi]	[ʃi:da]	シーザ	(としうえ)
		[ʔaʃibu]	’アシブ	(あせも)
		[haʃi]	ハシ	(橋)
ス	[su~ʃu]	[subui]	スブイ	(冬瓜)
		[suba]	スバ	(側)
		[susu]	スス	(裾)
セ	[se~ʃe]	[se:gwa:]	セグワー	(小さいエビ)
		[ʔuse:tan]	’ウセータン	(からかった)
		[ʔusein]	’ウセイ	(からかう)
		[ni:se:]	ニーセー	(若者)
ソ	[so~ʃo]	[so:]	ソー	(竿)
		[ʔiso:han]	’イソーハン	(ゆかいだ)
		[guso:]	グソー	(あの世)

タ	[ta]	[<u>ta</u> kahan]	タカハン	(高い)
		[ʔa <u>ta</u> bi]	’ア <u>タ</u> ビ	(カエル)
		[sa: <u>ta</u> :]	サー <u>タ</u> ー	(砂糖)
チ	[ʧi]	[ʧ <u>i</u> :]	チー	(血)
		[naʧ <u>i</u> gwi:]	ナ <u>チ</u> グイー	(鳴き声)
		[ta: <u>ʧi</u>]	ター <u>チ</u>	(ふたつ)
ツ	[tsu]	(語頭の該当例確認できず)		
		[<u>tsu</u>]	ツツ	(人)
		[ʧ <u>i</u> tsu:]	チ <u>ツ</u> ー	(月)
テ	[te]	[<u>te</u> :ku]	テーク	(太鼓)
		[gute:]	グ <u>テ</u> ー	(たいかく)
ト	[to]	[to:ma:mi]	トーマーミ	(ソラマメ)
		[mat <u>to</u> :ba:]	マッ <u>ト</u> ーバー	(素直な人)
		[tin <u>to</u> :]	ティン <u>ト</u> ー	(空)
ティ	[ti]	[<u>ti</u> :]	ティー	(手)
		[ʔutt <u>i</u> :]	’ウツ <u>ティ</u> ー	(おととい)
トゥ	[tu]	[<u>tui</u>]	トウイ	(鶏)
		[Hitumut <u>u</u> n]	ヒ <u>トウ</u> ム <u>トウ</u> ン	(あさごはん)
		[Hi: <u>tu</u>]	ヒー <u>トウ</u>	(イルカ)
ダ	[da]	[<u>daki</u>]	ダキ	(竹)
		[juda]	ユダ	(枝)
ディ	[di]	[<u>digu</u>]	ディグ	(デイゴ)
		[kutand <u>i</u> :N]	クタン <u>ディ</u> ーン	(くたびれる)
		[ʧud <u>i</u> :]	フ <u>ディ</u> ー	(いなびかり)
ドゥ	[du]	[<u>du</u> ʧigwa:]	ドゥシ	(ともだち)
		[ʔudurukasun]	’ウ <u>ドゥ</u> ルカスン	(おどろかせる)
		[ʔa <u>du</u>]	’ア <u>ドゥ</u>	(かかと)
デ	[de]	[<u>de</u> :kuni]	デークニ	(大根)
		[ʔakaʧ <u>i</u> de:kuni]	’アカチ <u>デ</u> ークニ	(にんじん)
		[ʧo: <u>de</u> :]	チョー <u>デ</u> ー	(兄弟)
ド	[do]	[<u>do</u> :]	ドー	(ろうそく)
		[ʔaʧo: <u>do</u>]	’アチョー <u>ド</u>	(仲買人)
ナ	[na]	[<u>na</u> :bi]	ナービ	(なべ)
		[ʧin <u>na</u> n]	チン <u>ナ</u> ン	(かたつむり)
		[ʔin <u>ana</u>]	’イ <u>ナ</u> ナ	(かま)

ニ	[ni]	[<u>ni</u> :]	ニー	(荷物)
		[<u>hani</u> :N]	ハニーン	(はねる)
		[<u>sani</u>]	サニ	(種)
ヌ	[nu]	[<u>numun</u>]	ヌムン	(飲む)
		[<u>ʃinugu</u>]	シヌグ	(シヌグ)
		[<u>ʃinnu</u>]	チンヌ	(つの)
ネ	[ne]	[<u>ne</u> :]	ネー	(地震)
		[<u>miʃiɖʒune</u> :]	ミチズネー	(練り歩き)
ノ	[no]	[<u>no</u> :ɖʒi]	ノージ	(虹)
		[<u>genno</u> :]	ゲンノー	(とんかち)
ハ	[ha]	[<u>ha</u> :]	ハー	(歯)
		[<u>ho:hai</u>]	ホーハイ	(儀式の名)
		[ʔ <u>ahatti</u>]	’アハッティ	(あさって)
		(語尾の例確認できず)		
ヒ	[Hi:]	[<u>Hi</u> :]	ヒー	(火)
		[<u>Hiʃiʃi</u>]	ヒチチ	(ソテツ)
		(語尾の例確認できず)		
フ	[ɸu]	[<u>ɸuni</u>]	フニ	(ふね)
		[ʔ <u>uɸu</u> ʔabi:]	’ウフアビー	(大声)
		[<u>to:ɸu</u>]	トーフ	(とうふ)
ヘ	[he]	[<u>he</u> :]	ヘー	(ハエ)
		[ʔi: <u>he</u> :]	’イーヘー	(いはい)
ホ	[ho]	[<u>ho</u> :ʃi]	ホーチ	(ほうき)
		[<u>johondi</u>]	ヨホンディ	(ゆうがた)
バ	[ba]	[<u>ba</u> :ki]	バーキ	(たけかご)
		[<u>marubai</u>]	マルバイ	(はだか)
		[ʔ <u>aba</u> :]	’アバー	(ねえさん)
ビ	[bi]	[<u>bira</u>]	ビラ	(ねぎ)
		[<u>ni:biʃi</u>]	ニービチ	(結婚)
		[ʔi <u>bi</u>]	’イビ	(えび)
ブ	[bu]	[<u>buʃi</u>]	ブチ	(むち)
		[<u>mi:bukkwa</u>]	ミーブクワ	(みみたぶ)
		[<u>kubu</u>]	クブ	(昆布)
ベ	[be]	[<u>bensuru</u> :]	ベンスルー	(グッバ)
		[<u>na:be</u> :ra:]	ナーベラー	(へちま)
ボ	[bo]	(語尾の例確認できず)		
		(語頭の例確認できず)		

パ	[pa]	[gum <u>b</u> o:]	グ <u>ン</u> ボ <u>ー</u>	(ごぼう)
		[p <u>a</u> :p <u>a</u> :]	<u>パ</u> ー <u>パ</u> ー	(おばあちゃん)
		[gapp <u>a</u> i]	ガッ <u>パ</u> イ	(おでこがでている人)
ピ	[pi]	(語頭の例確認できず)		
		[s <u>a</u> mp <u>i</u> N]	サン <u>ピ</u> ン	(サンピン茶)
		[tindzo:p <u>i</u> :p <u>i</u> :]	ティンゾー <u>ピー</u> <u>ピー</u>	(屋内で鳴く虫)
プ		(確認できず)		
ペ	[pe]	[ʃim <u>p</u> e:]	シン <u>ペ</u> ー	(つば)
ポ		(確認できず)		
マ	[ma]	[m <u>a</u> :m <u>i</u>]	マ <u>ー</u> ミ	(豆)
		[takam <u>a</u> :m <u>i</u>]	タカマ <u>ー</u> ミ	(メダカ)
		[gam <u>a</u>]	ガ <u>マ</u>	(どうくつ)
ミ	[mi]	[m <u>i</u> dʒi]	ミ <u>ジ</u>	(水)
		[katam <u>i</u> :N]	カタミ <u>ーン</u>	(かつぐ)
		[ka:m <u>i</u>]	カー <u>ミ</u>	(甕)
ム	[mu]	[m <u>u</u> :ku]	ム <u>ー</u> ク	(むこ)
		[tam <u>u</u> N]	タム <u>ン</u>	(たきぎ)
		[kum <u>u</u>]	ク <u>ム</u>	(雲)
メ	[me]	[m <u>e</u> :]	メ <u>ー</u>	(前)
		[m <u>e</u> :]	メ <u>ー</u>	(米)
		[ʔm <u>m</u> e:ʃi]	’ンメ <u>ー</u> シ	(おはし)
		[ʔusum <u>e</u> :]	’ウスメ <u>ー</u>	(おじいさん)
モ	[mo]	[m <u>o</u> :]	モ <u>ー</u>	(藻)
		[ʔja:m <u>o</u> :]	’ヤーモ <u>ー</u>	(あなた)
ラ	[ra]	[ratʃ <u>o</u> :]	ラッ <u>チ</u> ョー	(らっきょう)
		[garas <u>a</u> :]	ガラ <u>サ</u> ー	(からす)
		[ʔuɸuʃibur <u>a</u> :]	’ウフチブ <u>ラ</u> ー	(おたまじゃくし)
リ	[ri]	(語頭の例確認できず)		
		[ʔir <u>i</u> :]	’イ <u>リ</u>	(西)
ル	[ru]	(語頭の例確認できず)		
		[ʃibur <u>u</u> :]	チブ <u>ル</u> ー	(頭)
レ	[re]	(確認できず)		
ロ	[ro]	(確認できず)		
ガ	[ga]	[g <u>a</u> :t <u>u</u> ja:]	ガ <u>ー</u> トウヤー	(シラサギ)
		[ʔag <u>a</u> ri]	’ア <u>ガ</u> リ	(東)
		[kug <u>a</u>]	ク <u>ガ</u>	(たまご)
ギ	[gi]	(語頭の例確認できず)		

		[ʔaɡi]	’ア <u>ギ</u>	(陸)
グ	[gu]	[ɡu ^s aN]	<u>グ</u> サン	(杖)
		[miɡu ⁱ N]	ミ <u>グ</u> イン	(めぐる)
		[diɡu]	ディ <u>グ</u>	(デイゴ)
ゲ	[ge]	[geːN]	<u>ゲ</u> ーン	(イネ科の植物)
		[kugeːdʒiN]	ク <u>ゲ</u> ージン	(一張羅)
		[sarageː]	サラ <u>ゲ</u> ー	(おたま)
ゴ	[go]	(語頭の例確認できず)		
		[meːɡoːsaː]	メー <u>ゴ</u> ーサー	(げんこつをすること)
		[ʔiːɡoːhaN]	’イー <u>ゴ</u> ーハン	(かゆい)
ザ	[ɕa]	[ɕa ⁿ N]	<u>ザ</u> ン	(ジュゴン)
		[Hiɕa ⁱ i]	ヒ <u>ザ</u> イ	(左)
		[ʃiːɕa]	シー <u>ザ</u>	(としうえ)
ジ	[ɕi]	[ɕiːɕaː]	<u>ジ</u> ーファー	(かんざし)
		[kugeːɕi ⁿ N]	ク <u>ゲ</u> ー <u>ジ</u> ン	(一張羅)
		[ʔoːɕi]	’オー <u>ジ</u>	(おうぎ)
ズ	[ɕu]	[ɕuːʃiːmeː]	<u>ズ</u> ーシーメー	(たきこみごはん)
		[ʔuɕu ⁿ N]	’ウ <u>ズ</u> ン	(泉)
		[kuɕu]	ク <u>ズ</u>	(去年)
ゼ	[ɕe]	[ɕeːN]	<u>ゼ</u> ーン	(ほたる)
		[maːɕeː]	マー <u>ゼ</u> ー	(ばった)
ゾ	[ɕo]	[ɕoː]	<u>ゾ</u> ー	(家の前の道)
		[kaiɕoːtorakku]	カイ <u>ゾ</u> ートラック	(海上トラック)
		[ɕukaɕoːkuːkuː]	フカ <u>ゾ</u> ークークー	(ヤマバト)
ヤ’	[ʔja]	[ʔjaːmoː]	’ <u>ヤ</u> ーモー	(あなた)
ユ’	[ʔju]	[ʔjuː]	’ <u>ユ</u> ー	(魚)
ヨ’	[ʔjo]	[ʔjoiʔjoiʔjoi]	’ <u>ヨ</u> イ’ヨイ’ヨイ	(赤ちゃんへのはやしことば)
ヤ	[ja]	[jaː]	<u>ヤ</u> ー	(家)
		[wanoːjaːi]	ワノー <u>ヤ</u> ーイ	(感動詞)
		[ʔijaː]	’イ <u>ヤ</u> ー	たいばん。えな。)
ユ	[ju]	[juː]	<u>ユ</u> ー	(お湯)
		[Hititanjuː]	ヒティタン <u>ユ</u> ー	(灯油)
ヨ	[jo]	[joːnnaː]	<u>ヨ</u> ーンナー	(ゆっくり)
		[Hiːjoː]	ヒー <u>ヨ</u> ー	(使用人)
ワ	[ʔwa]	[ʔwaː]	’ <u>ワ</u> ー	(豚)
		[ʔwaːʃiʃi]	’ <u>ワ</u> ーチチ	(天気)

ウイ	[ʔwi]	[ʔwi:]	’ <u>ウイ</u> ー	(上)
ウエ	[ʔwe]	[ʔwentsu]	’ <u>ウエ</u> ンツ	(ねずみ)
ワ	[wa]	[wata]	<u>ワ</u> タ	(腹)
		[ʃiwa:ʃi]	シ <u>ワ</u> ーシ	(師走)
			(語尾の例確認できず)	
ウィ	[wi]	[wi:ʃa:]	<u>ウィ</u> ーチャー	(よっぱらい)
			(語尾の例確認できず)	
ウェ	[we]		(確認できず)	
シェ	[ʃe]		(確認できず)	
ショ	[ʃo]	[ʃo:ju:]	<u>ショ</u> ーユ	(しょうゆ)
チャ	[ʃa]	[ʃa:]	<u>チャ</u> ー	(お茶)
		[ʔinʃa:han]	イン <u>チャ</u> ーハン	(短い)
チュ	[ʃu]	[ʃura:han]	<u>チュ</u> ラハン	(うつくしい)
		[ʔi:ʃu:]	’ <u>イー</u> チュー	(糸)
ツア	[tsa]	[tsa:tsa:]	<u>ツア</u> ーツア	(おとうさん)
		[kuntsa:]	クン <u>ツア</u> ー	(こじき)
ツオ	[tso~ʃo]	[tso:de:]	<u>ツオ</u> ーデー	(兄弟)
		[natso:ra]	ナ <u>ツオ</u> ーラ	(カイジンソウ)
			(語尾の例確認できず)	
ヒヤ	[Ha]	[Ha:ku]	<u>ヒヤ</u> ーク	(百)
		[Hakuso:]	<u>ヒヤ</u> クソー	(百姓)
			(語尾の例確認できず)	
クワ	[kwa]	[kwa:ʃi]	<u>クワ</u> ーシ	(菓子)
		[jakkwan]	ヤッ <u>クワ</u> ン	(やかん)
		[kkwa]	ッ <u>クワ</u>	(子)
クイ	[kwi]	[kwi:]	<u>クイ</u> ー	(声)
クエ	[kwe]	[kwe:]	<u>クエ</u> ー	(くわ)
		[karama:kwe:]	カラマー <u>クエ</u> ー	(アオカナヘビ)
グワ	[gwa]	[ʃigwaʃi]	シ <u>グワ</u> チ	(4月)
		[ʔaŋgwa]	’アン <u>グワ</u> ー	(女の子)
グイ	[gwi]		(語頭の例確認できず)	
		[ʔmmani:gwi:gwi:]	’ンマニーグイー <u>グイ</u> ー	(かたぐるま)

グエ	[gwe]	[<u>gweŋgweN</u>]	<u>グエ</u> ン <u>グエ</u> ン	(じめじめと)
ファ	[ɸa]	(語頭の例確認できず)		
		[ɕʑi:ɸ <u>a</u> :]	ジー <u>ファ</u> ー	(かんざし)
		[te:ɸ <u>a</u>]	テー <u>ファ</u>	(冗談)
フェ	[ɸe]	[ɸ <u>e</u> :]	<u>フェ</u> ー	(南)
’ン	[ʔŋ~ʔm]	[ʔŋkuku]	’ンクク	(うみぶどう)
		[ʔ <u>m</u> mani:gwi:gwi:]	’ンマニーグィー <u>グィ</u> ー	(かたぐるま)
ン	[n~m~N]	[<u>n</u> ni]	<u>ン</u> ニ	(胸)
		[<u>n</u> ni]	<u>ン</u> ニ	(稲)
		[gu <u>m</u> bo:]	グ <u>ン</u> ボー	(ごぼう)
		[ku <u>n</u> da]	ク <u>ン</u> ダ	(ふくらはぎ)
		[ju:ba <u>n</u>]	ユーバ <u>ン</u>	(ゆうはん)
ッ	[k]	[<u>k</u> kwa]	ックワ	(子)
		[ma <u>k</u> kai]	マッカイ	(おわん)

次頁に一覧表を掲載する。() 内は数が少ないもの。

	a	i	u	e	o	a	u	e	o	a	i	e
ʔ	ア [ʔa] /ʔa/	イ [ʔi] /ʔi/	ウ [ʔu] /ʔu/	エ [ʔe] /ʔe/	オ [ʔo] /ʔo/	ヤ [ʔja] /ʔja/	ユ [ʔju] /ʔju/		ヨ [ʔjo] /ʔjp/	ワ [ʔwa] /ʔwa/	ウィ [ʔwi] /ʔwi/	ウエ [ʔwe] /ʔwe/
		イ [i~ji] /i/	ウ [u~wu] /u/	エ [e~je] /e/		ヤ [ja] /ja/	ユ [ju] /ju/		ヨ [jo] /jo/	ワ [wa] /wa/	ウィ [wi] /wi/	(ウエ) [we] /we/
k	カ [ka] /ka/	キ [ki] /ki/	ク [ku] /ku/	ケ [ke] /ke/	コ [ko] /ko/					クワ [kwa] /kwa/	クイ [kwi] /kwi/	クエ [kwe] /kwe/
g	ガ [ga] /ga/	ギ [gi] /gi/	グ [gu] /gu/	ゲ [ge] /ge/	ゴ [go] /go/					グワ [gwa] /gwa/	グイ [gwi] /gwi/	グエ [gwe] /gwe/
s	サ [sa~ʃa] /sa/	シ [ʃi] /si/	ス [su~ʃu] /su/	セ [se~ʃe] /se/	ソ [so~ʃo] /so/			(シエ) [ʃe] /sje/	(シヨ) [ʃo] /sjo/			
z	ザ [dza~ɕa] /za/	ジ [ɕi] /zi/	ズ [dzu~ɕu] /zu/	ゼ [dze~ɕe] /ze/	ゾ [dzo~ɕo] /zo/							
t	タ [ta] /ta/	ティ [ti] /ti/	トゥ [tu] /tu/	テ [te] /te/	ト [to] /to/							
c	ツア [tsa] /ca/	チ [tʃi] /ci/	ツ [tsu] /cu/		ツオ [tso~tʃo] /co/	チャ [tʃa] /cja/	チュ [tʃu] /cju/					
d	ダ [da] /da/	ディ [di] /di/	ドウ [du] /du/	デ [de] /de/	ド [do] /do/							
n	ナ [na] /na/	ニ [ni] /ni/	ヌ [nu] /nu/	ネ [ne] /ne/	ノ [no] /no/							
h	ハ [ha] /ha/	ヒ [hi] /hi/	フ [ɸu] /hu/	ヘ [he] /he/	ホ [ho] /ho/			ヒヤ [ɸa] /hja/		ファ [ɸa] /hwa/	(フィ) [ɸi] /hwi/	フェ [ɸe] /hwe/
b	バ [ba] /ba/	ビ [bi] /bi/	ブ [bu] /bu/	ベ [be] /be/	ボ [bo] /bo/							
p	パ [pa] /pa/	ピ [pi] /pi/	(プ) [pu] /pu/	ペ [pe] /pe/	(ポ) [po] /po/							
m	マ [ma] /ma/	ミ [mi] /mi/	ム [mu] /mu/	メ [me] /me/	モ [mo] /mo/							
r	ラ [ra] /ra/	リ [ri] /ri/	ル [ru] /ru/	(レ) [re] /re/	(ロ) [ro] /ro/							

ン [ʔm , ʔn , ʔŋ] /ʔN/	ン [m , n , ŋ , N] /N/
-----------------------------	-----------------------------

ッ [p , t , k] /Q/

8 名詞の格＝とりたて

用例は簡易的な音韻表記を用いる。問題とする文の部分は下線 _____ で示し、格形式やとりたて助辞は「= (ハイフン)」で示す。格やとりたてについての考え方は鈴木重幸 (1972) による。

8.1 平安座方言の名詞の格形式一覧

格とは、「名詞が文や連語のなかで他の単語に対してとることがら上の関係の違いをあらわす文法的なカテゴリー」である。平安座方言には、ハダカ格、ga 格、nu 格、Nkai 格、naka 格、ni 格、uti 格、Nzi 格、hi 格、kara 格、madi 格、tu 格、juka 格の 14 の格形式がある。これらは、形式面からの名付けである。意味面からそれぞれの格を名付けると次のようになる。

【表 1】意味面からみた格

Φ	対格／主格／属格	ACC／NOM／GEN	accusative／nominative／genitive
ga	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
nu	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
Nkai	方向格	ALL	allative
naka	与格	DAT	dative
ni	時間格	TIM	time
Nzi	場所格 1	LOC1	location
uti	場所格 2	LOC2	location
hi	具格	INS	instrumental
kara	奪格	ABL	ablative
madi	目標格	LMT	limitative
tu	共格	COM	comitative
juka	対比	CMP	comparative

形式面から名付けても、意味面から名付けても、各々の格が多義的である点は変わらない。そのなかでもハダカ格、nu 格、ga 格の名詞は、連用的にはたらくことも連体的にはたらくこともできる点で他の形とは大きく異なる。

また、日本語では、連用格のあとに「=の」を後接させて合成的な形式を作るが、平安座方言では、現在までに格助辞「madinu (までの)」の合成的な形式のみ確認している。連体格の他に、合成的な格の形式として「madiNkai (までに)」がみられた。

8.1.1 ハダカ格

名詞は格助辞を後接させないで文中でつかわれることもある。これを名詞のハダカ格という。ハダカ格は基本的な格であって、格が後接していないこと（格助辞ゼロ）を形式上の特徴としている。

ハダカ格の名詞には、主格と対格と属格の用法とがある。主格になる場合は、動作や状態のもち主をあらわし、対格の場合は動作の対象をあらわす。ハダカ格の名詞が属格としてはたらく場合、つづく名詞の所有先を表現する。

主格

ハダカ格の名詞が主格としてはたらく場合は、動作や状態のもち主をあらわす。

- (1) nusudu cjo:Ndo:. ?wi:kuruhwa:.

泥棒が きているぞ！追いかける。

- (2) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo:.

あの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んでは いけないよ。

対格

ハダカ格の名詞が対格としてはたらく場合は、述語になる他動詞のはたらきかけをうける対象をあらわす。

- (3) asabaN kadi ku:i.

お昼ごはんを 食べて くるね。

- (4) taru:=ga huN jumagi:gutu ?ja:muN uri huN juma:.

太郎の 本を 読むから お前も その 本を よめ。

- (5) Nmi=Nkai Nnuzigwa: jubi:ga=ru icuhiga ?ja:mo: ma:=Nkai icuga:.

海に シマダコを とりに いくけど あなたは どこに いくの？

- (6) sasiN utuhwa:hja:.

写真を 写そうね。

- (7) oka: ziN 'i:rada:.

お母さん、お金を もらおう。

属格

ハダカ格の名詞が属格としてはたらく場合、つづく名詞と組み合わせあって規定的にはたらく。

- (8) taru: kuruma:=ja kurudi:. (所有者)

太郎の 車は 黒い。

- (9) wano:ja:i. ?ja: kuce: kurudi=ru 'u:Nhĩ:. (全体としての人)

うわあ！ あんたの 口は 黒くなっているよ。

ハダカ格の時間名詞は、状況語としてはたらいて、文の出来事が実現する外的な時間を表現する。

- (10) ei cu: asibaja:. (時間名詞・動作の外的な時間)

ねえ、今日 あそぼうよ。

- (11) kju:nu saNgwacusaNnici jaruhĩ:. (時間名詞・動作の外的な時間)

旧の 三月三日 だよ。

- (12) juru ke:ti cu:ha. (時間名詞・動作の外的な時間)

夜に かえって くるよ。

- (13) ke:biNtetsudo: nuti icuNdo:. (空間名詞・くつつく対象)

軽便鉄道を のって いくよ。

ハダカ格の人名詞が独立語としてはたらいで、よびかけをあらわす。この場合の人名詞は親族名称や固有名詞が多い。

- (14) oka: ziN 'i:rada:.

お母さん、お金を もらおう。

naiN (なる) や huN (する) のような単語とくみあわさって合わせ述語になる場合にもハダカ格があらわれる。

- (15) duSIGwa: na:ra:ja:.

友達に なろうね。

- (16) su:zi hugu:tu kwa:wai.

お祝いを するから おいでね。

8.1.2 ga 格

ga 格の名詞は、主格と属格がある。主格になる場合は、動作や変化、状態のもち主をあらわす。属格の場合はつづく名詞の所有先を表現する。

主格

ga 格の名詞が主格としてはたらく場合は、動作や変化や状態のもち主をあらわす。

動作の主

- (17) ?ja:=ga aNnagi:nu ki:=ja aNhuka takahara aru.

お前が 言っている 木は そんなに 高いの？

- (18) uri tamaNja ta:=ga katami:gahĩ:.

この タマンは 誰が 担ぐの？

状態、変化の主

- (19) ni:muci:=ga Nbahanu taihi muQcjan.

荷物が 重いので 二人で 持った。

- (20) cu:ja beNkjo:=ga umamadi uwarugae:ka niNdaN.

今日は 勉強が ここまで おわるまで 寝ない。

評価や感情の対象

また、次のような評価や感情がむけられる対象に **ga** 格の名詞があらわれることがある。

- (21) taru:=ja teNpura:=garu masi jaha. (評価や感情の対象)

太郎は 天ぷらが 好きだよ。

属格

格助辞 **ga** の後接した代名詞が名詞を限定する規定語としてはたらく属格としての用法もみられた。

- (22) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:kara tubikude: narando:.

あの 岩場は 高いから あれの 上から 飛び込んでは いけないよ。

8.1.3 nu 格

nu 格の名詞は、属格としても主格としてもはたらく。

属格

nu 格の名詞が属格としてはたらく場合、人名詞、場所名詞、代名詞に後接して、つづく名詞のもちぬしの指定をしたり、あとにつづく名詞にさしだされるものが存在する場所を指定したり、関係規定的（その組織に所属するところの）な意味をあらわす。

- (23) taru:=nu karadze: mutumutu kurudo:tahĩ: (人名詞・もちぬしの指定)

太郎の 髪は もともと 黒かったよ。

- (24) mukase: curaka:gi:=nu karaze: kurudo:tahĩ: (人名詞・もちぬしの指定)

昔は 美人の 髪は 黒かったよ。

- (25) zira:=Nkai niwa=nu kusa turahwa: (場所名詞・状況的なことからの指定)

二郎に 庭の 草を とらそう。

- (26) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo: (代名詞・状況的なことからの指定)

あそこの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んでは いけないよ。

- (27) mici=uti sjo:gaQko:=nu ko:cjo:seNse:=Nkai icataN. (所属組織)

道で 小学校の 校長先生に 会った。

- (28) nika:he: henza=nu Qkwagwa:ta: buru gaNzu:hataNdo: (所属組織)

昔は 平安座の 子供たちは みんな 元気だったよ。

主格

nu 格の名詞が主格としてはたらく場合、述語のさしだす動作や変化や状態のもち主をあらわす。その nu 格の名詞は現象名詞やもの名詞に限られるようである。人名詞の例はみられない。

- (29) ami=nu huigutu ?ja: to: akiNnakwa:.

雨が 降っているから お前は 戸を あけるな。

- (30) ne:=nu cu:Ndo: ja:du akira:.

地震が きているよ。 窓を 開けろ。

- (31) kazuko:ta: ja:=nu uhuntu=kara kibui=nu Nzito:Ndo:.

かずこ達の 家の 台所から 煙が 出ているよ。

- (32) ziN=nu kakaigutu na: kiQte acimiNnakwa:.

お金が かかるから もう 切手は 集めないでかけ。

madinu 格

これまでに madinu (までの) という合成的な格の形を確認している。madinu 格は規定語になってつく名詞を限定する連体格である。場所名詞にくつつく例がみられた。

- (33) nagu=kara na:ha=madinu basude:=ja cjaQsajagaja:.

名護から 那覇までの バス代は いくらかな。

8.1.4 Nkai 格

Nkai 格の名詞は、間接対象の補語としてはたらき〈ゆくさき〉〈ありか〉〈あい手〉などをあらわす。

〈ゆくさき〉

Nkai 格の場所名詞は、方向性をもつ移動動詞とくみあわさって、移動動作のゆくさをあらわす。

- (34) Nmi=Nkai Nnuzigwa: jubi:ga=ru icuhiga ?ja:mo: ma:=Nkai icuga:.

海に シマダコを とりに いくけど あなたは どこに いくの？

- (35) waQta:=ja nama=kara na:ha=Nkai asibi:ga icuNdo:.

私たちは 今から 那覇に 遊びに いくよ。

- (36) katamiti naNza=Nkai icuNdo:.

担いで ナンザに 行くよ。

- (37) kuruma: micibata=Nkai siNkitaN.

車は 道ばたに 寄せた。

〈ありか〉

Nkai 格の場所名詞は、存在動詞とくみあわさって、〈ありか〉をあらわす。

- (38) taru:=ja kuzu=kara to:kjo:=Nkai 'u:N.

太郎は 去年から 東京に いる。

〈あい手〉

Nkai 格の人名詞は、授受動作のあい手や使役のあい手をあらわす。

- (39) ari=Nkai ziN kwira:.

あいつに お金を やれ。

- (40) uQtugwa:ta:=ga wanu=Nkai hoN 'i:raci.

後輩たちが 私に 本を くれた。

- (41) cinu: pa:pa:=ga wanu=Nkai huN judi turacjaN.

昨日は おばあちゃんが 私に 本を 読んで くれた。

- (42) na:hi:gwa: taru:=Nkai ?ja: kwa:si kamahwa:.

もうすこし 太郎に お前の お菓子を 食べさせろ。

名詞が kai 格でさしだされる例も散見されたが、場所名詞（あるいは場所をたずねる疑問詞）で〈ゆくさき〉をあらわす例に限られた。全て Nkai 格で言い換えが可能であるため、Nkai 格のヴァリエントとみなす。

(43) Nmi=kai nu: hi:ga icuga:.

海に 何を しに 行くのか。

(44) Nmi=Nkai Nnuzigwa: tuiga=ru icuNdo:. ?ja:mo: ma:=kai jaga.

海に シマダコを とりに いくけど あなたは どこなの ?

(45) ei, ?ja:mo: nama=kara ma:=kai icuga:.

ねえ！ あなたは 今から どこに いくの。

madiNkai 格

これまでに madiNkai（までに）という合成的な格の形を確認している。ここで madiNkai 格の時間名詞は、述語の動作が完結するまでの時間的な制限をさしだしている。

(46) gozi=madiNkai ke:randare: naraN.

五時までに 帰らないと ならない。

8.1.5 naka 格

naka 格の名詞は間接対象の補語としてはたらく。naka 格の名詞のあらわす間接対象には〈ありか〉と〈うけみのあい手〉がある。

〈ありか〉

nu 格の空間名詞は存在のありかをあらわす。

(47) so:gaQko:=nu me:=naka aNda:.

小学校の 前に あるよ。

(48) acja: iQta: oto: ja:=naka 'u:N.

明日は あなたの お父さんは 家に いる？

(49) kuzu to:kjo:=naka 'u:nu Nmaga=ga asibi:ga cjo:taN.

去年 東京に いる 孫が 遊びに 来ていた。

〈うけみのあい手〉

naka 格の人名詞はうけみの形をとる動詞とくみあわさって、うけみのあい手をあらわす。(50)の例のように物名詞が人のようにあらわされてうけみのあい手をあらわすこともできる。

(50) zira:=ja gaNmarihici usume:=naka nura:QtaN.

二郎は いたずらして おじいさんに 怒られた。

(51) kuru kuruma:=naka haniraQti.

黒い 車に はねられた。

8.1.6 ni 格

ni 格の時間名詞は、状況語としてはたらいて文のあらわす出来事の実現する時間をあらわす。これまで、時間名詞に限られて状況語としてはたらく例しか確認できていない。

(52) se:ziNsiki=nu ba:i=ni ciN cici.

成人式の 時に 着物を 着た。

(53) wano: niNzjuru me:=ni deNki ke:cjaNdo:.

私は 寝る 前に 電器を 消したよ。

8.1.7 Nzi 格

Nzi 格の空間名詞は、状況語としてはたらし〈動きや状態がなりたつ場所〉をあらわす。格助辞 Nzi は、動詞 icjuN（行く）の中止形 Nzi（行つて）が文法化したものである。はなし手のいる場所（発話の場所）と異なる空間で動作が行われるばあいに使われる。この点で次節の uti 格と異なる。ただし、この区別は失われつつあるようである。

(54) ma:=Nzi asibuga.

どこで 遊ぶ？

(55) waQta: ja:=Nzi asibaja:.

私の 家で 遊ぼうよ。

8.1.8 uti 格

uti 格の空間名詞は、空間の状況語としてはたらし、〈動きや状態がなりたつ場所〉をあらわす。格助辞 uti は、動詞 uN（居る）の中止形 uti（居て）が文法化したものである。

(56) cinu: mici=uti do:kju:sei=tu icjataN.

昨日 道で 同級生と 会った。

(57) mici=uti sjo:gaQko:=nu ko:cjo:seNse:=Nkai icjataN.

道で 小学校の 校長先生に 会った。

8.1.9 hi 格

hi 格の名詞は、間接対象の補語、修飾語としてはたらく。

間接対象（道具）

hi 格の物名詞は、かざられ動詞であらわされる動作の成立をたすける〈道具〉をあらわす。格助辞 hi は、動詞 huN（する）の中止形 hi（して）が文法化したものである。

(58) kuruma:=hi icuNdo:.

車で いくよ。

修飾語（動作のようす）

hi 格の状態名詞は述語のあらわす動作や状態のようすをあらわす。

(59) mu:ru=hi umi=Nkai uriQti naNzaiwa=madi aQci icuNta:.

みんなで 海に 降りて ナンザ岩まで 歩いて いくよ。

(60) wanoja:i. mu:ru=hi su:zi hu:bahana:.

わあ！ みんなで お祝いを するんだよね？

8.1.10 kara 格

kara 格の名詞は、間接対象の補語、時間の状況語としてはたらく。

〈やりとりのあい手〉

kara 格の人名詞は、求心的方向の授受のあい手をあらわす。

(61) dusi=kara hoN 'i:te:hĩ:.

友達から 本を もらったよ。

〈出発点〉

kara 格の空間名詞は、文の中で間接対象の補語としてはたらき、移動動作の出発点をあらわす。

(62) agatu:na:=kara cjaNba:na:.

遠いところから 来たの？

(63) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo:.

あの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んでは いけないよ。

(64) cinu: kaidaN=kara utiti.

昨日 階段から 落ちた。

(65) uka:hagutu na: ki:=kara urira:.

危ないから もう 木から 降りろ。

〈動きや状態がはじまるとき〉

kara 格の時間名詞は時間の状況語としてはたらき、動きや状態がはじまるときをあらわす。

(66) waQtaja: nama=kara na:ha=Nkai asibi:ga icuNdo:.

私たちは 今から 那覇に 遊びに いくよ。

(67) nizi=kara asiba.

二時から 遊ぼう。

8.1.11 madi 格

madi 格の後接した場所名詞は、文の中で補語としてもちいられて〈ゆくさき〉をあらわす。

(68) masija: cja:hici na:ha=madi icugahĩ:.

いいね。 どうやって 那覇まで いくの？

(69) mu:ru=hi umi=Nkai uriti naNzaiwa=madi aQci wataiNta:.

皆で 海に 降りて ナンザ岩まで 歩いて いくよ。

8.1.12 tu 格

tu 格の人名詞は、間接対象の補語としても修飾語としてもはたらく。かざられ動詞があ

らわす動作をともしおこなう〈なかま〉をあらわす。このとき、述語であらわされる動作は、かならずしもこの種の対象語を必要としない。

〈相互動作のあい手〉

tu 格の人名詞は、間接対象の補語としてもちいられ、相互動作をあらわす動詞のあらわす動作の〈あい手〉をあらわす。

(70) waQta: ?aNma:=tu mazuN icuNdo:.

私の お母さんと 一緒に いくよ。

〈動作の様態〉

tu 格の人名詞は、述語のあらわす動作をかざる修飾語としてはたらく。

(71) cinu: mici=uti do:kju:sei=tu icjataN.

昨日 道で 同級生と 会った。

次の=tu の形式は、他の単語に対して同種の関係をもつ二つ以上の名詞のあいだの関係をあらわすならべの助辞である。本来は、格のくつつき、とりたてのくつつきに加えてならべのくつつきとして扱わなければならないが、紙幅の都合上、また、用例がこれのみのため、ここにあげておく。

(72) merikiNgu:=tu tamagu=tu maNziti.

小麦粉と 卵と 混ぜた。

8.1.13 juka 格

juka 格の名詞は、主語でしめされるものと比較されるものをしめしている。例えば、次の例は、現在の状態を、昨日の状態と比較して述べている。

(73) cinu:=ja hanako:=ja gaNzu:jatahiga cu:=ja cinu:=juka waQsaku=ru nato:hĩ:.

昨日は 花子は 元気だったが 今日は 昨日より 悪く なっているの。

(74) teNpura=juka sasimi=garu ma:haNhi:.

テンプラより 刺身が すきだね。

8.1.14 引用 Ndi

名詞の格として扱うべきかまだわからないが、引用、内容をしめす Ndi が名詞にくつつく例をあげておく。

(75) Nkase: arerugi:=Ndi muno: ne:Ntagutu warabi:=ja mu:ru gaNzu:hataNdo:ja:.

昔は アレルギーって ないから 子供たちは みんな 元気だったよね。

(76) ure: nu:=Ndi ju:ga.

これは なんて いうの。

8.2 格＝とりたて

名詞は、「格によって文のなかの他の単語に対することがら上の関係をあらわすが、そこに表現されているものごとが、現実にある同類のものごとに対してどのような関係にあ

るかを話し手のたちばかりからあらわしわけることができるⁱⁱ⁾。この時、とりたて助辞=**ja** (は)、=**N** (も)、=**ru** (こそ) をつけてとりたての形をつくる。=**bika:** (だけ)、=**madi** (まで) もとりたて助辞に含めることができる。

今までの調査のなかで確認できたとりたての形式をすべてあげて、格との関連を示すと次のように整理できる。(空白は確認できていない形式である)

【表 2】格ととりたての関連

とりたて助辞 のつかない形	ja のつく形	N のつく形	ru のつく形	bika: のつく形
Φ	ja	N	ru	bika:
ga			garu	
Nu			nuru	
Nkai	Nkaija		Nkairu	(Nkaibika:ru)
naka	nakaja	nakaN		
Ni				
Nzi				
uti				
Hi	hija		hiru	
kara			kararu	
madi		madiN		
Tu				
備考				連用的な格 bika: は、= ru や= ja のとりたて助辞をつけることができる。

ハダカの形、=**nu**、=**ga**、あるいは、=**ja**、=**garu**、=**nuru**、=**nuja** などのとりたて助辞を後接させた名詞は主語になることができるが、文脈や、他の文の部分との関係とのなかでどの形式が選ばれるかが決まる。主語のはたす意味や機能は異なり、助辞の使い分けのなかに話し手主体による現実のとらえ方があらわれるのである。上記の形式の使い分けと関連して、このような主語の意味や機能についても見ていかなければならないが、これを形態論で扱うには限界があるため、稿を改めて述べる。本稿では、構文論的な観点を取り入れながらも、形態論的な観点を中心に述べることにする。

8.2.1 =ja

この形は、基本的には、名詞でさしめられていることがらを、同種のことがらと対比している。

(77) cinu:=ja hanako:ja gaNzu:jatahiga cu:=ja cinu:juka waQsakuru nato:hī:.

昨日は 花子は 元気だったが 今日 昨日より 悪く なっているの。

(78) hanako:=ja ?aNbe: waQsatahiga taru:=ja gaNzu:to:Ndo:ja:.

花子は 体調が 悪かったが 太郎は 元気 だったよ。

また、とりたて助辞 ja は、名詞に後接するとき、語末が短母音の時音融合して長母音であられる。

karazi (髪)	karazje: (髪は)、kucje: (口は)
kuruma (車)	kuruma: (車は)、?acja: (明日は)、nama: (今は)
kutu (事)	kuto: (事は)、?iNno: (犬は)、?weNcjo: (ネズミは)
siNbuN (新聞)	siNbuno: (新聞は)

名詞述語文、形容詞述語文の主語は、ja を後接させた形式になる。

(79) garasa:=ja kurudi.

カラスは 黒い。

(80) ?ari ki:=ja caQsaga takahagaja:

あの 木は どれくらい 高いかね。

(81) taru:=ja gaNzu:muNjaNdo:

太郎は 元気だよ。

動作の客体をあらわす名詞に ja を後接させて文頭に配置させ、それを主題にして連語述語で述べたてる文をつくる。

(82) ?uri kuto: cuNkai ?aNnunajo:.

この ことは 人に いうなよ。

(83) na: mo:i=ja ?ubitaNna:.

もう 踊りは 覚えた？

(84) waQta:ja:ja siNbuno: turaNhĩ:.

うちでは 新聞は 取らないよ。

(85) ?uri tamaN=ja ta:ga katami:gahĩ:.

この タマンは 誰が 担ぐの？

否定文の主語は ja を後接させる。

(86) ?ari maja:ja ?weNco: ?u:raNhi:N.

あの ねこは ネズミは おいかけない。

(87) waQta: ?iNno: ma:hamuNtu ma:ko:ne:Nnu munuga wakati

うちの 犬は おいしいものと おいしくないものが わかって

ma:ko:ne:Nnu muno: kamaNhĩ:

おいしくないものは 食べないよ。

=Nkaija (kaija)

(88) ?aNniciN wano: ?uri kabi=Nkaija namae kakaNdo:.

そういわれても、私は この 紙には 名前を 書かないよ。

(89) ?ari Qco: na: ja:=Nkaija kurahaN.

あの 人は もう 家には こさせない。

(90) ?ure: atarahanu muNjagutu ?ja:muN=kaija i:rahaN.

これは 大事な ものなので お前には あげない。

=nakaja

(91) i:N. ?acja: ?oto:ja ja:=nakaja uraNdo:.

いいえ。あした お父さんは 家には いないよ。

=hija

(92) ?are: heNzaho:geN=he: haNdama:Ndiru ?uNdo:.

あれは 平安座方言では ハンダマーと いうよ。

8.2.2 =ru

強調文において焦点をあてて強調する部分には ru が後接される。ru が後接されるとき、必ず述語の形式が強調形になるとは限らない。

(93) NQtsahja:!
nama=ru ubiNzacjahĩ:.

そうそう！ 今 思い出したの！

(94) ?ure: to:ma:mi:=ru janda:.

これは ソラマメ だよ。

(95) ?ure: tamana:=ru jaNdo:.

これは キャベツ だよ。

(96) ?N: heNza: hazimiti=ru cjahĩ:.

うん。平安座は はじめて 来たよ。

(97) ?ari maja:ja ?weNcu=ru ?u:kuruci.

あの ねこは ネズミを おいかける。

(98) ?araNdo: kazimaja:ja kju:zu:hicinu su:zi. ga:zi:ba:ruja

違うよ。カジマヤーは 97 の お祝い。ガージーバールは

kju:zu:kunu su:zi=ru jaNda:.

99 の お祝い だよ。

=garu

(99) tempurajuka sasimi=garu ma:haNhĩ:.

テンプラより 刺身が すきだね。

(100) ?ja:=garu jakubanakaija iʃuru.

お前=が 役場には いくんだ。

=nuru

(101) wano: irabucja: sasimi=nuru kamibusahĩ:.

私は アオブダイの さしみが 食べたいよ。

=Nkairu

- (102) Nmi=Nkairu ?icuhĩ:.
海に いくの。

=kararu

- (103) wano: ?urasoe=kararu cjahi:N.
わたしは 浦添から 来たよ。
(104) sake: kumi=kararu cjukuihĩ:.
酒は 米から 作るね。

=hiru

- (105) ni:muci Nbuhano: tai=hiru mucu Nzjassa:.
荷物が 重いから 二人で もって 行くよ。

=Ndiru

- (106) ?are: heNzaho:geNhe: haNdama:=Ndiru ?uNda:.
あれは 平安座方言では ハンダマーと いうよ。
(107) wano: hacue:=Ndiru ?uNdo:.
私は ハツエって いうよ。

8.2.3 =N

- (108) ?N: ziko: ?umusaNdo: sugaisu:bu=N huNdo:.
うん。とても おもしろいよ。 仮装勝負も するよ。
(109) taru:ja ?ibira:jagutu cja:=N NzjahaNha:.
太郎は けちだから 茶も ださないよ。
(110) ?utacukuja:=N uraNhĩ:.
歌を 作る 人も いない。
(111) waQta: ?usume:ja sakiN numaN. tabaku=N hukaN.
私たちの おじいさんは 酒も 飲まない。 たばこも ふかない。

=nakaN

- (112) haNdama:ja jamatu=nakaN ?aN.
ハンダマーは 本土にも あるの？

4.3.2 =madiN

- (113) hacigwaciuduinu tucine: pa:pa:=madiN mo:taN.
八月踊りの 時には おばあさんまでも 踊った。

8.2.4 =bika:

範囲を限定する。bike:という形式もみられたが、この形式は現在、=bike:Nkai (だけに)

や=bike:ja (だけは) のような複合的な形式のなかでのみみられる。

(114) saki=bika: ?are: nu:N ne:NtiN simuha.

酒だけ あれば なにも なくて いいよ。

(115) ?unu hanase: uttu=bike:Nkai hanasi hicjaN.

この 話は 弟だけに 話を した。

(116) wano: ?Nmu=bike:ja kamaNdo:.

私は 芋だけは 食べないよ。

=Nkaibike:ru (にだけ) のような複合的な形式もみられた。

(117) ?unu hanase: uttu=Nkaibika:ru aNnicje:tahĩ:.

この 話は 弟にだけ はなしてあったね。

注記

ⁱ [鈴木重幸 (1972) pp.205]

ⁱⁱ [鈴木重幸 (1972) pp.231]

参考文献

新垣貞雄 (2012) 『島乃影 平安座』、尚生堂、沖縄。

言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論』、むぎ書房、東京。

国立国語研究所 (1983) 『沖縄語辞典』、大蔵省印刷局、東京。

鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』、むぎ書房、東京。

當山奈那 (2015) 「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』、第 4 号、pp.47～60、琉球大学国際沖縄研究所、沖縄。

當山奈那 (2016) 「沖縄語平安座方言の受動、使役、授受」『琉球諸語記述文法Ⅲ』、沖縄。

平安座郷友連合会 (2008) 『平安座郷友連合会創立 25 周年記念誌』、ゆい出版、沖縄。

琉球大学琉球方言研究室 (2011) 『沖縄県うるま市平安座島の方言ー語いと音声を中心にー』、琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室、沖縄。

琉球大学琉球方言研究室 (2012) 『沖縄県うるま市平安座島の方言ー平安座島の名詞』、琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室、沖縄。

沖縄県奥武島方言

沖縄県奥武島

沖縄県奥武島方言

中本 謙（琉球大学）

1. 奥武方言の音声

1. 1 拍体系表¹

/イ/	/エ/	/ア/	/オ/	/ウ/	/ツ ヤ/					/ツ ワ/	/ツ ン/
[ʔi]	[ʔe]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ʔja]					[ʔwa]	[ʔm,ʔn]
[i]	[e]	[a]	[o]	[u]							
/ヒ/	/ヘ/	/ハ/	/ホ/	/フ/	/ヒ ヤ/					/フ ア/	
[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[ɸu]	[ça]					[ɸa]	
	[ɸe]										
/イ イ/	/イ エ/			/ウ ウ/	/ヤ/	/ヨ/	/ユ/		/ウ エ/	/ワ/	/ン/
[ji]				[wu]	[ja]	[jo]	[ju]		[we]	[wa]	[m,n,ŋ,N]
/ツ キ/	/ツ ケ/	/ツ カ/	/ツ コ/							/ツ ク ヲ/	
[kʰi]	[kʰe]	[kʰa]	[kʰo]							[kʰwa]	
/キ/	/ケ/	/カ/	/コ/	/ク/		/キ ユ/	/ク イ/	/ク エ/	/ク ヲ/		
[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]		[kju]	[kwi]	[kwe]	[kwa]		
/ギ/	/ゲ/	/ガ/	/ゴ/	/グ/					/グ ヲ/		
[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]					[gwa]		
/ツ テ イ/		/ツ タ/									
[tʰi]		[tʰa]									
/テ イ/	/テ/	/タ/	/ト/	/ト ウ/							
[ti]	[te]	[ta]	[to]	[tu]							
/デ イ/	/デ/	/ダ/	/ド/	/ド ウ/							
[di]	[de]	[da]	[do]	[du]							
/ツ チ/	/ツ チ エ/	/ツ チ ヤ/	/ツ チ ヨ/	/ツ チ ユ/							
[tʰi]	[tʰe]	[tʰa]	[tʰo]	[tʰu]							
/チ/	/チ エ/	/チ ヤ/	/チ ヨ/	/チ ユ/							
[tʃi]	[tʃe]	[tʃa]	[tʃo]	[tsu]							
				[tʃu]							
/シ/	/セ/	/サ/	/ソ/	/ス/							
[ʃi]	[se]	[sa]	[so]	[su]							
			[ʃo]								

¹ 語頭において母音単独の前では、/ʔ/グロッタルストップ（声門閉鎖音）があらわれるが、便宜的にカタカナ表記では、省略して示す。

/ジ/	/ジエ/	/ジャ/	/ジョ/	/ジュ/						
[dʒi]	[dʒe]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]						
		[dʒa]		[dʒu]						
/リ/	/レ/	/ラ/	/ロ/	/ル/						
[ri]	[re]	[ra]	[ro]	[ru]						
/ニ/	/ネ/	/ナ/	/ノ/	/ヌ/						
[ni]	[ne]	[na]	[no]	[nu]						
/ビ/	/ベ/	/バ/	/ボ/	/ブ/						
[pi]	[pe]	[pa]	[po]	[pu]						
[pʰi]	[pʰe]	[pʰa]	[pʰo]	[pʰu]						
/ビ/	/ベ/	/バ/	/ボ/	/ブ/						
[bi]	[be]	[ba]	[bo]	[bu]						
	/ツ メ/		/ツ モ/							
	[mʰe]		[mʰo]							
/ミ/	/メ/	/マ/	/モ/	/ム/						
[mi]	[me]	[ma]	[mo]	[mu]						
/ツ/ [p, s, t, k]										
/ー/ [ː]										

1. 2 奥武方言の拍語例

/イ/ [ʔi]	イタ[ʔita] (板) イトゥ[ʔitu] (絹糸) イミ[ʔimi] (夢)
/エ/ [ʔe]	エーク[ʔe:ku] (櫓) エーダ[ʔe:da] (間)
/ア/ [ʔa]	アジ[ʔadʒi] (味) アカングワ[ʔakaŋgwa] (赤ん坊) アンマー[ʔamma:] (母)
/オ/ [ʔo]	オーエー[ʔo:e:] (喧嘩) オーバー[ʔo:ba:] (青い葉)
/ウ/ [ʔu]	ウキーン[ʔuki:N] (起きる) ウワイン[ʔuwaiN] (終わる) ウーシ[ʔu:ʃi] (臼)
/ツ ヤ/ [ʔja]	ツヤー[ʔja:] (お前)
/ツ ワ/ [ʔwa]	ツワー[ʔwa:] (豚) ツワーチチ[ʔwa:tʃitʃi] (天気)
/ヒ/ [çi]	ヒー[çi:] (火) ヒチエー[çitʃe:] (ひたい) ヒンスー[çinsu:] (貧しい)
/ヘ/ [he]~[ɸe]	ヘーハン[he:haN] (速い) ヘー[he:] (灰) ヘー[ɸe:][he:] (南)
/ハ/ [ha]	ハヤ[haja] (柱) ハニーン[hani:N] (跳ねる) タカハン[takahaN] (高い)
/ホ/ [ho]	ホームイン[ho:muiN] (葬る) オホーク[ʔoho:ku] (たくさんの)
	ホートウ[ho:tu] (鳩)
/フ/ [ɸu]	フクイ[ɸukui] (ほこり) フニ[ɸuni] (船) サフン[safuN] (石鹸)
/ヒ ヤ/ [ça]	ヒヤーク[ça:ku] (百)
/ファ/ [ɸa]	ファア[ɸa:] (歯) ジーフアー[dʒi:ɸa:] (櫛)

/イ イ/ [ji]	イイキガ[jikiga] (男) イイールー[ji:ru:] (紐)
/イ エ/ [je]~[e]	イエリ[jeri] (襟)
/ウ ウ/ [ʷu]~[wu]	ウー トウ[wu:tu] (夫) アーウウ[ʔa:ʷu] (おし)
/ヤ/ [ja]	ヤニ[jani] (屋根) ヤー[ja:] (家) ハヤ[haja] (柱)
/ヨ/ [jo]	ヨーガリ[jo:gari] (瘦せた)
/ユ/ [ju]	ユクイン[jukuiN] (休む) ユー[ju:] (お湯) ツイユ[ʔiju] (魚)
/ウ エ/ [we]	ウェーカ[we:ka] (親戚)
/ワ/ [wa]	ワラビ[warabi] (童) ワシリーン[wafiri:N] (忘れる) カワイン[kawaiN] (変わる)
/ツ キ/ [kʰi]	ツキルワ[kʰiruwa] (与える)
/ツ ケ/ [kʰe]	ツケーワ[kʰe:wa] (食え)
/ツ カ/ [kʰa]	ツカイン[kʰaiN] (食う)
/ツ コ/ [kʰo]	ツコーナ[kʰo:na] (食うな)
/ツ クワ/ [kʰwa]	ツクワ[kwa] (子)
/キ/ [ki]	キブシ[kibuʃi] (煙) サキ[saki] (酒) アキーン[ʔaki:N] (開ける)
/ケ/ [ke]	ケートウイン[ke:tuiN] (奪う) ケームン[ke:muN] (食べ物)
/カ/ [ka]	カムン[kamuN] (食べる) カー[ka:] (皮膚) アカマイ[ʔakamai] (肛門)
/コ/ [ko]	コーイン[ko:iN] (買う) コージ[ko:dʒi] (黴、麴)
/ク/ [ku]	クスイ[kusui] (薬) タバク[tabaku] (煙草) サク[saku] (癩癧)
/キユ/ [kju]	キューショグワチ[kju:ʃo:gwaʃi] (旧正月)
/ク イ/ [kʷi]~[kwi]	クイー[kwi:] (声) クイーティ[kwi:ti] (越えて)
/ク エ/ [kwe]	クエートン[kwe:toN] (太っている)
/ク ワ/ [kwa]	クワースン[kwa:suN] (釣る) ヤックワン[jakkwaN] (睾丸)
/ギ/ [gi]	ハギタン[hagitaN] (はげた) ヒンギーン[çiŋgi:N] (逃げる)
/ゲ/ [ge]	カンゲーイン[kange:iN] (考える) タゲースン[tage:suN] (耕す)
/ガ/ [ga]	カガン[kagaN] (鏡) ガンジュー[gandʒu:] (頑丈)
/ゴ/ [go]	ゴーヤー[go:ja:] (苦瓜) イイーゴーハン[ji:go:haN] (痒い)
/グ/ [gu]	グサン[gusaN] (杖) ヒング[çiŋgu] (垢) シーグ[ʃi:gu] (小刀)
/グワ/ [gwa]	アカングワ[ʔakangwa] (赤ん坊) ニンセーグワ[ninse:gwa:] (少年)
/ツ ティ/ [tʰi]	ツティーチ[tʰi:tʃi] (一つ)
/ツ タ/ [tʰa]	ツタイ[tʰai] (二人) ツターチ[tʰa:tʃi] (二つ)
/ティ/ [ti]	ティチ[titʃi] (敵) ティー[ti:] (手) タティ[tati] (盾)
/テ/ [te]	テンブス[tembusu] (へそ)
/タ/ [ta]	タティーン[tati:N] (建てる) ター[ta:] (田) ツイタ[ʔita] (板)

/ト/[to]	タットーン[tatto:N] (立っている) トー[to:] (もういいの意)
/トゥ/[tu]	トゥマイン[tumaiN] (泊まる)
/ディ/[di]	ディー[di:] (さあ、勧誘) ユサンディ[jusandi] (夕方) ヌディー[nudi:] (喉)
/デ/[de]	デージ[de:dʒi] (大事) チョーデー[tʃo:de:] (兄弟)
/ダ/[da]	ダマスン[damasuN] (だます) クダミーン[kudami:N] (踏む)
/ド/[do]	ドーグ[do:gu] (道具)
/ドゥ/[du]	ドゥク[duku] (毒) マドゥ[madu] (窓)
/ツチ/[tʃi]	ツチスムン[tʃiʃisumuN] (来てよい)
/ツチェ/[tʃe]	ツチェーナラン[tʃe:naraN] (来てはいけない)
/ツチャ/[tʃa]	ツチャー[tʃa:] (常に) ツチャン[tʃa:N] (来た)
/ツチョ/[tʃo]	ツチョーン[tʃo:N] (来ている)
/ツチュ/[tʃu]	ツチュ[tʃu] (人)
/チ/[tʃi]	チナ[tʃina] (綱) チチャラ[tʃitʃara] (力) チー[tʃi:] (血)
/チュ/[tʃe]	チェー[tʃe:] (感嘆詞、まあ) ヒチェー[çitʃe:] (ひたい)
/チャ/[tʃa]	チャー[tʃa:] (茶) ツイチャ[ʔitʃa] (烏賊)
/チョ/[tʃo]	チョーデー[tʃo:de:] (兄弟) チョードゥ[tʃo:du] (丁度)
/チュ/[tsu]~[tʃu]	チュクイン[tsukuiN] (作る) ヒチュン[çitʃuN] (挽く) チュー[tʃu:] (今日)
/シ/[ʃi]	シミ[ʃimi] (炭) シーシ[ʃi:ʃi] (肉)
/セ/[se]	ニンセーグワ[ɲinse:gwa:] (少年) セーク[se:ku] (大工)
/サ/[sa]	サジ[sadʒi] (さじ) サニ[sani] (種)
/ソ/[so]~[ʃo]	ソーキ[so:ki] (籠) ソーグワチ[so:gwaʃi] (正月)
/ス/[su]	スリー[suri:] (皿) メースン[me:suN] (燃やす)
/ジ/[dʒi]	マジリ[madʒiri] (間切) ナジーン[nadʒi:N] (脱ぐ)
/ジェ/[dʒe]	ヒジェー[çidʒe:] (左) ジェージェー[dʒe:dʒe:] (悪酔いしている様子)
/ジャ/[dʒa]~[dʒa]	ジャシチ[dʒaʃitʃi] (部屋) ウウジャサー[wudʒasa:] (伯父)
/ジョ/[dʒo]	マジョーン[madʒo:N] (一緒に) ジョートー[dʒo:to:] (上等)
/ジュ/[dʒu]~[dʒu]	ジュリ[dʒuri] (どれ) ジュー[dʒu:] (尾) ニンジュン[nindʒuN] (眠る)
/リ/[ri]	イリチリー[ʔiritʃiri:] (住み込み)
/レ/[re]	イレイン[ʔire:iN] (答える)
/ラ/[ra]	ワラビ[warabi] (子ども) ハタラチュン[tataratsuN] (働く)
/ロ/[ro]	カロスン[karusuN] (貸す)

/ル/ [ru]	ハル[haru] (畑) クルハン[kuruhaN] (黒い)
/ニ/ [ni]	ニー[ni:] (根) ニーユン[ni:juN] (煮る)
/ネ/ [ne]	ネー[nē:N] (無い)
/ナ/ [na]	ナビ[nabi] (鍋) クナ[kuna] (粉)
/ノ/ [no]	ノースン[no:suN] (治す) ノージ[no:dʒi] (虹)
/ヌ/ [nu]	ヌディー[nudi:] (喉) ヌムーン[numu:N] (飲む)
/ピ/ [pʰi]~[pi]	ッタッピラカスン[tʰappirakasuN] (叩いて潰す)
/ペ/ [pʰe]~[pe]	シンペー[ʃimpe:] (唾)
/パ/ [pʰa]~[pa]	パーラミカスン[pa:ramikasuN] (いきなりパンとたたく)
/ポ/ [pʰo]~[po]	ポーポー (料理の一種) テッポー (鉄砲)
/プ/ [pʰu]~[pu]	プールカー[pu:ruka:] (耳が聞こえない様子)
/ビ/ [bi]	クビ[kubi] (壁) カビ[kabi] (紙)
/ベ/ [be]	ベー[be:] (倍) ハベールー[ha:be:ru:] (蝶々)
	バーバー (山羊の幼児語)
/バ/ [ba]	ヒーバナ[çi:bana] (炎) バンバラー[banbara:] (膀胱)
/ボ/ [bo]	ボージリ[bo:dʒiri] (棒切れ)
/ブ/ [bu]	キブシ[kibuʃi] (煙) トゥブン[tubuN] (飛ぶ)
/ツメ/ [mʰe]	ツメーン[mʰe:N] (いらっしゃる)
/ツモ/ [mʰo]	ツモーリ[mʰo:ri] (いらっしゃい)
/ミ/ [mi]	ミチーン (閉める) [mitʃi:N] シミ[ʃimi] (炭)
/メ/ [me]	メーイン[me:iN] (燃える) ウスメー[ʔusume:] (祖父)
/マ/ [ma]	マーハン[ma:haN] (おいしい) ウウバマー[wubama:] (祖母)
/モ/ [mo]	モーイン[mo:iN] (踊る) モー[mo:] (野原)
/ム/ [mu]	カムン[kamuN] (食べる) タムン[tamuN] (薪)
/ツン/ [ʔm, ʔn]	ツンマリーン(生まれる)[ʔmmari:N] ツンドーン(熟する)[ʔndo:N]
/ン/ [m, n, ŋ,N]	アンマー (母) [ʔamma:] ニンジン (人間) [nindʒiN]
	イイナグングワ (娘) [jinagunɡwa]
/ツ/ [p, t, k, s]	ッタッピラカスン (叩いて潰す) [tʰappirakasuN] ウットゥ (弟)
[ʔuttu]	
	イイックワ (甥) [jikkwa] ウッサ (これまで) [ʔussa]
/ー/ [ː]	ヒー[çi:] (火) ヘーハン[he:haN] (速い) アンマー[ʔamma:] (母)
	ホートゥ[ho:tu] (鳩) ウーシ[ʔu:ʃi] (臼)

2. 沖縄県奥武方言の助詞

2. 1 格助詞

(1) ga

主格

wa:ga ʔitsuN. (私が行く。)

連体

ʔariga muN. (あれのもの。)

次の自称、対称の代名詞は、無助詞で用いられる。

wa: muN. (私のもの。) ʔja: muN. (お前のもの。)

(2) nu

主格

ʔaminu ɸuiN. (雨が降る。)

tʃikuranu tudo:N. (ボラが跳んでいる)

連体

ɸuʃinu na:. (星の名前。)

ki:nu ɸa:. (木の葉。)

奥武方言では、主格、連体用法ともに、承ける体言による、ガとヌの使い分けがみられる。例えば、主格用法では、「自称・対称の代名詞」「指示代名詞（人、事物）」「人名」「親族呼称」は、ガで承け、それ以外の一般名詞はヌで承けるという使い分けがみられる²。

(3) ɸ (無助詞)

対象（を）は、無助詞で表される。

saki numuN. (酒を飲む。)

madʒo:n ʃigutu ha. (一緒に仕事をしよう。)

「水が飲みたい。」のような対象の「が」は、midʒi mumibusahaN のように表される。

(4) ni

対象の出どころ

ʔamma:ni nura:ttaN. (母に叱られた。)

場所

hanako:ja kuzukara to:kjo:ni wu:N. (花子は去年から東京にいる。)

時

² 主格用法においては、ガの領域が拡大していく傾向がみられ、以下のように一般名詞を承ける場合に新たな意味の区別が確認される。

tʃikuraga tudo:N. (ボラが(離れたところを)跳んでいる。) 遠距離。

tʃikuranu tudo:N. (ボラが(すぐ傍を)跳んでいる。) 近距離。

hanako:ja hatʃigwatʃini ke:ti tʃu:N. (花子は8月に帰ってくる。)

(5) nakai

対象の出どころ

taru:ja ʔannakai sugurattaN. (太郎はあれに殴られた。)

場所

hono: ʔmmanakai ʔaN. (本は、そこにある。)

(6) ŋkai

対象

hanako:ja wubama:ŋkai ni:tʃo:N. (花子はおばさんに似ている。)

到着点

to:kjo:ŋkai namadu tʃitʃaN. (東京に今、着いた。)

方向

ʔagarinakai ʔikuwa. (東へ行け。)

(7) kai

方向

gakko:ŋkai ʔikuwa. (学校へ行け。)

(8) tu

共同動作の相手

tʃinu: duʃigwa:tu ʔafidaN. (昨日、友達と遊んだ。)

(9) kara

起点

ha:me:ja tʃinu:kara jamme:ʃiru ninto:N. (祖母は昨日 から 病気で寝ている。)

手段

ʔanuʃimanʃakaija ʔunikara ʔitsuN. (あの島へは船で行く。)

行動場所

su:ja hamakara ʔatʃo:taN (父は浜を歩いていた。)

(10) ndʒi

場所

tʃu:ja ʔja:ndʒi ʔafibunde:. (今日は家で遊ぶよ。)

(11) ʃi

道具

taru:ja bo:ʃi saburo: sugutaN. (太郎は棒で三郎を殴った。)

材料

ʔunu kwa:ʃe: mamiʃi tsukuiN (その菓子は豆で作る。)

手段

nahamadi basuʃi ʔndʒaN. (那覇までバスで行った。)

(1 2) sa:ni³

道具

taru:ja bo:sa:ni saburo: sugutaN. (太郎は棒で三郎を殴った。)

材料

ʔunu kwa:ʃe: mamisa:ni tsukuiN (その菓子は豆で作る。)

手段

nahamadi kurumasa:ni ʔndʒaN. (那覇まで車で行った。)

(1 3) jaka

比較の対象

wanne: ʃi:ʃijaka ʔijo:maʃi. (私は肉 より 魚が良い。)

2. 2 とりたて

奥武方言のいわゆるとりたての助詞には、ja (は)、n (も)、du (ぞ)、ga (か)、madi (まで)、bika:n (ばかり) などがある。

(1) ja (は)

ʔja:ja tsurahanja. (あなたは美しいね。)

次のように規則的に承ける語の末尾音と融合することもある。

浜は hama+ja→hama: a+ja→a:

あれは ʔari+ja→ʔare: i+ja→e:

雲は kumu+ja→kumo: u+ja→o:

薪は tamuN+ja→tamuno: N+ja→no:

ただし、長音で終わる語、連母音で終わる語に ja が接続した場合は、mi:ja (目は)、mai:ja (毬は) 等のように融合しない。

(2) n (も)

ʔarin kurin tsurahanu. (あれもこれも美しい。)

(3) du (ぞ)⁴

wa:gadu wassaru (私が悪い)

du でとりたて、「du 結び形」⁵と呼応する。強意をそえる。

(4) ga (か)

³ ʃi とほぼ同じ意味で用いられる。

⁴ du は音声的に ru であらわれることもある。

⁵ 奥武方言では、連体形は wassanu であり、形が異なる。

ta:gaga tsu:ra wakaraN. (誰が来るかわからない。)
未然形と呼応し、疑問を表す。

(5) madi (まで)

ja:madi ?uti ?unuharu ko:tanna. (家 まで 売って、その畑買ったか。)

(6) bika:ŋ (ばかり)⁶

ʃi:ʃibika:ŋ kado:N. (肉 ばかり 食べている。)

⁶ baka:ŋ という形もあらわれる。

沖縄県久高島方言

沖縄県久高島方言

新永悠人（大東文化大学・成城大学）

1. 構成

本報告では、2節で久高島方言の音節一覧表を、3節で格助詞と副助詞の一覧を、4節で島内の小中学校における方言教育についてまとめる。2節と3節のデータは、1927年に久高島で生まれた話者（女性；15歳～40歳過ぎまで沖縄本島および鹿児島で生活。それ以外の期間は久高島で生活）による。

2. 音節一覧表

2. 1. 音素と音節構造

久高島方言の母音音素は表1に示した5種類である。/e/と/o/を持つ語彙は少なく、そのほとんどが長母音として現れる。

表 1. 母音目録

	Front	Central	Back
High	i		u
Mid	e		o
Low		a	

子音音素は表2に示した13種類と、原音素の/N/である。カギ括弧内は異音を示す（波線は自由交替、コンマで区切られたものは条件異音を示す）。

表 2. 子音目録

	両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋・声門
阻害 有声	b	d [d~ɾ]	g
無声 無気	p [p~pʰ]	t [t~tʰ]	k [k~kʰ]
有気	pʰ [pʰ~pʰ]	tʰ [tʰ~tʰ]	h [h, ɸ, ɸ]
鼻音	m	n	
接近	w	j	

以下に、子音に関する注意点を4つ述べる。

まず1点目として、任意の子音音素（/C/）と/j/の音素連続は基本的に/C/の口蓋化（例：mjaa [mja:]「猫」）として実現するが、歯茎阻害音（/d/、/t/、/tʰ/）の場合だけ以下ようになる。波線（[~]）は自由交替を示す。

(1) 「歯茎阻害音+j/」の音声的実現

・/dj/ [dʒ~dʒ]（語頭）、[z~z]（語中）

- /tj/ [tɕ]
- /tʰj/ [tɕ~s]

/dj/ と /tʰj/ は多くの場合、歯茎硬口蓋摩擦音 ([dʲz], [ɕ]) として実現する。但し、/i/ 以外の母音の前では、時に歯茎音 ([z], [s]) として実現する場合もある (例: /gadʲjaa/ [gaza:~gaza:] 「蚊」、/tʰja/ [ɕa~sa] 「下」)。現時点では印象に過ぎないが、女性の方が歯茎硬口蓋摩擦音を用いる傾向があるようだ。ただし、揺れの見られない単語もある (例: /dʲjaa/ [dʲza:] 「部屋」、/Ntʰjaa/ [nsa:] 「たち (複数標識)」、/tʰjaama/ [sa:ma] (INST))。 (1) に示した異音を /Cj/ として分析する理由は、/d/、/t/、/tʰ/ で終わる動詞語根 (例: /kuNd-/ 「結ぶ」、/ut-/ 「打つ」、/pʰutʰ-/ 「干す」) に /j/ で始まる動詞接辞 (例: 丁寧接辞の -jabi) が後接する場合に、上記の音として実現するためである (例: /kuNd-jabi-i-N/ [kudzabi:N] 「結びます」、/ut-jabi-i-N/ [utɕabi:N] 「打ちます」、/pʰutʰ-jabi-i-N/ [pʰɕugabi:N~pʰɕusabi:N] 「干します」; -i は非過去接辞、-N は終止接辞)。

なお、歯茎阻害音では /Ci/ と /Cji/ に発音上の違いがあるが (例: /ti/ [ti] vs. /tji/ [tɕi])、それ以外の子音においては /Ci/ と /Cji/ に発音上の違いはない (例: /ki/ [ki] = /kji/ [ki]; 厳密には直前の子音は口蓋化 [j] しているが、本稿では [Ci] は [Ci] として記述する)。そこで、(分割不可能な) 形態素の中の [Ci] は、音節構造が単純な方の /Ci/ として解釈する (例: /kii/ [ki:] 「木」)。

2 点目として、無声阻害音には無気と有気の対立がある。両唇音と歯茎音では、異音が破裂または破擦音として実現する場合は、無気音に比べて有気音の VOT が顕著に長い。また、摩擦音の異音を持つのは有気音のみである。静的パラトグラフィーの結果、1 名の話者 (1947 年生まれ、男性) において、/t/ と /tʰ/ の対立が能動的調音器官における舌端 (blade) と舌尖 (tip) の対立であったため (受動的調音器官はともに歯茎)、本稿では /tʰ/ の異音を [tʰ~ɕ] として示した。

3 点目として、語中の無声無気阻害音 (の一部) は喉頭化する場合がある (例: /amatʰatʰakutu/ [amatʰatʰakutu] 「甘かったから」)。

4 点目として、語中の無声有気阻害音は摩擦音として実現することが多い (例: /meepʰukama/ [me:ɸukama] 「前外間 (屋号)」、/kutʰa/ [kuɕa] 「草」)。

音節構造とモーラ (μ) は下記の通りである。C₁ と G はともに C₂ を必ず伴う。中本 (1985) のデータより、最終モーラのみが H(igh pitch) を担うことから、本稿ではモーラという単位を採用する (V₂ および C₃ には 1 モーラの長さがあるとみなす)。

$$((C_1)C_2(G))V_1(V_2) \quad \text{または} \quad ((C_1)C_2(G))V_1(C_3)$$

$$\begin{array}{cc} \downarrow & \downarrow \\ \mu & \mu \end{array} \qquad \begin{array}{cc} \downarrow & \downarrow \\ \mu & \mu \end{array}$$

【注記】

C₁: 原音素 /N/ のみが入る

C₂: あらゆる子音が入る

G: /w/ または /j/ のみが入る

V₁: あらゆる母音が入る

V₂: V₁ と同母音か、/i/ のみが入る

C₃ : 非語末では/N/、/p/、/t/、/tʰ/、/k/のいずれか。語末では/N/のみ（ただし、例外的に/am/ [am]「お母さん」【古】だけは語末が/m/ [m]で終わる）。

2. 2. 音節表

久高島方言の子音と母音の組み合わせを語例（いくつかは句や文例）とともに示す。できる限り、当該音声の組み合わせが語頭に現れる語例と、語中に現れる語例のそれぞれを集めた。同じ語例であっても異なる子音と母音の組み合わせの例として挙げる場合は再掲した。現在はあまり使用されない（話者が「古い」と判断した）語例には、日本語標準語訳の直後に「【古】」と記す。品詞の略号は、「N」＝名詞、「V」＝動詞、「A」＝形容詞、「AD」＝副詞、「P」＝助詞である（句や文例では、当該音声を持つ語の品詞を記した）。対応する日本語標準語が見つからない場合は、カギ括弧（[]）内に解説を記す。

以下の節の構成は、下記の通りである。

(2) 以下の節の構成

2. 2. 1. 母音のみ	(V)
2. 2. 2. 両唇阻害音＋母音	(/b, p, pʰ/＋V)
2. 2. 3. 歯茎・硬口蓋阻害音＋母音	(/d, t, tʰ/＋V)
2. 2. 4. 軟口蓋・声門阻害音＋母音	(/g, k, h/＋V)
2. 2. 5. 鼻音＋母音	(/m, n/＋V)
2. 2. 6. 接近音＋母音	(/w, j/＋V)
2. 2. 7. 「拗音」	(CGV)
2. 2. 8. 語頭が「撥音」	(/N/＋C)

2. 2. 1. 母音のみ

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
a	[a]	/agadi/	[agari]	N	東
		/am/	[am]	N	お母さん【古】
i	[i]	/iN/	[iN]	N	犬
		/itʰji/	[ici]	N	石
u	[u]	/uibi/	[uibi]	N	指
		/utugee/	[utuge:]	N	下あご
e	[e]	/eeNtju/	[e:ntɕu]	N	鼠（ねずみ）
		/pʰaeetʰjuN doo/	[pʰae:suN doo]	V	走るよ
o	[o]	/ooduu/	[o:ru:]	N	青色
		/oopa/	[o:pa]	N	おんぶ

2. 2. 2. 両唇阻害音（/b/, /p/, /pʰ/）＋母音

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
----	----	----	----	----	---------

/b/					
ba	[ba]	/baaki/	[ba:ki]	N	大きいかご
		/ ^h aba/	[^h aba]	N	草履
bi	[bi]	/bida/	[bira]	N	菰（にら）
		/habidaa/	[habira:]	N	蝶（ちょう）
bu	[bu]	/budabusi/	[burabuei]	N	群れ星
		/habu/	[habu]	N	昆布
be	[be]	/naNbeeda/	[nambe:ra]	N	糸瓜（へちま）
		/habeedu/	[habe:ru]	N	カベール御嶽
bo	[bo]	/booe/	[bo:e:]	V	奪うこと
		/guNboo/	[gumbo:]	N	牛蒡（ごぼう）
/p/					
pa	[p(?)a]	/kaNpatji/	[kampatei]	N	[頭部の傷・禿げの一種]
		/apat ^h aN/	[apaʃan]	A	（味が）薄い
pi	[p(?)i]	/pii/	[pi:]	N	火
		/piipidjaa/	[pi:piza:]	N	山羊（やぎ）
pu	[p(?)u]	/puN/	[pun]	N	船
		/ ^h oopu/	[^h o:pu]	N	豆腐
pe	[p(?)e]	/peemut ^h jaa/	[pe:muca:]	N	ごきぶり
		/Nma ippee/	[mma ippe:]	N	そこら辺一帯
po	[p(?)o]	/poot ^h jaagii/	[po:sa:gi:]	N	[木の一種]
/p ^h /					
p ^h a	[p ^h a]	/p ^h aa/	[p ^h a:]	N	齒
		/hiip ^h agaa/	[çi:p ^h aga:]	N	禿げた人[直訳：毛禿げ人]
p ^h i	[p ^h i]	/p ^h iN/	[p ^h iN]	N	大蒜（にんにく）
		/ip ^h igwaa/	[i ^h igwa:]	N	少し
p ^h u	[p ^h u]	/p ^h uN/	[p ^h uN]	N	骨
		/t ^h ap ^h uN/	[t ^h a ^h uN]	N	石鰯
p ^h e	[p ^h e]	/p ^h ee/	[p ^h e:]	N	蠅（はえ）
		/p ^h ee/	[p ^h e:]	N	南
		/nip ^h eedeebidu/	[ni ^h e:de:biru]	不明	ありがとう
p ^h o	[p ^h o]	/p ^h ootaa/	[p ^h o:ta:]	N	鳩（はと）
		/p ^h ooiN/	[p ^h o:iN]	V	這う

2. 2. 3. 歯茎阻害音（/d/, /t/, /t^h/）＋母音

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
/d/					
da	[da]	/daki/	[daki]	N	竹
		/aNda/	[anda]	N	油

	[ra]	/haada/	[ha:ra]	N	瓦 (かわら)
di	[di]	/dikiN/	[dikin]	N	着物
	[ri]	/t ^h udi/	[t ^h uri]	N	袖
		/midi/	[miri]	N	水
du	[du]	/dut ^h ji/	[duei]	N	友人
	[ru]	/jaaduu/	[ja:ru:]	N	ヤモリ
de	[de]	/deekuN/	[de:kun]	N	大根
	[re]	/adeeN/	[are:N]	V	洗う
do	[do]	/doot ^h joku/	[do:soku]	N	蠟燭 (そうそく)
		/guN doo/	[gun do:]	P	居るよ
/t/					
ta	[t(?)a]	/tai/	[tai]	N	二人
		/wata/	[wata]	N	腹
ti	[t(?)i]	/tida/	[tira]	N	顔
		/tiiti/	[ti:ti]	N	一つ
tu	[t(?)u]	/tukuiN/	[tukuin]	V	作る
		/hatuu/	[hatu:]	N	鰹 (かつお)
te	[t(?)e]	/teNbut ^h u/	[tembugu]	N	臍 (へそ)
		/uteeN/	[ute:N]	V	歌う
to	[t(?)o]	/tookatji/	[to:katei]	N	米寿
		/tootoomee/	[to:to:me:]	N	仏壇
/t ^h /					
t ^h a	[t ^h a]	/t ^h ama/	[t ^h ama]	N	玉
	[sa]	/apat ^h aN/	[apaʃan]	A	(味が) 薄い
t ^h i	[t ^h i]	/t ^h ii/	[t ^h i:]	N	手
	[si]	/at ^h i/	[aʃi]	N	汗
		/ut ^h i/	[uʃi]	N	臼 (うす)
t ^h u	[t ^h u]	/t ^h ui/	[t ^h ui]	N	鳥
		/t ^h uku/	[t ^h uku]	N	底 (そこ)
	[su]	/kut ^h u/	[kuʃu]	N	糞 (くそ)
t ^h e	[t ^h e]	/t ^h eept ^h u/	[t ^h e:pʰu]	N	台風
	[se]	/nit ^h ee/	[niʃe:]	N	青年
t ^h o	[t ^h o]	/t ^h oo/	[t ^h o:]	N	竿 (さお)
		/t ^h ookibuN/	[t ^h o:kibun]	N	あばら骨
		/t ^h ooiN/	[t ^h o:iN]	V	(赤ちゃんを) 連れる

2. 2. 4. 軟口蓋・声門阻害音 (/g/, /k/, /h/) + 母音

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
/g/					

ga	[ga]	/gai/	[gai]	N	蟹 (かに)
		/gadjaa/	[gaza:]	N	蚊 (か)
		/magai gutji/	[magai gu ^h tei]	N	曲がり角
gi	[gi]	/giiN/	[gi:N]	V	座る
		/haagi/	[ha:gi]	N	姿
gu	[gu]	/gudji/	[guzi]	N	サトウキビ
		/t ^h uguiN/	[t ^h uguin]	V	殴る
ge	[ge]	/geemi/	[ge:mi]	N	闇
		/geema/	[ge:ma]	N	八重山
		/jugeetaN/	[juge:tan]	V	火傷した
go	[go]	/goot ^h aN/	[go:gan]	A	かゆい
		/goojaa/	[go:ja:]	N	ゴーヤー
/k/					
ka	[ka]	/kadjimajaa/	[kazimaja:]	N	97歳のお祝い
		/kaatjii bee/	[ka:tei: be:]	N	[春になる時に吹く風]
ki	[ki]	/kibui/	[kibui]	N	煙
		/kidi/	[kiri]	N	霧 (きり)
		/baaki/	[ba:ki]	N	大きいかご
ku	[ku]	/kubi/	[kubi]	N	首
		/kumu/	[kumu]	N	雲
		/t ^h akui/	[t ^h akui]	N	咳 (せき)
ke	[ke]	/keeN/	[ke:N]	V	食べる
		/tjukeeN/	[teuke:N]	N	一回
ko	[ko]	/koot ^h jaa/	[ko:ea:]	N	拳骨 (げんこつ)
		/kookoojootaN/	[ko:ko:jo:tan]	不明	疲れた
		/aikoo/	[aiko:]	N	蟻 (あり)
/h/					
ha	[ha]	/haa/	[ha:]	N	井戸
		/hadi/	[hari]	N	風
		/miihagaN/	[mi:hagan]	N	眼鏡 (めがね)
hi	[çi]	/hii/	[çi:]	N	木
		/hitimiti/	[çitimiti]	N	朝
		/jukka nu hii/	[jukka nu çi:]	N	明々後日 (しあさって)
hu	[φu]	/humi/	[φumi]	N	米
		/hui/	[φui]	N	声
		/huboodii/	[φubo:ri:]	N	久高島出身の男性
he	[he]	/hee/	[he:]	N	鍬 (くわ)
		/heeiN/	[he:iN]	V	太る
ho	[ho]	/hoogaaki/	[ho:ga:ki]	N	頬かむり
		/hoogwaat ^h ji/	[ho:g ^w a:ei]	N	落雁 (らくがん)

/idjaihoo/ [izaiho:] N イザイホー

2. 2. 5. 鼻音 (/m/, /n/) + 母音

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
/m/					
ma	[ma]	/madumuN/	[marumun]	N	おやつ
		/matabat ^h ji/	[matabaei]	N	股 (また)
		/miimaju/	[mi:maju]	N	眉 (まゆ)
mi	[mi]	/mikkagidaa/	[mikkagira:]	N	もぐら
		/mimi/	[mimi]	N	耳
		/mami/	[mami]	N	豆
mu	[mu]	/mudji/	[muzi]	N	麦
		/mumudadii/	[mumurari:]	N	久高以外が出身の人
		/tjimu/	[teimu]	N	心臓
me	[me]	/mee/	[me:]	N	前
		/t ^h umeeiN/	[t ^h ume:iN]	V	探す
mo	[mo]	/mooNmii/	[mo:Nmi:]	N	草地
		/mooiN/	[mo:iN]	V	舞う
/n/					
na	[na]	/nama/	[nama]	N	今
		/nati/	[nati]	N	夏
		/junagu/	[junagu]	N	女
ni	[ni]	/nit ^h ji/	[nici]	N	北
		/p ^h ani/	[p ^h ani]	N	羽
nu	[nu]	/nudii/	[nuri:]	N	喉 (のど)
		/kinuu/	[kinu:]	N	昨日
ne	[ne]	/nee/	[ne:]	N	地震
		/neekaa/	[ne:ka:]	N	今晚
		/kuneeda/	[kune:ra]	N	先一昨日 (さきおととい)
no	[no]	/nooiN/	[no:iN]	V	縫う
		/noot ^h juN/	[no:ɕuN]	V	直す
		/geNnoo/	[genno:]	N	金槌 (かなづち)

2. 2. 6. 接近音 (/w/, /j/) + 母音

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
/w/					
wa	[wa]	/waa/	[wa:]	N	私
		/waa/	[wa:]	N	豚

/j/					
ja	[ja]	/jaaduu/	[ja:ru:]	N	ヤモリ
		/jaa/	[ja:]	N	お前
		/jaa/	[ja:]	N	家
		/duujat ^h jaN/	[du:jassan]	A	しやすい
ju	[ju]	/junagu/	[junagu]	N	女
		/juda/	[jura]	N	枝
		/iju/	[iju]	N	魚
je	[je]	/tookaije/	[to:ka:ije]	N	かくれんぼ
jo	[jo]	/jooNna/	[jo:nna]	AD	ゆっくり
		/joot ^h aN/	[jo:t ^h aN]	A	弱い

2. 2. 7. 「拗音」(CGV)

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
両唇音+/j/					
bja	[bia]	/habjaaN/	[hab ^h ia:N]	N	カベール岬
		/t ^h jiNtjabjaa/	[eint ^h ea ^h ia:]	N	カモメ
pja	[pia]	/pjaat ^h aN/	[p ^h ia:saN]	A	速い
		/naNpjaa/	[namp ^h ia:]	N	芝生(しばふ)
pju	[piu]	/pjuutjuuN/	[p ^h iu:teu:N]	V	風いでいる
歯茎音+/j/					
dja	[(d)za]	/djaguN/	[dzagun]	N	ぬかるみ
		/djaa/	[dza:]	N	部屋
dji	[(d)zi]	/uidjiN t ^h imii jaa/	[uiz ^h in t ^h imi: ja:]	V	泳いでも良いか?
dju	[(d)zu]	/kuNdjuN/	[kunuzun]	V	結ぶ
		/NdjukiN/	[nzukin]	V	動く
djo	[(d)zo]	/djoo/	[dzo:]	N	門
		/maNdjooma/	[manzo:ma]	AD	一緒に
tja	[tea]	/tjakut ^h ji/	[teakuci]	N	長男
		/biitjaa/	[bi:tea:]	N	もぐら
tji	[tei]	/tjidji/	[teizi]	N	(頭の) つむじ
		/mutji/	[mut ^h ei]	N	餅(もち)
tju	[teu]	/tjukeeN/	[teuke:N]	N	一回
		/pjuutjuuN/	[p ^h iu:teu:N]	V	風いでいる
tjo	[teo]	/tjoodee/	[teo:re:]	N	兄弟
		/dattjoo/	[dat ^h teo:]	N	ラッキョウ
t ^h ja	[ea]~[sa]	/t ^h ja/	[ea]	N	下
		/t ^h jami/	[sami]	N	虱(しらみ)

		/pit ^h ja/	[pica]	N	足
thji	[ci]	/thjit ^h ji/	[ci:ci]	N	肉
		/thjiN/	[ciN]	N	汁
thju	[eu]~[su]	/thjuN/	[eun]	V	する
		/meet ^h juN/	[me:eun]	V	燃やす
		/mat ^h ju/	[maeu]	N	塩
thje	[ee]	/thjewa/	[eewa]	N	皺 (しわ)
		/thjeep ^h a/	[ee:fa]	N	斎場 (せーふぁー)
tho	[eo]~[so]	/thjoogatji/	[eo:gatci]	N	正月
		/thjoobaN/	[eo:ban]	N	一升ます
		/thjooki/	[sooki]	N	小さいかご
軟口蓋音 + /j/					
gja	[g'a]	/Ngjana/	[ŋg'iana]	N	苦菜 (にがな)
		/Ngjat ^h juN/	[ŋg'iaeun]	V	出す
gji	[gi]	/uigjigatjinaa/	[uigigateina:]	V	泳ぎながら
軟口蓋音 + /w/					
kja	[k'a]	/kjaat ^h juN/	[k'a:eun]	V	消す
		/aNtikjaa/	[antik'a:]	N	追い込み漁
kji	[ki]	/hakjigatjinaa/	[hakigateina:]	V	書きながら
kju	[k'u]	/kjuudjuu/	[k'u:zu:]	N	九十
軟口蓋音 + /w/					
gwa	[g ^w a]	/gwaNt ^h u/	[g ^w ansu]	N	仏壇
		/hatagwaa/	[hatag ^w a:]	N	肩車
kwa	[k ^w a]	/kwattji/	[k ^w attei]	N	ごちそう
		/guikkwa/	[guikk ^w a]	N	甥
		/tjiNkwaa/	[teink ^w a:]	N	島かぼちゃ
鼻音 + /j/					
mja	[m'a]	/mjaa/	[m'a:]	N	猫
		/mjaa/	[m'a:]	N	庭
		/mjaadubi/	[m'a:rubi]	N	娘
mji	[m'i]	/jimjigatjinaa/	[jumigateina:]	V	読みながら

2. 2. 8. 語頭が「撥音」 (/N/ + C)

対象音節 語例

音素	音声	音素	音声	品詞	日本語標準語訳
/N/ + /b/					
Nba	[mba]	/Nbai/	[mbai]	N	(正月の) 握り飯
Nbu	[mbu]	/Nbutu/	[mbutu]	N	おでき
		/NbukitaN/	[mbukitan]	V	溺れた
/N/ + /d/					

Ndi	[ndi]	/NditaN/	[nditaN]	V	濡れた
Ndo	[ndo]	/Ndoot ^h anu/	[ndo:ʒanu]	A	可愛そう
/N/+/g/					
Ng	[ŋgi]	/NgiiN/	[ŋgi:N]	V	出る
/N/+/gj/					
Ngja	[ŋgja]	/Ngjat ^h juN/	[ŋgjaeun]	V	出す
/N/+/k/					
Nka	[ŋka]	/Nkatuun doo/	[ŋkatu:n do:]	V	向かっているよ
Nki	[ŋki]	/Nkii t ^h aa/	[ŋki: ʒa:]	V	剥けるよ
/N/+/m/					
Nma	[mma]	/Nma/	[mma]	N	馬
Nmi	[mmi]	/Nmi/	[mmi]	N	膿（うみ）
Nmu	[mmu]	/Nmu/	[mmu]	N	いも
/N/+/n/					
Nna	[nna]	/Nna/	[nna]	N	みんな
		/Nnagi/	[nnagi]	N	エラブウミヘビ
Nni	[nni]	/Nni/	[nni]	N	胸（むね）
/N/+/dj/					
Ndja	[nza]	/NdjaN/	[nzan]	V	行った
Ndju	[nzu]	/NdjukiN/	[nzukin]	V	動く
/N/+/tj/					
Ntja	[ntea]	/Ntja/	[ntea]	N	土
/N/+/t ^h j/					
Nt ^h ju	[neɯ]	/Nt ^h ju/	[neɯ]	N	味噌（みそ）
/N/+/gj/					
Ngja	[ŋgja]	/Ngjana/	[ŋgjana]	N	苦菜（にがな）
		/Ngjat ^h juN/	[ŋgjaeun]	V	出す

3. 格助詞と副助詞の例文

音素表記によって例文を示す。助詞の前には「=」、複合語の語幹同士の境界には「+」を記す。非文の直前には「*」を記す。備考は例文の下にカギ括弧（〔 〕）で囲って示す。

3. 1. 格助詞の例文

10 種類の格助詞の例文を示す。

3. 1. 1. 主格 ga/nu

主語を示す主格には *ga* と *nu* の 2 種類の形式がある。*ga* はどのような名詞にも使用可能だが、*nu* は人称代名詞や親族呼称に使用することはできない。

Nma=kai waa=ga gu=t^haa 「(写真を見ながら) ここに私がいるよ」

*Nma=kai waa=nu gu=t^haa 「ここに私がいるよ」

[備考：上記は非文。「ここに豚がいるよ」の意味なら使用可能。]

ama=kai tju=nu gu=t^haa 「(遠くを見ながら) あそこに人が居るよ」

anu tju=nu Nma=kai gu=t^haa 「(写真をみながら) あの人がここにいるよ」

Nma=kai adi=ga gu=t^haa 「(写真をみながら) ここにあの人が居るよ」

Nma=kai aN=ga gu=t^haa 「(写真をみながら) ここにあの人が居るよ」

Nma=kai aNmaa=ga gu=t^haa 「(写真をみながら) ここにお母さんが居るよ」

[備考：上記は*aNmaa=nu gu=t^haa にすると非文。]

Nma=kai mjaa=ga gu=t^haa 「(写真を見ながら) ここに猫が居るよ」

Nma=kai mjaa=nu gu=t^haa 「(写真を見ながら) ここに猫が居るよ」

Nma=kai nat^hjidi+gii=nu a=t^haa 「(写真を見ながら) 桑の木があるよ」

3. 1. 2. 与格 nee

与格の nee は受益者、受身文の動作主、使役文の被使役者を表す。

aN tju=nee kidiba 「あの人にあげろ」(受益者)

waN=nee=n kidiba 「私にもくれ」(受益者)

aN tju=nee nudaattaN 「あの人に怒られた」(受身文の動作主)

aN tju=nee t^hjimidiba 「あの人にさせろ」(使役文の被使役者)

3. 1. 3. 奪格 da

奪格の da は動作の始点を表す。

aN tju=da wanaa gita=t^haa 「あの人から私はもらったよ」

3. 1. 4. 場所格 kai/Ndji

場所を表す場所格は kai と Ndji の2種類の形式があるが、現時点ではその使い分けは不明である(どちらも共通の文脈で使用可能である)。

ama=kai gu=t^haa 「あそこにいるよ」

ama=Ndji gu=t^haa 「あそこにいるよ」

ama=kai at^hiba=jaa 「あそこで遊ぼうね」

ama=Ndji at^hiba=jaa 「あそこで遊ぼうね」

Nma=kai at^hiba=jaa 「ここで遊ぼうね」

Nma=Ndji at^hiba=jaa 「ここで遊ぼうね」

3. 1. 5. 方向格 tji

方向格は tji は方向を示す。

ama=tji ika=i 「あそこへ行こうか」

3. 1. 6. 比格 jooka

比格は jooka は比較の基準点を示す。

aN jooka=N uN=du mat^htjadu 「あれよりもこれがおいしい」

3. 1. 7. 具格 t^hjaama

具格の t^hjaama は道具・手段を表す。

uN=t^hjaama at^hiba=i 「これで遊ぼうか」

3. 1. 8. 共同格 tu

共同格の tu は共同する対象を表す。

aN tju=tu at^hiba=i 「あの人と遊ぼうか」

3. 1. 9. 限界格 madi

限界格の madi は限界を表す。

ama=madi ika=i 「あそこまで行こうか」

3. 1. 10. 属格 nu

属格の nu は名詞修飾の際に使用される。

aN tju=nu huja=a t^hjudat^ha=t^haa 「あの人の声はきれいだね」

3. 2. 副助詞の例文

5 種類の副助詞の例文を示す。

3. 2. 1. 主題・対比 ja

ja は主題・対比主題を表す。短母音の /u/ と融合して /oo/ になる。

an tjo=o huuN 「あの人はこない」

3. 2. 2. 焦点 du

du は対比焦点を表す。

wana=a adaN. anu tju=N=ga=du tjuudu. 「私じゃない。あの人がしている。」

3. 2. 3. 追加 N

N は追加を表す。

anu tjo=o haki=n t^hanba, jumi=n t^han. 「あの人は書きもしない、読みもしない」

3. 2. 4. 曖昧 maNguda

maNguda は曖昧さを表す。

godji=maNguda huuba=jaa 「五時ぐらいに来いよ」

3. 2. 5. bikaaN 「ばかり」

bikaaN は日本語標準語の「ばかり」のように、その対象が大多数を占めることを表す。

wadabi=Nt^hjaa=bikaaN=du gudu=jaa 「子供たちばかりいるね。」

4. 学校における方言教育

久高島方言は消滅の危機に瀕した方言である（すなわち、若年層への方言の継承がなされていない）。そこで、久高島の唯一の学校である久高小中学校の校長に方言教育に関するインタビューを行った。

(3) インタビューのメタデータ

日時：2016年2月4日、午前10時頃

時間：約30分

被質問者：久高小中学校長の久貝悦子氏

質問者：新永悠人

以下、インタビューの問答の概要をQ&Aのスタイルでまとめる。

Q1. 方言に関して、どのような取り組みをしているか？

A1. 方言に関する授業は総合学習の時間を利用している。総合学習の時間は1年間に70時間確保している。

Q2. 具体的にはどのような内容か？

A2. 追い込み漁の体験学習の際に、必要に応じて地元の方に久高島方言を使ってもらっている。追い込み漁の体験学習は1学期に行っており、10数時間を当てている。追い込み漁に関する詳細は、同行のホームページの学校新聞から知ることができる（「久高だより」増刊号；平成27年6月11日発行；<http://www.edu.city.nanjo.okinawa.jp/kudaka/tayorizou06.pdf>）。

Q3. 方言教育についてどのように考えているか？

A3. 県からは「方言指導をするように」という指示があるが、それはどこの方言なのか？と疑問に思う。島ごとに方言の差異が大きく、久高島以外の出身の教員に久高島方言を教えることは非常に難しい。自分自身（＝校長）は宮古島の出身であり、他の教員も久高島以外の出身である。それでも、全体の集会のときには、「ハイサイ」という挨拶から始めるなどの取り組みはしている。

参考文献

中本正智（1985）「久高島方言の性格とその形成－音韻・形態・語彙から－」『沖縄久高島調査報告書』、173-191、東京：法政大学沖縄文化研究所

新永悠人・青井隼人（2015）「沖縄久高島方言の特殊な舌頂音の音声記述と音韻解釈」『方言の研究』1、東京：ひつじ書房、325-351.

沖縄語津堅方言の記述

沖縄語津堅方言の記述

又吉 里美（岡山大学）

1. はじめに

本稿では、北琉球方言の一つである沖縄語津堅方言について報告する。構成は以下のとおりである。まず、津堅島の地理的位置と言語および言語継承の状況を述べる。津堅方言の実態及び特徴については音声と文法の両面からまとめる。津堅方言の音声については、モーラ表を示し、音声と語例を示す。次に、文法については、格およびとりたてについて記述する。格形式およびとりたての形式と各形式の機能や用法について例文を提示しながら記述する。

1.1 津堅島の地理的位置と言語

津堅島は、周囲約 8 km、面積約 1.8k m²の島で、北緯 26 度 15 分、東経 127 度 56 分にあり、沖縄本島中南部東海岸に面した与勝半島の南東約 5 kmに位置する。かつては、勝連町に属していたが、現在は平成 17 年 4 月 1 日に、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の 2 市 2 町が合併してできた「うるま市」の行政区の一つである。

琉球方言を北琉球方言と南琉球方言とに大きく分けて考えると、北琉球方言には、奄美諸島および沖縄本島及びその周辺の島々の方言が含まれ、南琉球方言には、宮古諸島および八重山諸島の方言が含まれる。したがって、津堅方言は北琉球方言としてまず位置づけられる。さらに、北琉球方言は、奄美徳之島諸方言、沖永良部与論沖繩北部諸方言、沖縄中南部諸方言に分けられる。沖縄本島に関して見てみると、太平洋側では金武町屋嘉、東シナ海側では恩納村恩納以北が沖永良部与論沖繩北部諸方言に区分され、それより南は沖縄中南部諸方言に区分される。地理的に見れば、先に述べたように、津堅島は太平洋側の勝連半島の南東に位置し、すなわち、金武町屋嘉以南に位置する。地理的位置から判断すれば、津堅方言は、沖縄琉南部諸方言に分類されると考えられる。しかし、これまでの諸研究により、P 音の残存状況や、格形式において、移動に関わる方向格と存在に関わる場所格の形式を別に持っていることや、沖縄本島中南部で盛んに用いられる具格の *saani* 形式は持たないことなどから、津堅方言は沖永良部与論沖繩北部諸方言の特徴を有していることが明らかにされており、言語的な位置づけとしては沖永良部与論沖繩北部諸方言に属すると結論づけられている。

津堅方言が、沖縄北部諸方言的な特徴を持っていることは特に格形式において顕著である。たとえば、移動に関わる方向格と存在に関わる場所格の形式を別に持っていることや、沖縄本島中南部で盛んに用いられる具格の *saani* 形式は持たないことなどが挙げられる。

1.2 津堅島の言語継承の状況

津堅島における言語継承の状況はおおむね以下の状況である。

1) 話者：60 代以上においては話す・聞くの運用能力がある人が多い。

60 代～30 代においては聞くことを中心として部分的に方言の使用がある。

デイケアサービスの施設で、若い人も部分的に使用している様子が見られる。

2) 資料：①琉球方言研究クラブ（1989）『琉球方言 17 号—津堅方言の音韻と語彙』琉球大学方言研究クラブ

②比嘉繁三郎（1990）『津堅島の記録』、沖縄自分史センター

①は、1982 年～1989 年にわたって調査が行われ、その調査をもとに音韻が整理されている。インフォーマントに明治生まれの方が多く含まれているので、伝統的な津堅方言の音声の記述になっていると考えられる。また、アクセント付きで多くの語が提示されている。

②は、津堅島出身の比嘉繁三郎氏（大正 4 年生）による津堅島の様々な記録である。津堅島の歴史、習慣、年中行事、風俗から産業、教育、戦争記録など、多岐にわたって記されており、資料性の高いものといえる。言語については、方言語彙のほか、俗諺なども収められている。もいくらか収められている。

2. 津堅方言の音声と語例

ここでは、津堅方言の音声について特徴的なことについて取り上げ、モーラ表を示す。また、音声と語例一覧を示す。

2.1 津堅方言の音声の概要

津堅方言の音声の特徴について、特に語頭の母音の発音の仕方、ラ行音とダ行音の混同、音韻変化の 3 つについて述べる。

まず、語頭の母音の発音の仕方については、母音の発音の直前に喉頭の緊張を伴う音と伴わない音とがある。すなわち、いったん声門を閉じたあと、急に開くことによって作られる声門閉鎖音 [ʔ] の有無である。「い」と「う」を例にとれば、声門閉鎖音を伴う音声「い」（ʔi）と「う」（ʔu）と、声門閉鎖音を伴わず、緩やかな声立てではじまる「い」（ji）と「をう」（wu）との対立があることがよく知られている。

‘いん ʔin 〈犬〉 — いん jin 〈縁〉

‘うとう ʔutu 〈音〉 — をうとう wutu 〈夫〉

上記の例から分かるように、語頭の発音の違いによって意味が異なる。母音の他、半母音の [j] [w] を持つ語にも声門閉鎖音が見られる。また、声門閉鎖音は語中ではほとんど出現しないが、「うふ ‘いーび uhwu'iibi 〈親指〉」などの複合語に見られることがある。以上のことをまとめると、表 1 のようになる。

表 1 語頭・語中における声門閉鎖音の有無

語頭 声門閉鎖有り	‘あ ʔa	‘い ʔi	‘う ʔu	‘え ʔe	‘お ʔo	‘や ʔja	‘わ/うわ ʔwa
語頭 声門閉鎖無し	—	い ji	をう wu	いえ je	—	や ja	わ wa
語中	あ a	い i	う u	え e	お o	や ja	わ wa

ただし、「あ」と「お」に関しては語頭における声門閉鎖音の有無で語の意味が変わる

ものは見いだせていない。また、「え」についても、「え」から始まる語例が少なく、「‘え」と「いえ」の区別は曖昧である。

次にラ行音とダ行音の混同について述べる。津堅方言では「太陽」のことを「ていだ」[tida]とも「ていら」[tira]とも発音され、発音の区別が曖昧な場合がある。おおよその傾向としては、語頭および「ん」の後ではダ行音で、それ以外ではラ行音で発音されるようである。ただし、その傾向も緩やかなもので、特に、語頭ではラ行音もよく観察される。

最後に音韻変化について述べるが、具体的にはジャ行のザ行化を取り上げる。津堅方言においては「ザ・ズ・ゾ」の語例は希である。「ザ・ズ・ゾ」に対応する音声には「ジャ・ジュ・ジョ」が用いられている。このことから、古くは「ジャ・ジュ・ジョ」の音声であったと考えられる。しかし、共通語や周辺地域の方言の影響から、「ジャ・ジュ・ジョ」が「ザ・ズ・ゾ」と直音化した音で発音になることがしばしば見られる。下記の語例一覧では「ジャ・ジュ・ジョ」を津堅方言が持つ伝統的な音声としつつも、直音化した語例も記載しておく。

2.2 津堅方言のモーラ表

津堅方言モーラ表を表2に示す。

表2 津堅方言のモーラ表

あ	い	う	え	お				
a	i	u	e	o				
‘あ	‘い	‘う	‘え	‘お				
ʔa	ʔi	ʔu	ʔe	ʔo				
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ		ぴゃ	ぴゅ	ぴょ
pa	pi	pu	pe	po		pja	pju	pjo
ば	び	ぶ	べ	ぼ		びゃ	びゅ	びょ
ba	bi	bu	be	bo		bja	bju	bjo
た	てい	とう	て	と				
ta	ti	tu	te	to				
だ	でい	どう	で	ど				
da	di	du	de	do				

か	き	く	け	こ	くわ	きや	きゅ	きよ
ka	ki	ku	ke	ko	kwa	kja	kju	kjo
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぐわ	ぎや	ぎゅ	ぎよ
ga	gi	gu	ge	go	gwa	gja	gju	gjo
や	い	ゆ	いえ	よ				
ja	ji	ju	je	jo				
‘や/い や		‘ゆ/い ゆ		(‘よ/ いよ)				
ʔja		ʔju		(ʔjo)				
わ		をう						
wa		wu						
‘わ/う わ								
ʔwa								
ま	み	む	め	も		みや	(み ゅ)	みよ
ma	mi	mu	me	mo		mja	(mju)	mjo
な	に	ぬ	ね	の		にや	にゅ	によ
na	ni	nu	ne	no		na	ju	no
さ		す	せ	そ				
sa		su	se	so				
しゃ	し	しゅ	しえ	しよ				
ɕa	ɕi	ɕu	ɕe	ɕo				
ざ		ず	ぜ	ぞ				
za ɖa		zu ɖu	ze ɖe	zo ɖo				

じゃ	じ	じゅ	じえ	じょ				
za ɟa	zi ɟi	zu ɟu	ze ɟe	zo ɟo				
ちゃ	ち	ちゅ	ちえ	ちょ		つ		
tea	tei	teu	tee	teo		tsu		
は	ひ	ふ	へ	ほ		ひゃ	ひゅ	ひょ
ha	çi	ɸu	he	ho		ça	çu	ço
ら	り	る	れ	ろ		りゃ	りゅ	りょ
ra	ri	ru	re	ro		rja	rju	rjo
ん		ー		っ				
N		R		Q				

※（ ）は著者未確認

2.3 津堅方言の音声と語例

津堅の方言の音声と語例を以下に挙げる。2単語を挙げるように務めたが、1単語のものもある。なお、一覧の中の【共通語】【日本語】【外来語】が意味することは以下のとおりである。現代の言語生活は方言と共通語との二重言語生活だと言われるので、共通語を含めて音声体系を示しておく。ただし、共通語由来であっても必ずしも音声が同じだとは限らない。たとえば、[zenzen]（全然）ではなく [zenzen] のように共通語では外来語でしか見られない [ze] が津堅方言では音声として現れる。このように共通語と同じ語でも音声としては違う形態で実現されることも少なくない。

【共通語】津堅方言話者の発音による語例が採録できず、共通語の語例であること。

【日本語】津堅方言話者によって発音された共通語と同形式の語例であること。日本語からの借用語と考えられるものもあるが、それらについての一つ一つの検討はここでは省略する。

【外来語】外来語由来の語例であること。

表3 津堅方言の音声と語例

[a]	ア	[nagaami]	ナガアミ	(名)長雨
		[kumiai]	クミアイ	(名)組合【日本語】
[i]	イ	[puin]	プイン	(動)降る
		[kusui]	クスイ	(名)薬
[u]	ウ	[araun]	アラウン	(動)洗う

[e]	エ	[pa:e:]	パーエー	(名)かけっこ
		[mue:]	ムエー	(名)模合
[o]	オ	[ʔorooroɸuN]	オロオロフン	(動)うろうろする
[ʔa]	‘ア	[ama:N]	‘アマーン	(形)甘い
		[anda]	‘アンダ	(名)油
[ʔi]	‘イ	[ʔiN]	‘イン	(名)犬
		[ʔimi]	‘イミ	(名)夢
[ʔu]	‘ウ	[ʔuei]	‘ウシ	(名)牛
		[ʔuriN]	‘ウリン	(動)降りる
[ʔe]	‘エ	[ʔendahan]	‘エンダハン	(形)おとなしい
		[ʔo:e:]	‘オーエー	(名)喧嘩
[ʔo]	‘オ	[ʔo:ʔo:]	‘オー‘オー	(感)はい/うん ¹
		[ʔo:ru:]	‘オールー	(名)青
[pa]	パ	[pana]	パナ	(名)花/鼻
		[ʔapa:N]	‘アパーン	(形)薄い ²
[pi]	ピ	[piru]	ピル	(名)昼
		[karapisa]	カラピサ	(名)はだし
[pu]	プ	[puji]	プニ	(名)船
		[ʔappurigwa:]	‘アップリグワー	(名)飴玉
[pe]	ペ	[pe:han]	ペーハン	(形)早い/速い
		[tumpe:]	トゥンペー	(名)つば
[po]	ポ	[po:tu]	ポートウ	(名)鳩
		[po:po:]	ポーポー	(名)ポーポー〈お菓子の一種〉
[pja]	ピャ	[roppjaku]	ロツピャク	(数)六百【共通語】
[pju]	ピュ	[pju:pju:]	ピューピュー	(オ)ぴゅーぴゅー【共通語】
[pjo]	ピョ	[pjompjon]	ピョンピョン	(オ)ぴょんぴょん【共通語】
[ba]	バ	[basanai]	バサナイ	(名)バナナ
		[saba]	サバ	(名)草履
[bi]	ビ	[biti]	ビティ	(代)自分/自分の
		[teibi]	チビ	(名)尻
[bu]	ブ	[bura]	ブラ	(名)(クバでつくった)ひしゃく
		[kibuei]	キブシ	(名)煙
[be]	ベ	[ha:be:ru]	ハーベールー	(名)蝶
		[na:be:ra]	ナーベラー	(名)ヘチマ
[bo]	ボ	[bo:]	ボー	(名)棒

[bja]	ビヤ	[kusabo:bo:]	クサボーボー	(オ)草ぼうぼう【擬態語】
		[sambjaku]	サンビヤク	(数)三百【共通語】
[bju]	ビュ	[bju:bju:]	ビュービュー	(オ)びゅうびゅう【共通語】
[bjo]	ビョ	[bjo:iN]	ビョーイン	(名)病院【日本語】
[ta]	タ	[takahan]	タカハン	(形)高い
		[karata]	カラタ	(名)体
[ti]	ティ	[tida]	ティダ	(名)太陽
		[ʔuti:N]	‘ウティーン	(動)落ちる
[tu]	トゥ	[tui]	トゥイ	(名)鳥
		[ʔusuntu]	‘ウスントウ	(名)台所
[te]	テ	[tempura]	テンブラ	(名)天ぷら【日本語】、
		[=te(:)]	=テー	(助)=よ〈店があるよ〉
		〈mise=ga an=te (:)>〕		
[to]	ト	[to:bi:ra:]	トービーラー	(名)ゴキブリ
		[jo:i ton]	ヨーイ トン	(感)よーい どん ³
[da]	ダ	[da:]	ダー	(感)どうれ ⁴
		[bindare:]	ビンダレー	(名)洗面器
[di]	ディ	[dikirasan]	ディキラサン	(形)すばらしい
[du]	ドウ	[du:]	ドゥー	(名)体
[de]	デ	[de:kuni]	デークニ	(名)だいこん
[do]	ド	[do:gu]	ドーグ	(名)道具
		[ʔundo:ba:]	‘ウンドーバー	(名)運動場
[ka]	カ	[kamun]	カムン	(動)食べる
		[suraka:gi:]	スラカーギー	(名)美人
[ki]	キ	[kinu:]	キヌー	(名)昨日
		[ʔaeiki]	‘アシキ	(名)湯気
[ku]	ク	[kumi]	クミ	(名)米
		[sukuin]	スクイン	(動)作る
[ke]	ケ	[mikege:han]	ミケゲーハン	(形)憎い
		[ʔakke:]	‘アッケー	(感)あら/なんとまあ ⁵
[ko]	コ	[ko:iN]	コーイン	(動)買う
		[kumiko:zi]	クミコージ	(名)米麴
[kwa]	クワ	[kwamuja:]	クワムヤー	(名)子守

		[tɕiŋkwa]	チンクワ	(名)かぼちゃ
[kja]	キャ	[kjaku]	キャク	(名)客【日本語】
		[kja:kja:]	キヤーキヤー	(感)きゃあきゃあ【共通語】
[kju]	キュ	[kju:ɕo:]	キューショー	(名)旧正月
		[uŋkju:]	ウンキュー	(名)運休
[kjo]	キョ	[kjo:ɕitsu]	キョーシツ	(名)教室【共通語】
		[ju:biŋkjoku]	ユービンキョク	(名)郵便局【日本語】
[ga]	ガ	[garasa:]	ガラサー	(名)カラス
		[mmaga]	ンマガ	(名)孫
[gi]	ギ	[kwa:gi]	クワーギ	(名)桑
		[magihan]	マギハン	(形)大きい
[gu]	グ	[gupu]	グプ	(名)こぶ
		[ja:guna:]	ヤーグナー	(名)家族
[ge]	ゲ	[ge:ge:]	ゲーゲー	(オ)げえげえ ⁶
		[kintɕage:N]	キンチャゲーン	(形)かわいそう
[go]	ゴ	[go:ja:]	ゴーヤー	(名)にがうり
		[ji:go:han]	イーゴーハン	(形)かゆい
[gwa]	グワ	[gwansu]	グワンス	(名)祖先
		[ʔugwan]	‘ウグアン	(名)拝み/御願い
[gja]	ギャ	[gja:gja:]	ギヤーギヤー	(オ)ぎゃあぎゃあ【共通語】
[gju]	ギュ	[gju:niku]	ギューニク	(名)牛肉【日本語】
[gjo]	ギョ	[gjo:zi]	ギョージ	(名)行事【日本語】
		[ko:gjo:]	コーギョー	(名)工業【日本語】
[ja]	ヤ	[ja:]	ヤー	(名)家
		[maja:]	マヤー	(名)ネコ
[ji]	イ	[jinagu]	イナグ	(名)女
		[ji:N]	イーン	(動)酔う
[ju]	ユ	[ju:]	ユー	(名)湯
		[jumi]	ユミ	(名)嫁
[je]	イエ	[je]	イエ	(感)おい ⁷
		[-je<ai-je>]	-イエ<アイイエ>	(接尾)さくあるさ ⁸
[jo]	ヨ	[jo:han]	ヨーハン	(形)弱い
		[mateuki=jo]	=ヨ<マチュキヨ>	(助)まっておいてね
[ʔja]	‘ヤ/イヤ	[ʔja:]	‘ヤー/イヤー	(代)あなた
[ʔju]	‘ユ/イユ	[ʔju:]	‘ユー/イユー	(名)魚
[ʔjo]	‘ヨ/イヨ	著者未確認		

[wa]	ワ	[waraun]	ワラウン	(動)笑う
		[eiwa:ei]	シワーシ	(名)十二月
[wu]	ヲウ	[wutu]	ヲウトウ	(名)夫
		[wu:]	ヲウー	(名)緒
[?wa]	‘ワ/ウワ	[?wa:]	‘ワー/ウワー	(名)豚
		[?wa:bi]	‘ワービ/ウワービ	(名)上/表面
[ma]	マ	[masu]~	マス(マース)	(名)塩
		[ma:su]		
		[nama]	ナマ	(名)今
[mi]	ミ	[mizi]	ミジ	(名)水
		[cinnami]	シンナミ	(名)かたつむり
[mu]	ム	[muku]	ムク	(名)婿
		[kamun]	カムン	(動)食べる
[me]	メ	[me:naei]	メーナシ	(名)毎日
		[?uke:me]	‘ウケーメー	(名)おかゆ
[mo]	モ	[mo:iN]	モーイン	(動)踊る
		[mmo:]	ンモー	(オ)モー ⁹
[mja]	ミヤ	[mja:mja:]	ミヤーミヤー	(オ)ミヤーミヤー ¹⁰
[mju]	ミュ	著者未確認		
[mjo]	ミヨ	[mjo:zi]	ミヨージ	(名)名字
[na]	ナ	[naeika:N]	ナシカーン	(形)なつかしい/かなしい
		[kanahan]	カナハン	(形)愛おしい
[ni]	ニ	[ninzun]	ニンジュン	(動)寝る
		[papi]	パニ	(名)羽
[nu]	ヌ	[nunu]	ヌヌ	(名)布
		[sunui]	スヌイ	(名)もずく
[ne]	ネ	[kune:da]	クネーダ	(名)このまえ/先日
		[ne:san]	ネーサン	(名)姉さん
[no]	ノ	[no:iN]	ノーイン	(動)縫う
		[?ino:]	‘イノー	(動)内海
[nja]	ニヤ	[kopnaku]	コンニャク	(名)蒟蒻
[nju]	ニュ	[nju:su]	ニュース	(名)ニュース【外来語】
[jno]	ニョ	[jno:kensa]	ニョーケンサ	(名)尿検査【共通語】

[sa]	サ	[sa:ta:]	サーター	(名)砂糖
		[wassan]	ワッサン	(形)悪い
[ei]	シ	[eigun]	シグン	(動)注ぐ
		[maeigi]	マシギ	(名)まつげ
[su]	ス	[suri]	スリ	(名)袖
		[nisun]	ニスン	(動)似ている
[se]	セ	[sen]	セン	(数)千
		[pise:n]	ピセーン	(形)薄い ¹¹
[se]	ソ	[so:rensa:]	ソーレンサー	(名)兄弟/親戚
		[?isohan]	‘イソハン	(形)うれしい
[ea]	シャ	[eakko:bi]	シャツコービ	(名)しゃつくり
		[zitenca]	ジテンシャ	(名)自転車【日本語】
[eu]	シュ	[pieupieuɸun]	ピシュピシュフン	(オ)じんじんする ¹²
		[reneu:]	レンシュー	(名)練習【日本語】
[ce]	シエ	[cence:]	シェンシエー	(名)先生
		[mice]	ミシエ	(名)店
[eo]	シヨ	[eo:ju]	ショーユ	(名)醤油【日本語】
		[saieo]	サイシヨ	(名)最初【日本語】
[za]	ザ	[ei:za]	シーザ	(名)年上
		[kaza]	カザ	(名)匂い ¹³
[zi]	ジ	[zin]	ジン	(名)お金
		[kazi]	カジ	(名)風
[zu]	ズ	[zukku]	ズック	(名)運動靴【外来語】
		[ju:zu]	ユーズ	(名)用事
		[ninzun]	ニンズン	(動)寝る
[ze]	ゼ	[nekoze]	ネコゼ	(名)猫背【日本語】
[zo]	ゾ	[zo:kin]	ゾーキン	(名)ぞうきん【共通語】
		[gunzo]	グンゾク	(名)軍属【日本語】
[za]	ジャ	[zi:za]	シージャ	(名)年上
		[kaza]	カジャ	(名)匂い ¹³
[zu]	ジュ	[zu:]	ジュー	(名)尾
		[su:zu:han]	スージューハン	(形)しおからい
		[ninzun]	ニンジュン	(動)寝る
[ze]	ジェ	[zenzen]	ジェンジェン	(副)全然
		[eenzen]	シェンジェン	(名)戦前
[zo]	ジョ	[zo:]	ジョー	(名)門
		[zo:to:]	ジョートー	(名)上等
[tea]	チャ	[teasa]	チャサ	(疑)どのくらい/いくら
		[?aeitea]	‘アシチャ	(名)下駄

[tei]	チ	[teiri]	チリ	(名)ちり
		[tu:tei]	トゥーチ	(名)いつも
[teu]	チュ	[teu]	チュ	(名)人
		[itteun]	イツチュ	(動)入っている
[tee]	チェ	[tee:]	チェー	(感)おい ¹⁴
		[ti:tee:]	ティーチェー>ティー チ=ヤ	(融合形)一つは
[teo]	チョ	[teo:zo]	チョージョ	(名)長女【日本語】
		[ʔi:teo:bi]	‘イーチョービー	(名)トンボ
[tsu]	ツ	[satsu]	サツ	(名)お札
		[eitɕigwatsu]	シチグワツ	(名)七月
[ha]	ハ	[haija:gwa]	ハイヤーグワ	(感)そーれ ¹⁵
		[ma:han]	マーハン	(形)おいしい
[çi]	ヒ	[çi:]	ヒー	(動)しろ ¹⁶
		[ko:çi:]	コーヒー	(名)コーヒー【外来語】
[ɸu]	フ	[ɸucika]	フシカ	(名)二日
		[saɸun]	サフン	(名)石鹸
[he]	ヘ	[he:ku]	ヘーク	(形)早く/速く ¹⁷
		[he:bara]	ヘーバラ	(名)南風原(地名)
[ho]	ホ	[ho:tiikun]	ホーティーイクン	(動)つれていく
		[hon]	ホン	(名)本【日本語】
[ça]	ヒヤ	[ʔja:ça]	‘ヤーヒヤ/イヤーヒ ヤ	(接尾)おまえ ¹⁸
				(数)二百円【日本語】
[çu]	ヒュ	[çu:çu:]	ヒューヒュー	(オ)ひゅうひゅう【共通語】
[ço]	ヒョ	[ço:ban]	ヒョーバン	(名)評判【共通語】
[ra]	ラ	[ɕira]	シラ	(名)顔
		[tira]	ティラ	(名)太陽
[ri]	リ	[ʔiritea:]	‘イリチャー	(名)炒め物
		[ɸuri]	フリ	(名)筆
[ru]	ル	[guruhən]	グルハン	(形)すばやい
		[ʔaru]	‘アル	(名)かかと
[re]	レ	[ʔakare:kupi]	‘アカレークニ	(名)にんじん
		[renraku]	レンラク	(名)連絡【日本語】
[ro]	ロ	[rokən]	ロカン	(名)旅館
		[kakiguro:N]	カキグローン	(動)書きにくい
[ɾja]	リヤ	[ɾjaku]	リヤク	(名)略【共通語】

[ɾju]	リュ	[ɾju:kju:]	リューキュー	(名)琉球【日本語】
[ɾjo]	リョ	[hoɾjo:]	ホリョー	(名)捕虜
N	ン	[mmu]	ンム	(名)さつまいも/芋
		[jumun]	ユムン	(動)読む
		[sanniN]	サンニン	(名)月桃
		[koɲnaku]	コンニャク	(名)蒟蒻
R	ー	[teiŋkwa]	チンクワ	(名)かぼちゃ
		[mi:]	ミー	(名)目
		[ka:mi]	カーミ	(名)亀/瓶
Q	ツ	[watta:]	ワッター	(代)わたしたち
		[jassan]	ヤッサン	(形)安い

語例における注釈

1. 応答に用いる。おもに男性が使う。
2. 「味が薄い」の意味での「薄い」の意味。
3. 徒競走のスタート時のかけごえ。
4. 疑問詞の意味ではなく、何か要求するときに発せられる感動詞用法。
5. 驚いたときに発せられる。
6. 物を吐く様子を表す擬態語。
7. 呼びかけるときに使われることば。
8. [-je] は、jum-u-je (読む-NPST-IND) のように使われる。語構造としては、基本形jum-u-Nの-Nと同位置にあるので、接辞として扱っている。ただし、jumuNよりも話者の断定判断が強く表現されるので、終助詞的な機能も持つと考えられる。
9. 牛の鳴き声を表す擬声語。
10. ネコの鳴き声を表す擬声語。
11. 板などに厚みがないという意味での「薄い」の意味。
12. 虫などにかまれたときなどに感じる痛みの様子を表す擬態語。
13. 特に「悪い匂い」の意味で使われる。
14. 相手を脅すようなときに発せられる。「ちえー ごーぐしひーね ゆるはんろ」(おい、悪口言ったらゆるさんよ) のように使われる。
15. 何か荷物を持ち上げるときなどに発するかけ声。
16. 「する」の命令形。
17. 活用形により、「へ」「ぺ」の両形が認められる。基本形では「ペーはん」と発音されるが、連用修飾の形式では「へーく」で発音されることが多い。
18. 二人称「‘やー/いやー」(あなた)に ɟa を付属させると卑罵表現となる。

3. 津堅方言の名詞の格

格形式はそれ自体が自立して用いられることはほとんどなく、名詞に付属した形で用いられる。また、かりまた (2015) が「名詞の格形式は、構文論的な機能と構文論的な意味を表す文法形式なのである。」(P.184) と述べるように、格の記述に関しては、述語部分における語(動詞や形容詞など)が表す動作、作用、状態などと名詞とがどのような関係をもっているのかを標示する意味的な機能と、文中でどのような成分になりうるかという構文論的な機能との両面に言及する必要があるだろう。したがって、本稿では、名詞の格について、意味的な機能と構文論的な機能との両面からの記述するようにした。

3.1 津堅方言の格形式の概観

津堅方言の格形式として次の格形式が確認できた。ハダカ格、*ga* 格、*nu* 格、*ni* 格(与格)、*si* 格(向格)、*Nka* 格、*Nzi* 格、*uti* 格、*si* 格(具格)、*kara* 格、*mari* 格、*ni* 格(時間格)、*tu* 格、*juka* 格、以上 14 の格形式である。*ni* 格と *si* 格については、機能差が大きいことや出自などの違いが考えられることから、*ni* 格(与格)と *ni* 格(時間格)、*si* 格(向格)と *si* 格(具格)とを、それぞれ別形式として扱う。次ページに格形式、機能および例文を一覧にしてまとめた。

表 4 津堅方言の格形式と機能

格形式	機能	例文	例文 No
ハダカ格	主格	<i>sooree</i> = ϕ <i>u-u-gutu</i> = <i>jo</i> . 兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SFP 兄弟が いるからね。	3
	属格	<i>uree</i> <i>waa</i> = ϕ <i>muN</i> <i>ja-ha</i> . これ.TOP 私=GEN もの COP=IND2 これは 私 のものであるよ。	5
	対格	<i>nuru</i> = ϕ <i>kaak-ine</i> <i>mizi</i> = ϕ <i>num-u-N</i> . 喉=NOM かかわく-COND 水=ACC 飲む-NPST-IND1 喉が渴いたら 水を 飲む。	8
<i>ga</i> 格	主格	<i>koori</i> = <i>ga</i> <i>tuk-ine</i> <i>mizi</i> = <i>ru</i> <i>na-i-ru</i> . 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN 水が とけると水ぞなる (=水になる)。	12
	属格	<i>ujaNsaa</i> = <i>ga</i> <i>kasi</i> = <i>ru</i> <i>simirar-u-ta-ru</i> . 親たち=NOM 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN 親たちの 手伝いぞ (手伝いを) させられた。	14
<i>nu</i> 格	主格	<i>wattaa</i> <i>cuu</i> = <i>nu</i> <i>nama</i> <i>sika-tu-N=ro</i> . 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP 私たちの 人が (家族の人) 今使っているよ。	15
	属格	<i>kii</i> = <i>nu</i> <i>pata</i> = <i>Nka</i> <i>pana</i> <i>sa-su-N</i> . 木=GEN 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1 木の 枝に花が咲いている。	19
<i>ni</i> 格	与格	<i>taa</i> = <i>ni</i> <i>kik-iba</i> <i>waka-i-ga</i> = <i>ja</i> . 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SFP だれに 聞けば、分かるかな。	24

		<p><i>heega ure=φ simabananaa=ni nis-u-N=ro.</i> だけど これ=TOP 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SFP だけど、これは <u>島バナナ</u>に 似ているよ。</p>	25
		<p><i>waN=ni ir-a.</i> 私=DAT 得る-IMP 私に <u>やれ</u> (=ちょうだい)。</p>	28
		<p><i>nusuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N.</i> 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1 泥棒が <u>警察</u>に 捕まえられた。</p>	30
		<p><i>asa X=ni mut-a-u-waa.</i> 明日 人名=DAT 持つ-CAUS-IND1 明日 <u>X</u>に 持たせるよ。</p>	32
si 格	向格	<p><i>inagu=φ cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.</i> 女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP (正月には) 女は人の <u>家</u>へ 早く行かないよ。</p>	38
	与格	<p><i>eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.</i> 円=ALL 切り替える-PST-CSL 少し COP-PST-IND1=SFP (ドルから) <u>円</u>に 切り替えたから、少しだったよ。</p>	42
	到達格	<p><i>hanako=kara ziroo=si kunu jaa=Nzi suda-ti.</i> 花子=ABL 次郎=ALL この 家=LOC2 育つ-SEQ2 ハナコから <u>ジロウ</u>まで、この家で育って。</p>	44
Nka 格	所格	<p><i>ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.</i> あそこ=LOC1 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4 あそこに <u>二軒店</u>があるよ。</p>	47
	具格	<p><i>nabi=Nka tak-u-N.</i> 鍋=LOC1 炊く-NPST-IND1 <u>鍋</u>で 炊く。</p>	55
	与格	<p><i>miici=Nka wakir-i.</i> 三つ=LOC1 分ける-IMP <u>三つ</u>に 分ける。</p>	58
Nzi 格	所格	<p><i>uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.</i> ここ サンエー=LOC2 会う-PST=SFP ここ (の) <u>サンエー</u> (スーパーの名称) で 会ったの？</p>	59
	到達格	<p><i>nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu=φ na-ti.</i> 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2 (手術してから) 二月の十二日で二ヶ月なって。</p>	61
uti 格	所格	<p><i>sima=uti umari-ti sima=Nka=ru uN=ro.</i> 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる=SFP <u>島</u>で 生まれて、<u>島</u>にいるよ。</p>	64
si 格	具格	<p><i>sabaki=si ka:zi sabak-i=be.</i> 櫛=INST 髪 梳け-IMP=SFP <u>櫛</u>で <u>髪</u>を 梳けよ。</p>	65
kara 格	奪格	<p><i>tookjoo=kara ki-su-N.</i> 東京=ABL 来る-PROG-IND1 <u>東京</u>から 来ている。</p>	70
	所格	<p><i>pakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.</i> DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2 アッケー、<u>雨の中</u>を 歩いて来て。</p>	73

	具格	<i>zuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.</i> 十時=GEN 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT 十時の 船で 来たって。	75
		<i>saataa=ja uuuzi=kara suku-i-N=te.</i> 砂糖=TOP さとうきび=ABL 作る-NPST-IND1=SFP 砂糖は さとうきびから 作るさ。	77
		<i>ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.</i> これ DSC 電話帳=ALL 探す-PROG-ADN=SFP 彼は、ナ、電話帳で 探しているわけ。	80
<i>mari</i> 格	到達格	<i>ukibaru-gwaa=mari Nzj-u-N=cuN=jo.</i> 浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=SFP 浮原島まで 行くてよ。	82
<i>ni</i> 格	時間格	<i>suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.</i> お父さん=TOP 毎日 6 時=TIM 起きる-NPST-IND1 お父さんは毎日 6 時に 起きる。	87
<i>tu</i> 格	共格	<i>kaNkoku=nu hitu=tu miitu=φ na-ti=jo.</i> 韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP 韓国の 人と 夫婦になってね。	88
	比格	<i>waN=ja isiku=tu ni-su-N.</i> 私=TOP いとこ=COM 似る-PROG-IND1 私は いとこ と 似ている。	94
<i>juka</i> 格	比格	<i>waN=juka tiicee siizaa ra-ru.</i> 私= CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN <u>私より</u> 一つは上だよ。	95

3.2 津堅方言の格形式と機能

以下では、ハダカ格、*ga* 格、*nu* 格、*ni* 格（与格）、*si* 格（向格）、*Nka* 格、*Nzi* 格、*uti* 格、*si* 格（具格）、*kara* 格、*mari* 格、*ni* 格（時間格）、*tu* 格、*juka* 格、の 14 の格形式について、例文 1 を提示しながら、その文法機能を記述する。

3.2.1 ハダカ格（グロス：機能に応じて NOM、GEN、ACC）

ハダカ格には主格、属格、対格の機能があるが、ハダカ格がこれらの機能を有していることは、北琉球方言の特徴の一つともいえるものである。ハダカ格が主格や対格を表す場合、多くは述語と連続的に現れることが多い（例文 3～4、6～9）。たとえば、*ga* 格や *nu* 格の場合、次のように、述語部分までの間に、補語や状況語といった複数の構成要素がある。

?jaa=ga asa jaa=Nka uu-riba wanu su-u-wa=ja.
 あなた＝ 明日 家＝ 居る- 私.TOP 来る-NPST-IND3=SFP
 NOM LOC1 COND
 主語 状況語 補語 述語
 あなたが 明日家に いる ならば、私は来るよ（＝行くよ）。 ※*ga* 格の 10
 の例

wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.

私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SGP

規定語 主語 状況語 述語

私たちの 人が (=家族の人が) 今 使っているよ。

※*nu* 格の 15

の例

すなわち、ハダカ格の場合、*ga* 格や *nu* 格を配せずとも、述語部分に連続的につながっていくので、述語との関係が自明のこととして処理される。たとえば、次の 1 や 2 の例文において、主格と対格との関係で見た場合、述語との接近度は、対格の方が述語に近く、対格と述語とが連続して現れることが多く見られる。その分、主格と述語との距離は遠くなるので、*ga* などの格が配され、主格として明示される。特に 2 の例文では、*rusi* と *sjeNsjee* の二つの名詞は、ともに人との関係や人の属性を表す、いわゆる人名詞である。「*rusi nataN* (友達になった)」 「*sjeNsjee nataN* (先生になった)」のように、両方ともがハダカの場合、いずれも述語の *nataN* の補語としての関係を築くことができる。もちろん、*rusi sjeNsjee nataN* という語順から、*rusi* が主語、*sjeNsjee* が補語ということは明らかであるが、*ga* 格が配されることで、文成分の役割は一層明らかにされる。述語との関係において見た場合、対格と述語との関係の方が、主語と述語との関係よりも結びつきが強いと捉えられる。

1. *muuku=ga* *kuruma=φ* *mu-ca-kutu.*

婿=NOM 車=ACC 持つ-PST-CSL

婿が 車を 持っているから。

2. *wattaa=φ* *rusi=ga* *sjeNsjee=φ* *na-ta-N=tsuN=ro.*

私 友達 先生=ACC なる-PST-IND1=QUOT=SGP
達=GEN =NOM

私達の友達が 先生に なったってよ。

以下、ハダカ格が現れた例文を示す。3～4 は主格、5 は属格、6～9 は対格である（8 は主格と対格の二つあり）。

3. *sooree=φ* *u-u-gutu=jo* *inagu+sooree.*

兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SGP 女兄弟

兄弟が いるからね、女兄弟。

4. *sigutu=φ* *uwa-ine* *num-i-ga+ik-a=jaa.*

仕事 終わる-COND 飲む-SEQ1-PURP+行く-INT=SGP
★ =NOM

仕事が 終わったら、飲みにいこうよ。

5. *uree* *waa=φ* *muN* *ja-ha.*

- ★ こ れ.TOP 私=GEN もの COP=IND2
これは 私の ものであるよ。
6. koohii=φ mucu+kuuba sim-u-ta-N=ja aNca.
コーヒー 持ち.SEQ2+来 済む-NPST-PST- それなら
=ACC る.COND IND1=SFP
コーヒーを 持ってくれば良かったね、それなら。
7. aNci pihja-ta-riba kooto=φ ki-si+suu-ta=muN.
★ こんなに 寒い-PST-COND コート 着る-SEQ2+来る.NPST-PST=SFP
=ACC
こんなに寒いなら、コートを 着て来たのに。
8. nuru=φ kaak-ine mizi=φ num-u-N.
★ 喉 かわく- 水=ACC 飲む-NPST-IND1
=NOM COND
喉が 渴いたら 水を 飲む。
9. uhucu=φ na-ine pairotto=φ na-i+busa-N=jaa.
★ 大人=DAT なる-COND パイロット= なる-NPST+欲しい-IND1=SFP
ACC
大人になったら、パイロットに なりたいね。

3.2.2 ga 格（グロス：NOM）

ga 格は、主格、属格の機能を持つ。例文に見られるように、主格の場合、動作、変化、状態の主体を表す。特に、主体が人や物など具体的な事物であることが多い。「仕事」「連絡」「戦」など、出来事や事柄が主体となる場合も承接できるが、同じ機能を持つ nu 格やハダカ格の方がやや優先されるような傾向がある（ハダカ格の例文 4、nu 格の例文 17～18）。

以下、ga 格が現れた例文を示す。10～12 は主格、13～14 は属格である。

10. ?jaa=ga asa jaa=Nka uu-riba wanu su-u-wa=ja.
あなた= 明日 家= 居る- 私.TOP 来る-NPST-IND3=SFP
NOM LOC1 COND
あなたが 家にいるならば、私は来るよ（＝行くよ）。
11. msi=ga wakar-aN-riba deNwa+hii=jo.
★ 道=NOM 分かる-NEG-COND 電話+する.IMP=SFP

道が 分からなければ電話しなさいよ。

12. *koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru.*

★ 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN

水が とけると水ぞなる (=水になる)。

13. *?jaa=ga ikigwaN-gwa ?jaa=ga ikuci=nu kwa ja-ga.*
 あなた 息子-DIM あなた いくつ=GEN 子 COP-Q
 =NOM =NOM

あなたの 息子はあなたがいくつの時の子であるか？

14. *ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru.*

★ 親たち 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN
 =NOM

親たちの 手伝いぞ (=手伝いを) させられた。

3.2.3 nu 格 (グロス : GEN)

nu 格も *ga* 格と同じように、主格、属格の機能を持つ。主格の場合と同様に、動作、変化、状態の主体を表す。特に、「連絡」「戦」など、出来事や事柄が主体となる場合、*ga* 格よりもやや優先的に配される傾向がある (例文 17~18)。また、属格では、数詞やそれに準ずる名詞の場合には *nu* 格が用いられる (例文 20~21)。

共通語では、*nu* 格に対応する「ノ格」は「学校への道」のように格助詞の中でも他の助詞と複合的に用いることができるが、津堅方言では確認することが難しい²。*gakkoo = si ik-u-ru misi* (学校=ALL 行く-NPST-AND 道、学校へ行く道) のように述語を伴う文で表現されることが多い。複合的な用法は共通語ほど発達させていないと考えられる。

以下、*nu* 格が現れた例文を示す。15~18 は主格、19~21 は属格である。

15. *wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.*
 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP
 私たちの 人が (=家族の人) 今使っているよ。

16. *asa nami=nu taka-a-riba punee Nzir-aN-ra=hazi=ro.*

★ 明日 波=GEN 高い-ADJ-COND 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR =SFP

あした 波が 高ければ、船は出ないだろう。

17. *keNco=kara mata ama=si ari reNraku=nu ki-si=jo. ...*
 県庁=ABL また あそこ DSC 連絡=GEN 来る-SEQ2=SFP
 =ALL

県庁からまたあそこ（＝学校）へ、アレ、連絡が来てね…（以降、会話が続く）。

18. *ikusa=nu* *uwa-ine* *sima=Nka* *mudu-i-N=ci.*
 戦=GEN 終わる=COND 島=LOC1 戻る-NPST-IND1=QUOT
戦が 終われば、島に戻ると言って。

19. *kii=nu* *pata=Nka* *pana* *sa-su-N.*
 木= 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1
 GEN
木の 枝に花が咲いている。

20. *X+jonaN=nu* *neesaN=ni=ja* *meenasi* *nura-ar-u-ta-N.*
 X+四男=GEN 姉さん=DAT= 毎日 怒る-PASS-PROG-PST-IND1
 TOP
X 四男の 姉さんには毎日怒られていた。

21. *naa* *misee=nu* *waraba-taa=ga* *ki-si.*
 DSC 三人=GEM 子ども-PL=NOM 来る-SEQ2
 ナー、三人の 子どもたちが来て。

3.2.4 ni 格（グロス：DAT）

ni 格はいわゆる間接補語としてはたらく与格を標示する機能を持つ。述語部分が動作、行為を表す場合、その動作、行為の及ぶ対象を表す（例文 22～24）。述語部分が状態を表す場合、その状態との関係性を表す（25～26）。たとえば、「似る」に承接する場合、例文 25 に見えるように、指示代名詞「*ure*（これ）」で指されたものと「島バナナ」との関係を表す。これは *tu* 格にも見られる比較基準を標示する機能としても捉えられる。また、例文 26 は「姉さん」と「*aana*」が同一のものの表す対応関係にあることを表す。

22. *kusaa=nu* *cuu=ni* *nama* *ka-tu-N=ro.*
 後ろ= 人=DAT 今 貸す-PROG-IND1=SFP
 GEN
 後ろの（家の）人に、今、貸しているよ。

23. *uri* *hoN=φ* *waN=ni* *kara(h)-aN=ga.*
 こ 本=ACC 私=DAT 貸す-NEG=Q
 ★ の
 この本を 私に 貸さないか（＝貸してくれないか）。

24. *taa=ni* *kik-iba* *waka-i-ga=ja.*

★ 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SBP

だれに 聞けば、分かるかな

25. *heega ure=ϕ simabananaa=ni nis-u-N=ro.*
 だけど これ 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SBP
 =TOP
 だけど、これは 島バナナに 似ているよ。

26. *neesan=ni aana.*
 姉さん=DAT アーナ
 (方言では) 姉さんに 「アーナ」 (と言う)。

さらに、*ni* 格は間接補語としてはたらくので、授受動詞が述語である文 (例文 27～28) の他、受身構文 (29～31)、使役構文 (32～36) において、授受の相手、受身の相手、使役の相手を標示する。ところで、いわゆる迷惑受身といわれる間接受身文はあまり発達していないが、共通語からの影響もあってか、例文 31 のような例も見られた³。

27. *iN=ni muN=ϕ ki-ta-gutu iso-zi kwo-ta-N.*
 犬=DAT モノ やる-PST-CSL 喜ぶ- 食べる-NPST-PST-IND1
 =ACC SEQ2
 ★ 犬に えさをやったら、喜んで食べた。

28. *waN=ni ir-a.*
 私=DAT 得る-IMP
 ★ 私に やれ (=ちょうだい)。

29. *iN=ni uur-at-ti=jo (>uur-ar-ti=jo) reezi ja-ta-N.*
 犬= 追う-PASS-SEQ2=SBP 大変 COP-PST-IND1
 ★ DAT
犬に 追われて大変だった。

30. *nusuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N. (>kasimir-ar-ta-N)*
 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1
 ★ 泥棒が 警察に 捕まえられた。

31. *uri zjuusu wanu num-i+busa-ta-iga.*

- ★ この ジュー 私.TOP 飲む-NPST+欲しい-PST-ADVRS
ス

siizja=ni num-at-ta-N. (>*num-ar-ta-N*)

兄=DAT 飲む-PASS-PST-IND1

このジュース、私も飲みたかったけど、兄に飲まれた。

32. *asa X=ni mut-a-u-waa..* (>*mut-ah-u-waa*)

明日 X=DAT 持つ-CAUS-NPST-IND4

明日 Xに持たせるよ。

33. *mmaga=ni ziN=φ ir-a-ca-N.* (>*ir-ah-ta-N*)

- ★ 孫=DAT お金=ACC 得る-CAUS-PST-IND1

孫にお小遣いを得させた (=あげた)。

34. *ikigwaN-gwa=ni juubiNkjoku=si jar-a-ca-N.* (>*jar-ah-ta-N*)

- ★ 息子-DIM=DAT 郵便局=ALL 遣る-CAUS-PST-IND1

息子を郵便局に行かせた (=行ってもらった)。

35. *uri warabi=ni hoN=φ jum-a-aN=ga.* (>*jum-ah-aN=ga*)

- ★ この 子ども=DAT 本=ACC 読む-CAUS-NEG=Q

この 子どもに本を読ませないか (=読ませなさい)。 {note: 「読む」動作主は子ども}

36. *uri hoN ?jaa=ga kkwa=ni jum-a-i=be.* (>*jum-ah-i=be*)

- ★ この 本=ACC あなた=GEN 子ども=DAT 読む-CAUS-IMP=SFP

この本をあなたの 子どもに読ませなさい。 {note: 「読む」動作主は子ども}

3.2.5 *si* 格 (グロス : ALL)

si 格は、行く先を表す向格としての機能を持つ。したがって、「行く」「登る」などの移動動詞との共起関係が強い。さらに、「入る」のような移動と滞留(停滞)との両方の性質を持つ動詞の場合、あとに挙げる *Nka* 格との競合関係にあると見られ、例文 41 と 50 (*Nka* 格)のように、同内容を、格形式を変えて表現することが可能である。つまり、動詞「入る」の「移動」の性質に関わらせれば *si* 格が配され、「滞留(停滞)」の性質に関わらせれば *Nka* 格が配されると考えられる。

37. *juubiNkjoku=si ik-u-riba kitte=φ koo-ti+kuu=jo.*

- ★ 郵便局=ALL 行く-NPST-COND 切手=ACC 買う-SEQ2+来る-IMP=SFP

郵便局へ 行くなら、切手を買ってきてね。

38. *inagu=ϕ cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.*
女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP
(正月には) 女は人の 家へ 早く行かないよ。

39. *kii=nu ii=si nubuj-aaku-N=baajo.*
木 上 登る-PROG-IND1=SFP
=GEM =ALL
木の 上へ 登っていくわけよ。

40. *hutoN=si icca-gutu sugu niN-ti+Nzj-u-N.*
布団 入る.PST- すぐ 寝る-SEQ2+行く-NPST-IND1
★ =ALL CSL
(眠れないと思ったけれど) 布団へ 入ったら、すぐ寝てしまった。

41. *tunai=si nusuru=nu iccu-muN=nu biti=ϕ*
★ 隣=ALL 泥棒=NOM 入る.NPST-CSL=SFP 私達=ADD
kiisikir-aN-riba nar-aN.
気をつける-NEG-COND なる-NEG
隣へ 泥棒が入ったので、私達も気をつけなといけない。

さらに、派生的な機能として、動作や行為の結果を標示する機能がある(42~43)。si 格は向格としての機能を持つが、それはすなわち、移動の着点をも意味する。したがって、変化の帰結を標示する機能として機能を拡大させたものと考えられる。移動の着点としての標示機能は、次の例文からも確認できる。

- keNco=kara mata ama=si ari reNraku=nu ki-si=jo...*
県庁=ABL また あそこ DSC 連絡=GEN 来る-SEQ2=SFP
=ALL

県庁から また あそこ (=学校) へ、アレ、連絡が来てね… (以降、会話が続く)。

※nu 格の 17 再掲

上記の例は、「連絡」の移動区間が「県庁からあそこ (=学校) へ」と標示されている。つまり、「連絡」の発信起点として kara 格で「県庁」が示され、着信終点として si 格で「あそこ (=学校)」が示されている。移動の終点標示から、変化の帰結標示へと機能が拡大

していく過程として捉えられる。。

さらには、*si* 格は、範囲や列挙の終点標示としても用いられる。44 は連続的な範囲を表しており、「ハナコからジロウまで」が「この家で育つ」たとして、その背景には「ハナコ」から「ジロウ」の間に複数の人がいる。一方、45 や 46 は、列挙として「ハナコ」や「タロウ」「ジロウ」が挙げられている。一部列挙 (45) の場合にも全部列挙 (46) の場合にも、*kara* 格で列挙の始点が、*si* 格で列挙の終点が標示される。この場合、意味的な終点というよりも文における形式的な終点としての機能になっていると考えられる。

42. *eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.*
 円=ALL 切り替える-PST- 少し COP-PST-IND1=SFP
 CSL

(ドルから) 円に切り替えたから、(切り替えた後のお金は) 少しだったよ。

43. *mjoozi=ga X=si kawa-ta-kutu saisjo=wa nareNkatta.*
 名字=NOM X=ALL 変わる-PST- 最初=TOP なれる.NEG.PST
 CSL

名字が X に変わったから、最初は慣れなかった。

44. *hanako=kara ziroo=si kunu jaa=Nzi suda-ti.*
 ハナコ=ABL ジロウ この家 育つ-SEQ2
 =ALL =LOC2

ハナコからジロウまで、この家で育って。
 名

※人名は仮

45. *uttaa mata zjuNni ik-aN baa+haN=na*
 これたち また ほんとう 行く-NEG 拒否すること+する.NEG=SFP
 に

hanako=kara taroo=si=jo.
 ハナコ=ABL タロウ=ALL=SFP

あれたち、また本当に行かないよう (=家にかえらないよう) はしなくてね、ハナコからタロウから よ。

※人名は仮名

46. *buru mata uma rokusiN=ja*
 全部 また ここ 独身=COP
hanako=kara taroo=kara ziroo=si.
 ハナコ=ABL タロウ=ABL 次郎=ALL

みんなまた、ここ (の人たちは)、独身だ。ハナコから、タロウから、ジロウから。
 ら。

※

人名は仮名

3.2.6 *Nka* 格（グロス：LOC1）

Nka 格は、述語の間接補語として人や物の存在する場所を標示する（例文 47～49）所格の機能を持つ。また、例文 50～54 のように、移動の帰着点、すなわち人や物の「滞留（停滞）」場所としての標示機能を持つ。「滞留（停滞）」は人や物が移動の帰着点に「ある」ことであり、つまり「存在する」ということと類似のこととして解釈される。この場合、「移動」の意味も必然的に包含されているが、「移動」の意味の表出具合は動詞によって差がある。たとえば、共通語でも「彼は教室へ入るとまっすぐ自分の席へ向かった」「彼は教室に入るとまっすぐ自分の席へ向かった」のように「ニ」「へ」の共起関係においてその程度差があまり見られないものもあれば、「駅へ着くと電車がすぐ来た」「駅に着くと電車がすぐ来た」のように、「ニ」ほど「へ」と「着く」との共起関係が強くはない場合もある。一方、「駅へ着く前に電車が来た」のように、駅へ向かう途上であれば、「へ」と「着く」との共起関係は高まるようにも思える。つまり、「入る」は「移動」「帰着」の両側面の意味に分化しやすいが、「着く」は「帰着」の意味が前面に出されるといえる。津堅方言の *iccuN*（入る）も共通語の「入る」と同じように捉えられ、「移動」「帰着」の両側面に意味が分化する結果、*si* 格と *Nka* 格の競合関係が生じていると捉えられる（例文 41（*si* 格）と 50）。

47. *ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.*

あそこ 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4
=LOC1
あそこに二軒店があるよ。

48. *ane uma=Nka gumi=ga a-N=ro.*

ほら そこ ゴミ ある.NPST-IND1=SFP
=LOC1 =NOM
ほら、そこにゴミがあるよ。

49. *unu hoNdana=Nka nara-ru-ru hoN=ja musika-a-N.*

★ ここ 本棚=LOC1 並ぶ・PROG- 本-=TOP 難しい-ADJ-IND1
ADN
この 本棚に並んでいる本は難しい。

50. *tunai=Nka icc-u-riba wattaa=N kiisikir-aN-riba nar-aN.*

★ 隣=LOC1 入る.NPST-CSL=SFP 私達 気をつける-NEG- なる-NEG
=ADD COND
隣に泥棒が入ったなら、私達も気をつけないといけない。

51. *puni=nu suba=Nka uc-u-ibi-N=ro.*

船=GEN そば 置く-NPST-POL-IND1=SFP
=LOC1

船の隅に、おいていますよ。

52. *ruu=nu ziteNsja=nu mee=Nka nusi-ti.*
自分 自転車=GEN 前=LOC1 乗せる-SEQ2
=GEN

自分の自転車の前に、乗せて。

53. *kinuu aNmaa=ja pujumuno taNsu=Nka iri-ta-N.*
昨日 お母さん 冬 タンス 入れる・PST-IND1
★ =TOP 物.ACC =LOC1

昨日、お母さんは冬物を タンスに 入れた (=しまった)。

54. *iN uri=ru jam-ine mata pisa=Nka nas-i=muN=cu.*
うん これ 痛む・COND また 膝=LOC1 なする-
=FOC NPST=SFP=QUOT

うん、これぞ (=薬を)、痛んだら、膝に なすりつける (塗る) って。

また、*Nka* 格は派生的な機能を持つ。その一つが具格である。例文 55～56 のように「炊く」「煮る」に必要な「鍋」に *Nka* 格が用いられる。他にも *uri pukuru=Nka mu-ci+i-ke* (この 袋=LOC1 持つ-SEQ2+行く .IMP、この袋に持って行け)、*ju=Nka sizi-i-N* (湯=LOC1 煎じる-NPST-IND1、湯で煎じる) のような例が見られる。すなわち「鍋」「袋」「湯」に共通のこととして、ものが「存在」できる空間、滞留域があるということである。一般的には具格は *si* 格 (具格) で表されるが、空間や容量を持つ道具の場合は *Nka* 格が承接しやすい。なお、*si* 格 (具格) で代替されることもある。

その他、動作や行為の対象 (57) や結果 (58) を標示する機能である与格の機能も見られるが、同機能を持つ *ni* 格に比べてその頻度は高くない。他方言からの影響なども考える必要がある。

55. *nabi=Nka tak-u-N.*
鍋=LOC1 炊く-NPST-
IND1
鍋で 炊く。

56. *Nmunijanaabi=Nka ni-si Nmu=φ ka-tu-ta-N=ro.*
芋煮る鍋=LOC1 煮る-SEQ2 芋=ACC 食べる・PROG-PST-IND1=SFP
芋煮る鍋で 煮て、芋を食べていたよ。

57. paapuzi=Nka hookoku+si=jo.
 ご先祖様 報告+する.SEQ2=SFP
 =LOC1
ご先祖様に 報告しろよ。

58. miici=Nka wakir-i.
 三つ= 分ける-IMP
 LOC1
三つに 分ける。

3.2.7 Nzi 格（グロス：LOC2）

Nzi 格は、動作や行為が遂行されたり、出来事が実現されたりする場所を表す。文中では、事態成立の外的背景を表す状況語として機能する（59～60）。また、期間の終点を標示する機能としても働く（61～62）。そのため、=mari=Nzi のように mari と Nzi とで複合形式(62)を取ることができる。

59. uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.
 ここ サンエー 会う-PST-IND1=SFP
 =LOC2
 ここ（の）サンエー（スーパーの名称）で 会ったの？

60. kurasimi=Nzi hoN= ϕ jum-u-ine mii= ϕ
 くらがり 本=ACC 読む-NPST- 目=NOM
 ★ =LOC2 COND
 wasa-ku na-i-N=ro.
 悪い-INF なる-NPST-IND1=SFP
暗いところで 本を読んだら、目が悪くなるよ。

61. nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu= ϕ na-ti.
 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2
 （手術してから）二月の十二日で 二ヶ月なつて。

62. sicigwatsu=mari=Nzi siharai = ϕ uwa-ta-kutu
 七月=TER=LOC2 支払い=NOM 終わる-PST-CSL
 ziko raku+na-tu-ru=baajo.
 とても 楽+なる-PROG-AND=SFP
七月までで 支払い終わったから、とても楽になっているわけよ。

3.2.8 uti 格（グロス：LOC3）

uti 格も、Nzi 格と同様に動作や行為が遂行されたり、出来事が実現されたりする場所を

表す。文中では、事態成立の外的背景を表す状況語として機能する。*uti* 格はやや丁寧な感じがするなどの内省を説明されることもあるが、使用差ははっきりとしない。なお、生塩（2001）では動作・作用の行われる場所を示す伊江島方言の *naiti* の説明部分で次のような記述が見られる。「*naiti* とおなじ意味で使われる *wuti* は、沖縄本島からの移入語である。」〔生塩 2001 : 227〕

63. *aNci* *kazipuki=ni* *puka=uti* *asib-u-ru* *cuu=nu* *u-u-mi*.
 こんな 台風=TIM 外=LOC3 遊ぶ-NPST-ADN 人=NOM いる-NPST-Q
 こんな台風時に、外で遊ぶ人がいるか？

64. *sima=uti* *umari-ti* *sima=Nka=ru* *uN=ro*.
 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる=SFP
島で生まれて、島にいるよ。

3.2.9 *si* 格（グロス : INST）

津堅島方言の格の形態として *si* は方向表示機能と手段表示機能の二つの機能がある。形態はいずれも *si* であるが、出自が異なるものとして、それぞれ別のものとして扱う。方向表示機能の *si* は、奄美・沖縄北部で聞かれる方向表示の機能を持つ [katci] [tei] などと由来を同じくすると考えられる。一方、手段表示機能の *si* は「して」由来のものとして複数の研究者によって指摘される⁴。

si 格は、道具や手段一般を標示する具格として機能する。同機能は *Nka* 格や *kara* 格にも見られるが、承接関係が *Nka* 格は空間や容量を持つ道具に、*kara* 格は移動手段となる乗り物に限定されるのに対して、*si* 格にはそのような限定はなく、広く一般的に用いることができる。そのため、*Nka* 格や *kara* 格の代替として用いることもできる。

65. *sabaki=si* *kaazi* *sabak-i=be*.
 櫛=INST 髪 梳け-IMP=SFP
櫛で髪を梳けよ。
66. *huri=si* *kak-u-ta-N=ro*.
 筆=INST 書く-NPST-PST-IND1=SFP
 (昔は) 筆で書きよったよ。
67. *wanuN* *kam-i-gisanaa* *uma=Nzi* *nihjakueN=si*
 私.ADD 食べる-NPST-SIM ここ=LOC2 二百円=INS

<i>mata</i>	<i>u-i-ru-ru-Nka</i>	<i>i-NzjaN=ro.</i>
また	売る・NPST・PROG・ADN・ APPR	言う・PROG=SFP

私もまた（自分でも米を）食べながら、ここで 二百円で また売っているなど言っているよ。

3.2.10 *kara* 格 (グロス : ABL)

津堅方言の *kara* 格は、最も多様な機能を持つ格である。具体的には次の六つの機能がある。①起点を標示する（時間的起点、空間的起点、68～71）、②移動場所を標示する（72～74）、③移動手段を標示する（75～76）、④材料・原料を標示する（77～78）、⑤情報源を標示する（79～80）、⑥授受動作主（81）を標示する、以上六つの機能に分けられる。①は輦格、②所格、③～⑤は具格、⑥は与格に対応するものとして見ることもできる。

「起点」標示が基盤となり、所格、具格へとその機能を拡大させたものとする。つまり、「起点」には「移動」の概念が前提として内包されており、動作や作用の起点における人や物が「存在」している最初の「位置」である。すなわち、「起点」に内包される「移動」という概念と人や物の「存在」という概念とが重層的に捉えられ、「移動動作の行われる場所」を標示する機能を派生させることにつながったと解釈される。さらに、移動動作に関わる移動手段標示へとその機能を拡大させたと考えられる。また、「起点」という概念が場所や時間のみならず、物に適応されて、原料や材料、情報源や授受動作主を標示する機能を派生させたといえる。これらをまとめれば、以下のように図示できる。

①「位置」起点＝「移動」の概念 → 移動動作の行われる場所 → 移動手段
 段
人や物の「存在」の概念

②場所や時間における「起点」の概念 → 物における「起点」の概念

68. saNgwacu=kara *ik-u-N*.
 三月=ABL 行く-NPST-IND1
 三月から 行く？

69. nama=kara=ru *suika*= ϕ *ki-i-ru*.
 ★ 今=ABL=FOC スイカ 切る-NPST-ADN
 =ACC
 これから スイカを切る。

70. tookjoo=kara *ki-su-N*.
東京=ABL 来る-PROG-IND1
東京から 来ている。

71. *waN=ja kinuu uma=kara tu-ra-N.*

★ 私=TOP 昨日 ここ=ABL 飛ぶ・PST-IND1

私は昨日、ここから 飛んだ。

72. *sura-a-ru tui=nu tiN=kara tur-aku-N=ro je.*
 美しい-ADJ- 鳥=NOM 天=LOC 飛ぶ-PROG-
 ADN IND1=SFP DSC
 きれいな鳥が 空を 飛んでいるよ、ほら。

73. *ʔakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.*
 DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2
 アッケー、雨の中を 歩いて来て。

74. *arje je uNdoobaa=kara paaee+saku-wa.*
 あれ DSC 運動場=LOC 走り+する・PROG-IND3
 アレ、イエ、運動場を 走っているよ。

75. *zjuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.*
 十時 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT
 =GEN
 十時の 船で 来たって。

76. *zippuN=gurai ziteNsja=kara ik-u-ru uma=Nka.*
 10 分=くらい 自転車=ABL 行く-NPST-
 ADN ここ=LOC1
pama=nu aN=cui=gate.
 浜=NOM ある=QUOT=SFP
 10 分くらい 自転車で 行くそこに浜があるというがね。

77. *saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.*
 砂糖 さとうきび 作る-NPST-IND1=SFP
 =TOP =ABL
 砂糖は さとうきびから 作るさ。

78. *Nmu=ϕ ni-si uri niziru=kara peezi-ru=suku-i-ru=baate.*
 芋=ACC 煮る- これ 煮汁=ABL 酢=ACC 作る-NPST-AND=SFP
 SEQ1
 芋を煮て、この 煮汁から 酢を作るわけ。

79. *akaruNki=nu sicizi=nu njuusu=kara waka-i-ta-N=ro.*

明け方=GEN 七時=GEN ニュース 分かる-NPST-PST-IND1=SFP
=ABL
明け方の七時の ニュースで 分かったよ。

80. *ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.*
これ DSC 電話帳=ABL 探す-PROG-AND=SFP
彼は、ナ、電話帳で 探しているわけ。

81. *Nmee=kara ziN=φ jir-ah-at-ta-N. (>jir-ah-ar-ta-N)*
★ おじいさん=ABL お金=ACC 得る-CAUS-PASS-PST-IND1
おじいさんから お小遣いを得させられた (=もらった)。

3.2.11 mari 格 (グロス : TER)

mari 格は、先の *kara* 格とは逆に終点を示す。空間的な終点 (82)、時間的な終点 (83) のいずれにも用いられる。また、*kara* と対応させて *~kara~mari* という形式 (84~85) で用いられる。

82. *ukibarugwaa=mari Nzj-u-N=cuN=jo.*
浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=
SFP
浮原島まで 行くてよ。

83. *jozi=mari asi-ri+ki-su-N=ro.*
四時= TER 遊ぶ-SEQ2+来る-
PROG=SFP
四時まで 遊んで来ているよ。

84. *jozi=kara gozi=mari ja-gutu=jo*
四時=ABL 五時=TER COP-CSL=SFP
juubaN=nu nuukui zjuNbi+sii-kara ik-u-N.
夕飯=TOP 何やかんや 準備+する.SEQ1-CSL 行く-NPST-
IND1
(集まりは) 四時から五時まで だから、夕飯は何やかんや準備してから行く。

85. *i-tea-i ki-sa-i heebara=kara kiNwaN=mari.*
行く-PST-REC 来る-PST-REC 南風原=ABL 金武湾=TER
行ったり来たり、南風原から金武湾まで。

3.2.12 *ni* 格（グロス：TIM）

ni 格は先に示したように、間接補語として働く与格の機能を持つが、時間を表示する時間格の機能も持つ。与格機能の *ni* 格がハダカ格になるのは「*naiN*（なる）」の動詞であることが多く、その他の場合にはハダカ格になることは見られない。時間格の場合、単語によっては *ni* 格が承接できずハダカ格になることがある。

paru=si=ja asa=ϕ ik-u-N

畑=ALL=TOP 明日=TIM 行く-NPST-IND1 畑には明日行く。

paru=si=ja rukuzi=ni ik-u-N

畑=ALL=TOP 6時=TIM 行く-NPST-IND1 畑には6時に行く。

形態上は同じ *ni* 格であるが、表出の仕方に差があるものと捉え、ここでは時間格の機能を持つ *ni* 格は与格機能を持つ *ni* 格とは別に取り立てて時間格として扱うことにする。

86. *zu:haci=ni kwaa=ϕ na-su-N=ro.*

十八=TIM 子=ACC なす-PROG-IND1=SFP

十八に子どもなしているよ（=生んだよ）。

87. *suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.*

お父さん

毎日

6時

起きる-NPST-IND1

★ =TOP

=TIM

お父さんは毎日 6時に 起きる。

3.2.13 *tu* 格（グロス：COM）

tu 格は間接補語として働く共格の機能を持つ。動作や行為が成立するために必要とされる相手を標示したり（88）、動作や行為を一緒に行う相手を標示したり（89～90）する。また、述語が状態を表す語である場合には、関係性や等価性を標示する（91～92）他、比較基準（93～94）を標示する。

88. *kaNkoku⇒nu hitu⇒tu miitu=ϕ na-ti⇒jo.*

韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP

韓国の 人と夫婦になってね、{note「それから…」という感じであとに続く}

89. *rusi-Nsaa=tu maNna ik-u-N=cuN.*

友達-

一緒に

行く-NPST-IND1=QUOT

PL=COM

友達と 一緒に行くって。

90. *kinuu isiku=tu asi-ra-N.*

昨日

いとこ=COM

遊ぶ-PST-IND1

昨日、いとこと遊んだ。

91. *niisan=tu* *guu* *ra-ta-N=cuN*.
 兄さん= 組（仲 COP-PST-IND1=QUOT
 COM 間）
兄さんと（バレーの）仲間だったって。
92. *uri* *sacuu=φ* *gohjakueN* *taaci=tu* *kee-ti+turah-aN-ga*.
 お札
 この 五百円 二つ=COM 変える-SEQ2-丁寧-NEG-Q
 =ACC
 この札（を）五百円 二枚と 換えてくれませんか？
93. *paapa-taa=tu* *kawa-tu-iga=te*.
 おばあさん- 変わる-PROG- ADVRS=SFP
 PL=COM
 （自分の言葉は昔の）おばあさんたちと 変わって（違って）いるけどね。
94. *waN=ja* *isiku=tu* *ni-su-N*.
 いとこ
 私=TOP 似る-PROG-IND1
 =COM
 私は いとこと 似ている。

3.2.14 *juka* 格（グロス：CMP）

juka 格は間接補語として働く比格の機能を持つ。比較基準を表示する機能として働き、述語に状態を表す語を取って、その状態との比較関係を表す。

95. *waN=juka* *tiicee* *siizaa* *ra-ru*.
 私= CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN
私より 一つは上だよ。
96. *misatokoogjoo=juka* *tuuwa...* *tuu-wa-N=ja*.
 美里工業=CMP FIL 遠い-ADJ-IND1=SFP
 （今の職場は）美里工業より、〈FIL.トゥーワ…〉遠いね。

3.3 格形式と機能についての全体的な考察

津堅方言の格形式とその機能について、機能別に再整理すると次ページの表5のとおりである。全体的に見ると、主格、対格、属格はハダカ格、*ga* 格、*nu* 格が担っており、機能差は文中における位置など構文的な要因が考えられる。与格は *ni* 格がほぼ専用として用いられているが、一部 *si* 格や *Nka* 格にも与格の機能が見られる。*mari* 格、*juka* 格もそれぞれ到達格、比格として専用的に用いられている。*tu* 格も共格が中心的な機能であるが、比格

があり、複数の機能を持つ。*ni* 格や *mari* 格、*juka* 格がある機能に特化して専用的に用いられる一方で、所格、奪格、向格など場所、起点、方向といった「空間」に関わる格はその機能を多様化させる方向にあると考えられる。特に具格との関連が見られる。

ところで、格機能の多様性は、複数の格形式に渡って同機能があるということである。その機能差がはっきりとしているものもあれば判然としていないものもある。使い分けの差がはっきりしているものは、たとえば、具格の機能を持つ、*Nka* 格、*kara* 格、*si* 格である。*Nka* 格に前接する名詞は空間や容量を有する物であり、*kara* 格に前接する名詞は移動手段である乗り物である。*si* 格は道具一般を表す名詞が前接し、*Nka* 格や *kara* 格との交替が可能である。*Nka* 格や *kara* 格の具格の機能は *Nka* 格や *kara* 格の基本的な機能から派生したものと考えられる。すなわち、*Nka* 格であれば、基本的な機能は人や物の「存在」する場所を示す機能であり、「存在」ということが関わって空間や容量を持つ物が道具として作用するとき具格としてそれを示すのに用いられているということである。同様に、*kara* 格の具格としての機能も「起点」標示という基本的な機能から派生したものと考えられる（詳しくは 3.10 を参照のこと）。一方、使い分けの差がはっきりしないものとして、動作や行為が行われる場所を標示する機能持つ *Nzi* 格と *uti* 格がある。他方言の影響や位相差なども含めた検討が必要である。また、同様の状態にあるものとして、*Nka* 格の与格の機能がある。津堅方言では、与格は *ni* 格が担っているが、沖縄本島中南部方言では *Nka* 格が与格として盛んに用いられている。沖縄本島中南部方言の影響から、津堅方言でも *Nka* 格の機能が多様化しているのかを検討する必要がある。

表 5 津堅方言の格形式（機能別一覧）

機能	格形式	例文	例文 No
主格	ハダカ格	<i>sooree=ϕ u-u-gutu=jo.</i> 兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SFP 兄弟が いるからね。	3
	<i>ga</i> 格	<i>koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru.</i> 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN 水が とけると水ぞなる（=水になる）。	12
	<i>nu</i> 格	<i>wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.</i> 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP 私たちの 人が（家族の人）今使っているよ。	15
属格	ハダカ格	<i>uree waa=ϕ muN ja-ha.</i> これ.TOP 私=GEN もの COP=IND2 これは 私の ものであるよ。	5
	<i>ga</i> 格	<i>ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru.</i> 親たち=NOM 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN 親たちの 手伝いぞ（手伝いを）させられた。	14
	<i>nu</i> 格	<i>kii=nu pata=Nka pana sa-su-N.</i> 木=GEN 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1 木の 枝に花が咲いている。	19
対格	ハダカ格	<i>nuru=ϕ kaak-ine mizi=ϕ num-u-N.</i> 喉=NOM かかわく-COND 水=ACC 飲む-NPST-IND1 喉が渴いたら 水を 飲む。	8

与格	ni 格	<i>taa=ni kik-iba waka-i-ga=ja.</i> 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SFP だれに聞けば、分かるかな。	24
		<i>heega ure=φ simabananaa=ni nis-u-N=ro.</i> だけどこれ=TOP 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SFP だけど、これは島バナナに似ているよ。	25
		<i>waN=ni ir-a.</i> 私=DAT 得る-IMP 私にやれ(=ちょうだい)。	28
		<i>nusuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N.</i> 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1 泥棒が警察に捕まえられた。	30
		<i>asa X=ni mut-a-u-waa.</i> 明日 人名=DAT 持つ-CAUS-IND1 明日 X に持たせるよ。	32
	si 格	<i>eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.</i> 円=ALL 切り替える-PST-CSL 少し COP-PST-IND1=SFP (ドルから)円に切り替えたから、少しだったよ。	42
向格	Nka 格	<i>miici=Nka wakir-i.</i> 三つ=LOC1 分ける-IMP 三つに分ける。	58
	si 格	<i>inagu=φ cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.</i> 女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP (正月には)女は人の家へ早く行かないよ。	38
所格	Nka 格	<i>ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.</i> あそこ=LOC1 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4 あそこに二軒店があるよ。	47
	Nzi 格	<i>uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.</i> ここ サンエー=LOC2 会う-PST=SFP ここ(の)サンエー(スーパーの名称)で会ったの?	59
	uti 格	<i>sima=uti umari-ti sima=Nka=ru uN=ro.</i> 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる=SFP 島で生まれて、島にいるよ。	64
	kara 格	<i>ʔakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.</i> DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2 アッケー、雨の中を歩いて来て。	73
具格	si 格	<i>sabaki=si ka:zi sabak-i=be.</i> 櫛=INST 髪 梳け-IMP=SFP 櫛で髪を梳けよ。	65
	Nka 格	<i>nabi=Nka tak-u-N.</i> 鍋=LOC1 炊く-NPST-IND1 鍋で炊く。	55
	kara 格	<i>zuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.</i> 十時=GEN 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT 十時の船で来たって。	75
		<i>saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.</i> 砂糖=TOP さとうきび=ABL 作る-NPST-IND1=SFP 砂糖はさとうきびから作るさ。	77

		<i>ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.</i> これ DSC 電話帳=ALL 探す-PROG-ADN=SFP 彼は、ナ、電話帳で探しているわけ。	80
奪格	<i>kara</i> 格	<i>tookjoo=kara ki-su-N.</i> 東京=ABL 来る-PROG-IND1 東京から来ている。	70
到達格	<i>mari</i> 格	<i>ukibaru-gwaa=mari Nzi-u-N=cuN=jo.</i> 浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=SFP 浮原島まで 行くてよ。	82
	<i>Nzi</i> 格	<i>nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu=φ na-ti.</i> 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2 (手術してから) 二月の十二日で二ヶ月なって。	61
	<i>si</i> 格	<i>hanako=kara ziroo=si kumu jaa=Nzi suda-ti.</i> 花子=ABL 次郎=ALL この 家=LOC2 育つ-SEQ2 ハナコから ジロウまで、この家で育って。	44
時間格	<i>ni</i> 格	<i>suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.</i> お父さん=TOP 毎日 6時=TIM 起きる-NPST-IND1 お父さんは毎日 6時に 起きる。	87
共格	<i>tu</i> 格	<i>kaNkoku=nu hitu=tu miitu=φ na-ti=jo.</i> 韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP 韓国の 人と 夫婦になってね。	88
	<i>tu</i> 格	<i>waN=ja isiku=tu ni-su-N.</i> 私=TOP いとこ=COM 似る-PROG-IND1 私はいとこと似ている。	94
比格	<i>juka</i> 格	<i>waN=juka tiicee siizaa ra-ru.</i> 私=CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN 私より 一つは上だよ。	95

4. 津堅方言のとりたて

「とりたて」の定義について、日本語記述文法研究会（2009）では以下のように述べられている。

とりたてとは、文中のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えることである。

たとえば、次の例では、「奥さん」が「も」でとりたてられ、「弁護士だ」ということ

について、同類の「田中さん」と同様にあてはまらうものとして、加えられている。

- ・田中さんは弁護士だが、じつは、奥さんも弁護士だ。

〔日本語記述文法研究会（2009）：3〕

格ととりたてとの違いを端的にまとめれば、格は、述語成分である動詞や形容詞と関係を標示するの文法的な機能として働くのに対して、とりたては、要素を際立たせ、ある意味を付加するという違いがある。付加される意味には、主題提示や強調、累加、限定などがある。津堅方言のとりたてとして、ここでは主なとりたての *ja*、*N*、*ru* の3つを取り上げ、例文とともにその意味用法を記述する。

4.1 とりたて *ja* (グロス : TOP)

とりたての *ja* は、形態としては、*ja* の形態として現れる他、前部の音と融合する形態も

見られる (98)。また、格の後に配することもできる (99~100)。意味としては主題提示 (101~106) や対比などがある (107~108)。主題提示の場合、既出の情報についてとりたてることがある (98)。107、108 は対比相手がとりたてられたものである。「*inagu* (女)」「*kigwa* (男)」、「*waN* (私)」「*rusi* (友達)」が、それぞれ対比的に明示されている。また、108 のように数詞について、「少なくとも」「最低限」という意味が付加されて、「少なくともその量に達している」ことを意味する。

97. *cu=ja* *Nna* *Sin-u-N*.

★ 人=TOP 皆 死ぬ-NPST-IND
人は 皆死ぬ。

98. *uree* *seekjoo=kara* *koo-ta-ru* *muN=ro*.
 これ.TOP 生協=ABL 買う-PST-ADN もの=SFP
これは、生協から買った物よ。

99. *kai=ni=ja* *Nna-gwa=ci* *i-N=baajo*.
 貝-
 貝=DAT=TOP DIM=QUOT 言う-IND=SFP
貝には「ンナグワー」と言うわけよ。

100. *warabi=ga=ja* *musi+hii-j-aN=ro*
 子ども 持つ+する.SEQ2-POT-NEG=SFP
 ★ =NOM=TOP
子どもでは 持てないよ。

101. *nobunaga=ja* *hoNnoozi=uti=ru* *si-za-N=ro*.
 信長=TOP 本能寺=LOC3=FOC 死ぬ-PST-IND=SFP
 ★ 信長は 本能寺で死んだよ。

102. *aNmaa=ja* *usugaa=si* *mmu=ϕ* *ara-i-ga+nzj-u-N=ro*.
 お母さん ウスガー 芋=ACC 洗う-SEQ1-PURP+行く-NPST-
 =NOM =ALL IND=SFP
お母さんは ウスガー (井戸の名前) に芋洗いに出ているよ (行っているよ)。

103. *are=ja* *karada=nu* *joo-ha-je*.
 あれ=TOP 体=NOM 弱い-ADJ-IND4
あの人は、体が弱いよ。

104. zjuusu=ja *jaa=Nka* *aa-ta-ru=muNna*
 ジュース 家=LOC1 ある-PST-ADN=SFP
 =TOP
ジュースは 家にあったのに。
105. *mata* *waa=nu* *sisi=ja* *masu=si* *siki-ti=jo*
 また 豚=GEN 肉=TOP 塩=INST 漬ける-SEQ2=SFP
unneerusi *kama-u-ta-N=ro.*
 こんなして たべる-CAUS-PST-IND=
 SFP
 また、豚の 肉は 塩で漬けてね、こんなして、食べたさせよ
106. *inagu=ja* *siburu=Nka* *kami-ti* *mata*
 女=TOP 頭=LOC1 載せる-SEQ2
ikigwa=ja *boo=φ* *kata=Nka* *katami-ti.*
 男=TOP 棒=ACC 肩=LOC1 担ぐ-SEQ2
女は 頭に載せて、また、男は 棒を肩に担いで。
107. *waN=ja* *?juu=φ* *koo-ti* *rusi=ja* *sisi=φ* *koo-ta-N.*
 私=TOP 魚=ACC 買う- 友達 肉=ACC 買う-PST-IND
 ★ SEQ2 =TOP
私は 魚を買って、友達は 肉を買った。
108. *hwusika=ni* *ikkwai=ja* *kusa=φ* *kat-akumuna*
 二日=TIM 一回=TOP 野菜=ACC 食べる-PROG.IND.SFP
 二日に 一回は 青野菜食べているのに。

4.2 とりたて *N* (ゲロス : ADD)

とりたての *N* は、同類のものが加える累加として主に用いられる。109、110 のように累加される複数の要素に *N* がついて同類のものが明示される場合もあれば、111 累加される要素のみに *N* がつく場合もある。また、時間表現に *N* がつくと、述部で表される出来事の累加となり、習慣や行動の繰り返しを意味する文となる。さらに、*N* は疑問詞に接続すると、基本的には否定の述語と共起される (114)。

- 109
ruu=N *waraba-taa=N* *kam-aN=kutu* *uri* *sjooga=φ*
 自分=ADD こども-PL=ADD 食べる-
 NEG=CSL これ 生姜=ACC
iri-ti *waa* *nis-u-ta-kutu*

入れる-SEQ2 私=φ 煮る-NPST-PST-CSL

uttaa mata kam-ar-u-N=baajo

彼ら=φ また 食べる-PASS-NPST-IND=SFP

自分も子どもたちも (豚の血の炒め物は) 食べないから、この生姜入れて私が煮たから、彼らは、また食べられるわけよ。

110. aree honuN jum-u-i manga=N jum-u-N

★ 彼.TOP 本.ADD 読む-NPST-REC 漫画=ADD 読む-NPST-IND

彼は 本も 読むし 漫画も 読む。

111. wanu=N tu-tu-wa uri jakuruto.

私=ADD 取る-PROG-IND この ヤクルト

私も 取っているよ、このヤクルト。

112. kinuu=N umi=si ik-u-ta-N.

★ 昨日=ADD 海=ALL 行く-NPST-PST-IND

昨日も 海へ行きよった。

113. suu=nu juru=N tunai=nu warabi=ga na-su-N.

★ 今日 夜=ADD となり 子ども 泣く-PROG-IND
=GEN =GEN =NOM

今夜も となりの (家の) 子どもが泣いている。

114. nuu=N kir-ar-aN cuu=nu u-u-ta-N=ro.

何=ADD 遣る-PASS-NEG 人=NOM いる-NPST-PST-IND =SFP

何も あげられない (=もらえない) 人がいたよ。

4.3 とりたて ru (グロス : FOC)

日本語の古語の係助詞「ぞ」に対応するものが、琉球諸方言でよく用いられているが、津堅方言でも *ru* の形態で用いられている。古語では、文末は係り結びとして連体形で現れるのが一般的だとされるが、津堅方言の場合は必ずしも連体形であるとは限らない。連体形、(115~116) (いわゆる) 終止形 (117~120) のいずれの形態も見られる。

意味は、いわゆる強調の意味を表す。対格の場合、もともとの対格がハダカ格なので、そのまま *ru* が配される (118) が、多くは格助詞のあとに配され、格による機能標示がさらに強められるという関係にある。たとえば、116 では、島のことを全部知っている「*ari* (彼=自分の親)」が *ga* 格で主格標示されているが、その主格をさらに強調する。文中に

ある「全部」という語とも「強調」という機能においては関連しあうだろう。主格だけでなく、奪格（115）や所格（121～122）などあらゆる格のあとに配することができる。

115. nama=kara=ru suika= ϕ ki-i-ru.

★ 今=ABL=FOC スイカ=ACC 切る-NPST-ADN

これから スイカを切る。

116. sima=nu kutu ari=ga=ru buru waka-i-ru.

★ 島=GEN こと あれ
=NOM=FOC 全部 分かる-NPST-ADN

島のこと、彼（自分の親を指す）が 全部分かる。

117. nama-gwaa=ru iibi= ϕ ki-ta-N.

★ 今-DIM=FOC 指=ACC 切る-PST-IND

今 さっき指を切った。

118. ottoo=ja saki=ru nu-ru-N=tee.

★ お父さん 酒=FOC 飲む-PROG-IND=SFP
=TOP

お父さんは 酒を 飲んでいるね（顔が赤いのを見て）。

119. wattaa= ϕ niinii-taa=ga=ru kam-u-N.

★ 私たち 兄さん-
=GEN PL=NOM=FOC 食べる-NPST-IND

私たちの 兄さんたち（自分の息子を指す）が 食べる。

120. taroo=ga=ru nak-iNzja-N=tee.

★ 太郎 泣く-PROG-IND=SFP
=NOM=FOC

太郎が 泣いているね（泣き声を聞いて）。

121. nobunaga=ja hoNnoozi=uti=ru si-za-N=ro.

★ 信長=TOP 本能寺
=LOC3=FOC 死ぬ-PST-IND=SFP

信長は 本能寺で 死んだよ。

122. meene sisjecu=Nka=ru imaa-i-ta-N=ro.

★ 前.TIM.TOP 施設=LOC1=FOC いらっしゃる-NPST-PST-IND=SFP

前には 施設に いらっしゃったよ。

¹ なお、ここで用いる例文は自然会話によって得られたものを中心にしているが、一部、質問調査（格形式を目的としたものではない）で得られた例文も提示している。質問調査によって得られた例文については、通し番号の下に「★」を付した。また、人名は X または仮名で表示してある。

² 話者に確認すると、gakkoo=si=nu misi（学校=ALL=GEN 道、学校への道）のように言えなくもないという。ただし、自然会話のテキストデータではあまり見られない。

³ 例文 31 は受身表現の質問調査による調査で、共通語の翻訳として提示された可能性もある。

⁴ si が動詞の「し」「して」に由来する指摘として以下が挙げられる。

ʃji は、國語のサ行變格の「せ」(se) の連用形「し」(ji) に、接續助詞「て」(te) の接合した「して」(jite) の轉訛したものであるらしい。[金城 1944 : 134]

Qsi, si の出自は、動詞 suN（する）の接続形に由来する。…中略…動詞接続形 Qsi, si が助詞に転成したのである。[野原 1998 : 60]

参考引用文献

Michinori Shimoji, Thomas Pellard (ed) (2010) *An introduction to Ryukyuan Languages*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies

小川晋史（編）（2015）『琉球のことばの書き方 琉球諸語統一的表記法』くろしお出版

生塩睦子（2001）「沖縄伊江島方言の格助詞」『日本語の消滅に瀕した方言に関する研究「環太平洋の言語」成果報告書 A4-001』、pp.222-236

亀井孝・河野六郎・千野栄一編著（1997）『日本列島の言語』三省堂

かりまたしげひさ（2015）「硫黄島方言の簡易文法記述—名詞の格—」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.183-199

かりまたしげひさ（2008）「沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格＝とりたて—ga 格、nu 格、ハダカ格、ja のとりたて形—」『日本東洋文化論集』（14）、pp.1-80

金城朝永（1944）『那覇方言概説』、三省堂

島袋幸子（2015）「今帰仁謝名方言の格」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.200-217

當山奈那（2015）「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』（4）、pp.47-59

仲間恵子（2015）「恩納村名嘉真方言の名詞の格」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.218-230

西岡敏（2004）「沖縄語首里方言の助詞「ンカイ」「ナカイ」「ニ」「ガ」「カイ」—共通語の助詞「に」「へ」と対照させつつ」、『沖縄国際大学日本語日本文学研究』第 9 巻 1 号、pp.1-11

野原三義（1998）『新編琉球方言助詞の研究』、沖縄学研究所

日本語記述文法研究会『現代日本語文法 5』くろしお出版

比嘉繁三郎（1990）『津堅島の記録』、沖縄自分史センター

- 又吉里美 (2007) 「沖縄津堅島方言の手段を表示する格助詞の機能について」 日本語学会 (編) 『日本語の研究』 第 3 巻 1 号、pp.49-64
- 又吉里美 (2006) 「沖縄津堅島方言における「に」格助詞相当助詞の記述的研究ー動作・作用成立に関与する対象・結果・目的表示機能を中心にー」 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領』 第 54 号、pp.153-162
- 又吉里美 (2006) 「沖縄津堅島方言の場所格を表示する格助詞の機能についての新しい知見」 『国文学攷』 (190)、pp. 1-15
- 又吉里美 (2005) 「沖縄津堅島方言助詞の体系的記述」 『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部 文化教育開発関連領』 第 53 号、pp.137-146
- 松本泰丈 (1998) 「格のカテゴリーの内部構造 ー奄美方言の〈空間格〉をめぐってー」、『国文学 解釈と鑑賞』 第 63 巻 第 1 号、至文堂、pp.82-93
- 琉球方言研究クラブ (1989) 『琉球方言 17 号ー津堅方言の音韻と語彙』 琉球大学方言研究クラブ

グロス一覧

ABL	ablative	奪格	INFR	inferential	推量
ACC	accusative	対格	INST	instrumental	具格
ADD	additive	添加	INT	intentional	意志
ADJ	adjectivizer	形容詞化	LOC1	locative	場所格 Nka 形
ADN	adnominal	連体/名詞化	LOC2	locative	場所格 Nzi 形
ADVRS	adversative	逆接	LOC3	locative	場所格 uti 形
ALL	allative	向格	NEG	negative	否定
CAUS	causative	使役	NOM	nominative	主格
CMP	comparative	比格	NPST	non past	非過去
COM	comitative	共格	PASS	passive	受身
COND	conditional	条件	PL	plural	複数
COP	copula	コピュラ	POT	potential	可能
CSL	causal	理由	PROG	progressive	進行
DAT	dative	与格	PST	past	過去
DIM	diminutive	指小辞	PURP	purposive	目的
DSC	discourse marker	談話標識	Q	question particle/ marker	疑問
FOC	focus	焦点	QUOT	quotative	引用
FIL	filler	フィラー	REC	recitation	列挙
GEN	genitive	属格	SEQ1	sequential converb	中止形 1
IMP	imperative	命令	SEQ2	sequential converb	中止形 2 = テ形
IND1	indicative	いわゆる終止形 N 形	SFP	sentence-final particle	終助詞
IND2	indicative	いわゆる終止形 ha 形	TER	terminative	到達格
IND3	indicative	いわゆる終止形 wa 形	TIM	time	時間格
IND4	indicative	いわゆる終止形 je 形	TOP	topic	主題

INF infinitive 限定用法の形容詞

八重山語宮良言葉による「桃太郎」の 書き起こしと表記法

八重山語宮良言葉による「桃太郎」の書き起こしと表記法

クリストファー・デイビス
Christopher Davis (琉球大学)

1. はじめに

本報告書では、八重山語・宮良言葉の継承に向けて、昔話・おとぎ話の書き起こし・表記等についての推進と例を挙げる。ここで取り上げる話は、宮良婦人会が作成した「^{たから}宝^{しいま}ぬ^{むに}島言葉」に載っている「桃太郎」の一部である。227ページにも及ぶこの「^{たから}宝^{しいま}ぬ^{むに}島言葉」は、コミュニティによる非常に貴重な資料であり、語彙・表現・文化等の情報がたくさん載っている。その一部として、宮良言葉による「桃太郎」も載っている。CDも付いているので、自然な発音を確かめることもできるので、言葉の継承・勉強には非常に貴重な作品である。

ここでは、その「桃太郎」や他の宮良言葉によるおとぎ話をより効率的に使えるために、統一な表記法を紹介し、話の一部をその表記法による書き起こしを試みる。

2. 宮良言葉の表記法

以下の表では、宮良言葉の表記がまとめてある。カナ表記・音素表記・音声表記が順番に書いてある（音素表記は//の間、音声表記は[]の間）。音素表記は、宮良言葉の音韻的研究の結果に基づいたものである。カナ表記に関しては、古典民謡で使われている工工四などに使われる表記法を参考にして決めたものである。

表：八重山語宮良方言の音声と表記

	a	i	u	e	o	i
	ア /a/ [a]	イ /i/ [i]	ウ /u/ [u]	エ /e/ [e]	オ /o/ [o]	
k	カ /ka/ [ka]	キ /ki/ [ki]	ク /ku/ [ku]	ケ /ke/ [ke]	コ /ko/ [ko]	クイ /ki/ [ki]/[ks]
g	ガ /ga/ [ga]	ギ /gi/ [gi]	グ /gu/ [gu]	ゲ /ge/ [ge]	ゴ /go/ [go]	グイ /gi/ [gi]/[gz]

s	サ /sa/ [sa]	シ /si/ [ʃi]	ス /su/ [su]	セ /se/ [se]	ソ /so/ [so]	スイ /si/ [si]
sy	シヤ /sya/ [ʃa]		シユ /syu/ [ʃu]	シエ /sye/ [ʃe]	シヨ /syo/ [ʃo]	
z	ザ /za/ [za]	ジ /zi/ [dʒi]	ズ /zu/ [zu]/[dzu]	ゼ /ze/ [ze]/[dze]	ゾ /zo/ [zo]/[dzo]	ズイ /zi/ [zi]/[dzi]
zy	ジャ /zya/ [dʒa]		ジュ /zyu/ [dʒu]	ジェ /zye/ [dʒe]	ジョ /zyo/ [dʒo]	
t	タ /ta/ [ta]	ティ /ti/ [ti]	トゥ /tu/ [tu]	テ /te/ [te]	ト /to/ [to]	
d	ダ /da/ [da]	ディ /di/ [di]	ドウ /du/ [du]	デ /de/ [de]	ド /do/ [do]	
c	ツア /ca/ [tsa]	チ /ci/ [tʃi]	ツ /cu/ [tsu]	ツエ /ce/ [tse]	ツオ /co/ [tso]	ツイ /ci/ [tsi]
cy	チャ /cya/ [tʃa]		チュ /cyu/ [tʃu]	チェ /cye/ [tʃe]	チョ /cyo/ [tʃo]	
n	ナ /na/ [na]	ニ /ni/ [ni]	ヌ /nu/ [nu]	ネ /ne/ [ne]	ノ /no/ [no]	
h	ハ /ha/ [ha]	ヒ /hi/ [hi]	フ /hu/ [ɸu]	ヘ /he/ [he]	ホ /ho/ [ho]	
f	ファ /fa/ [ɸa]	フィ /fi/ [ɸi]	フ /fu/ [ɸu]	フェ /fe/ [ɸe]	フォ /fo/ [ɸo]	フィ /fi/ [fi]
p	パ /pa/ [pa]	ピ /pi/ [pi]	プ /pu/ [pu]	ペ /pe/ [pe]	ポ /po/ [po]	プイ /pi/ [pi]/[ps]
b	バ /ba/ [ba]	ビ /bi/ [bi]	ブ /bu/ [bu]	ベ /be/ [be]	ボ /bo/ [bo]	ブイ /bi/ [bi]/[bz]
m	マ /ma/ [ma]	ミ /mi/ [mi]	ム /mu/ [mu]	メ /me/ [me]	モ /mo/ [mo]	

y	ヤ /ya/ [ju]		ユ /yu/ [ju]	イエ /ye/ [je]	ヨ /yo/ [jo]	
r	ラ /ra/ [ra]	リ /ri/ [ri]	ル /ru/ [ru]	レ /re/ [re]	ロ /ro/ [ro]	レイ /ri/ [ri]
ry	リヤ /rya/ [ja]		リュ /ryu/ [ju]		リョ /ryo/ [jo]	
w	ワ /wa/ [wa]					
n	ン /n/					

3. 「桃太郎」の書き起こし

宮良婦人会の「桃太郎」の一部を、以上の表記法に基づいた書き起こしを紹介する。ここで紹介する書き起こしには、四行がある：

- 1行目：カナ表記
- 2行目：音素表記
- 3行目：グロス
- 4行目：日本語共通語訳

2行目と3行目の書き起こしは、主に学者向けのものであるため、コミュニティーのための資料を作る際には、1行目と4行目だけにした方がいいかもしれない。しかし、2行目の音素表記では、形態素の境目も表記されているため、文法の勉強に役立つかもしれない。3行目のグロスは、西洋言語学で幅広く使われている表記を用いているため、言語学者にはわかりやすいものの、一般の人にはあまり役立たない。これらのグロスを、よりわかりやすい書き方に直すことは、今後の研究の一つの課題である。

宮良婦人会による「桃太郎」（一部）

ムカスイ	ムカスイ	アル	カタンガ
mukasī	mukasī	ar-u	kata=nga
昔	昔	ある-PRS	ところ=LOC
昔	昔	ある	ところに

アッチェートウ	アッパードウ	オータ	ツチヨ。
accyee=tu	appaa=n=du	oo-ta	ccyo.
おじいさん=ASC	おばあさん=NOM=FOC	いる.HON-PST	HS

おじいさんと おばあさんが いた という。

アル ピニツインガ アッチェーヤ
ar-u pi-nitsi=nga accyee=ya
ある.PRS 日-日=LOC おじいさん=TOP
ある 日に おじいさんは

ヤマゲ タムヌバ トウンナ オーレル ヨースイ。
yama=ge tamunu=ba tun-na oor-e-ru yoosi.
山=ALL 薪=OBJ.FOC 取る-PUR 行く.HON-RES-PRS HS
山に たきぎを とりに でかけた ようだ。

アッパヤー マイヘル ウーキバ ムチ
appaa=ya mai-he-ru uuki=ba muc-i
おじいちゃん=TOP 大きい-ADJ-PRS たらい=OBJ.FOC 持つ-MED
おじいちゃんは 大きな たらいを 持って

カーラゲ クインカーバ アーライナ オータ ツチヨ。
kaara=ge kinkaa=ba aarai-na oo-ta ccyo.
川=ALL 服=OBJ.FOC 洗う-PUR 行く.HON-PST HS
川へ 服を 洗いに 行った という。

アッパヌ クインカーバ アーライルンケン
appaa=nu kinkaa=ba aara-i-ru=nken
おじいちゃん=NOM 服=OBJ.FOC 洗う-PROG-PRS=間
おじいちゃんが 服を 洗っている間に

カーラヌ オーラガラ
kaara=nu oora=gara
川=GEN 岸=ABL
川の 岸から

メーダ ミー ムーヌ マイヘル トームンヌ
meeda mi-i muu-nu mai-he-ru toomun=nu
まだ 見る-MED EXP-NEG 大きい-ADJ-PRS もも=NOM
まだ 見た ことのない 大きな ももが

ナーリ クィタ ツチヨ。
naar-i ki-ta ccyo.
流れる-MED 来る-PST HS
流れて 来た らしい。

クレー ウバイタ デーズィ！
kure=e ubai-ta deezi.

これ=TOP 驚く-CMPL 大変
 これは 驚いた、 大変！

ティンヌ	ツィクィガナスィヌ	ウティ	キーソーターナー
tin=nu	ciki-nganasí=nu	uti	kii-soo=taanaa
天=GEN	月-さま=NOM	落ちる-INF	来る-NR=よう
天の	月様が	落ちて	きたような

マイヘル	トームン	ユン。
mai-he-ru	toomun	yu-n.
大きい-ADJ-PRS	もも	COP-IND
大きな	もも	だ。

アッパヤー	ンジャーットウ	ウバイオータ	ツチヨ。
appaa=ya	nzyaattu	ubai-oo-ta	ccyo.
おばあさん=TOP	とても	驚く-HON-PST	HS
おばあさんは	とっても	驚いた	らしい。

マイヘル	トームー！	クンゲ	クー！
mai-he-ru	toomuu!	kun=ge	kuu!
大きい-ADJ-PRS	もも.VOC	ここ=ALL	来る.IMP
大きな	ももよ！	こっちに	来い！

アッパヤー	マイヘル	クイサーリ	ヤラボーリ
appaa=ya	mai-he-ru	kui=saari	yarab-oor-i
おばあさん=TOP	大きい-ADJ-PRS	声=INST	呼ぶ-HON-INF
おばあさんは	大きな	声で	呼んで、

トームンヤ	ボンカボンカディ	アッパーヌ	ネーゲ
toomun=ya	bonka-bonka=di	appaa=nu	nec=ge
もも=TOP	どぶらこどんぶらこ=QUOT	おばあさん=GEN	方=ALL
ももは	ぼんかぼんかと	おばあさんの	方に

ナーリ	クィタ	ツチヨ。
naari	ki-ta	ccyo.
流れる-INF	来る-PST	HS
流れて	来た	らしい。

ヤヤヤヤー ミジラシ トームン ユン ナー。

yayayayaa	mizirasi	toomun	yu-n	naa.
ややややー	不思議	もも	COP-IND	SFP
ややややー	不思議な	もも	だ	な。

アッパヤー	ヤットウバイ	トームンバ	カーラヌ	アザゲ
appaa=ya	yattubai	toomun=ba	kaara=nu	aza=ge
おばあさん=TOP	やっこさ	もも=OBJ.FOC	川=GEN	側=ALL
おばあさんは	やっこさ	ももを	川の	岸に

ムッタダイ	シコータ	ツチヨ。
muttadai	sik-oo-ta	ccyo.
持ち上げる.INF	置く-HON-PST	HS
持ち上げて	置かれた	らしい。

アッパヤー	イッファル	トームンバ	ダギリ
appaa=ya	if-fa-ru	toomun=ba	dag-i-ri
おばあさん=TOP	重い-ADJ-PRS	もも=OBJ.FOC	抱く-PROG-INF
おばあさんは	重い	ももを	抱いて、

ヤーゲ	オータ	ツチヨ。
yaa=ge	oo-ta	ccyo.
家=ALL	行く-HON-PST	HS
家に	行かれた	らしい。

ティダヌ	イール	ズィブン
tida=nu	iir-u	zibun
太陽=NOM	入る-PRS	ころ
太陽が	入る	ころ

アッチェンドウ	ヤマガラ	カイリ	オーリ。
accyee=n=du	yama=gara	kair-i	oor-i.
おじいさん=NOM=FOC	山=ABL	帰る-INF	来る.HON-PST2
お婆さんが	山か	帰って	来た。

ウッソホー	ヌックレヘー！
usso-hoo,	nukkure-hee.
恐ろしい-ADJ	恐ろしい-ADJ
へえ、	驚いた！

オービナス	マイヘル	トームンヤ
oobina=nu	mai-he-ru	toomun=ya
こんなに=GEN	大きい-ADJ-PRS	もも=TOP
こんなに	大きな	ももは

ミー	ムヌ	ナー。
mi-i	mu-nu	naa.
見る-INF	EXP-NEG	SFP
見た	ことがない	な。

ンマハン	キシヤーソー	ナー。
mma-ha-n	kisyaa-soo	naa.
美味しい-ADJ-IND	EVID-NR	SFP
美味し	そうだ	ね。

アッパーヤ	ポーザカタナサーリ	トームンバ	キショーリ	ツチヨ。
appaa=ya	pooza-katana=saari	toomun=ba	kisy-oor-i	ccyo.
おばあさん=TOP	包丁-刀=INST	もも=OBJ.FOC	切る-HON-PST2	HS
おばあさんは	包丁で	ももを	切った	らしい。

ヤヤヤヤー	ウレー	ノー?	フンギヤー	フンギヤー!
yayayaya,	ure=e,	noo.	fungyaa	fungyaa!
ヤヤヤヤ	これ=TOP	何	おぎやあ	おぎやあ.
あらら、	これは	何だ?	おぎやあ、	おぎやあ。

ガンジョホール	クイサーリ
ganzyo-hoo-ru	kui=saari
頑丈-ADJ-PRS	声=INST
元気な	声で

ナカガラ	ビギドゥンファース	ンディ	キ	っチヨ。
naka=gara	bigidun-faa-nama=nu	ndi	ki	ccyo.
なか=ABL	男-子-DIM=NOM	出る-INF	来る.PST2	HS
中から	男の子が	出て	きた	らしい。

沖縄県黒島方言の音節一覧・助詞・談話資料

沖縄県黒島方言の音節一覧・助詞・談話資料

原田走一郎(与那国町教育委員会)

荻野千砂子(福岡教育大学)

1. はじめに

本稿は、南琉球八重山黒島方言の音節一覧，助詞（格助詞，取り立て助詞）を示し，談話資料2篇（自由談話「結願祭」と「桃太郎」）を掲載する。

まず，黒島と黒島方言の概要を示す。黒島は八重山諸島の中心部である石垣島から南南西の位置にある。以下の地図に示すとおりである（図はトマ・ペラール氏の作成による）。

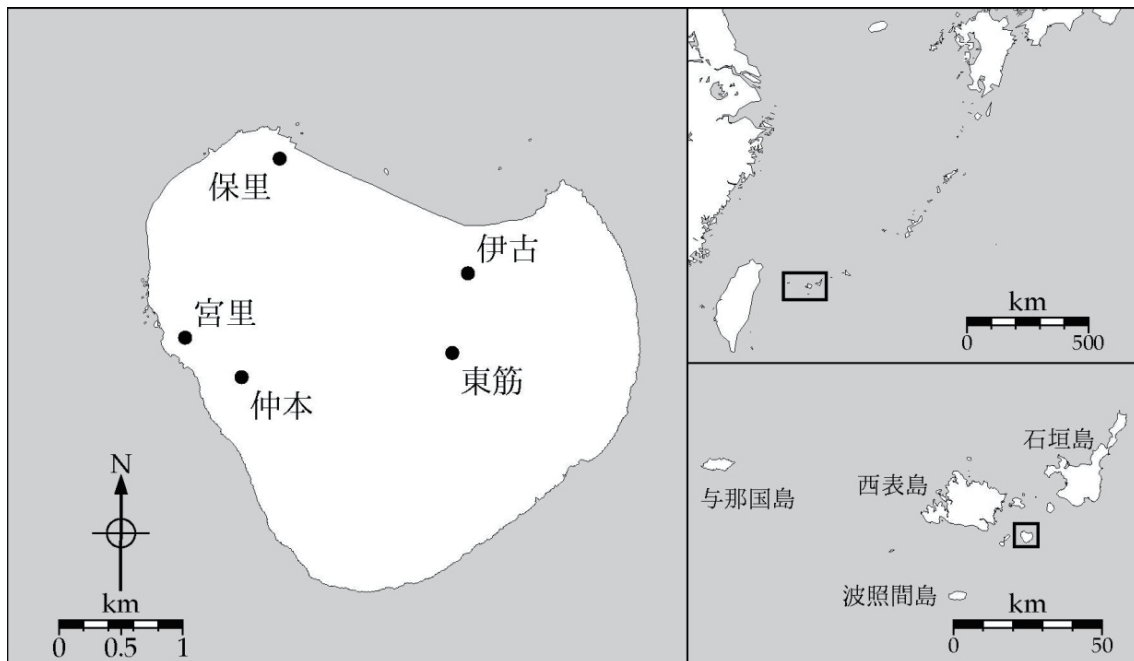


図1 黒島の位置

黒島方言は、八重山語の方言であるが、近隣の島々の方言との相互理解はないようである。黒島方言の話者はほぼ全員が75歳以上であり，多く見積もっても45名ほどであり，消滅の危機度は高い。島内には，東筋集落，保里，仲本，宮里の集落がある。伊古は，糸満からの移住者が多く住んでいたため，黒島方言とは異なっているという。かつては，黒島内で集落間の移動が少なかったらしく，集落間での方言差がある。話者によると，保里・仲本・宮里の3集落は似ているが，東筋は異なっているという。そのため，データは複数の集落が混じらないよう気をつけている。音節一覧は保里方言話者からのデータ，格助詞・取り立て助詞と談話資料は東筋方言話者からのデータである。

2. 黒島方言の音節一覧

まず、黒島方言の音節の特徴について述べる。基本的には(C)Vであり、音節上、複雑ではない。ただし、いくつか注意すべき点がある。一点目は、コーダがある場合である。コーダには/n/か/r/しかたない。もう一点は、語頭に、子音の連続がある場合である。その場合の語頭の子音は、/m, n, s, z, f, v/のみである。このうち、/s, z, f, v/は語頭の二重音としてのみあらわれる。/m, n/も二重音であられるが、それとは別に、/mb, ng, nk, nz/も可能である。しかし、これら以外の組み合わせは不可能であるため、限定されていると言える。

以下の表に黒島方言の音節一覧を示す。今回は、軽音節のみの用例をまとめた。空欄は、これまでに存在が確認されていないものである。音素/c/は音声[ts]である。ただし、母音iの前では音声は必ず[tei]となる。よって、[tei]を/ci/で表すこととする。母音eの前では[tse]～[tee]で揺れる。[te]の場合は、/cy/を用いて口蓋化していることを示す。よって、[tse]の音素表記は/ce/, [tee]の音素表記は/cye/とする。

表1 母音 i

	i		
子音なし	isa	itu	izu
	医者	糸	魚
p	pinuci	pin, pir	pibira
	日	にんにく	足
t	tir, tin	tida	situmuti
	ざる	太陽	朝
k	kin	bikidumu	iraki
	着物	男	うろこ
b	bikidumu	meesabi	biaha
	男	朝ご飯	私たち（包含）
d	yadin		
	必ず		
g	gisuku	gira	hagi
	石積み	シャコガイ	影
c	naci	fuci	inuci
	夏	口	命
f	uffi		
	溺れる		
s	siwaa	guusi	hasi
	心配	酒	加勢
h			

v	vvi	havi	
	降り	かぶれ	
z	hazi	zin	ziru
	風	お金	いろり
m	mizi	hami	fudaccami
	水	亀	やもり
n	nni		
	胸		
r	maari	uri	saari
	まり	これ	連れ去る
y			
w			

表2 母音 e

	e	
子音なし		
p	pekku	
	百	
t	uvatte	bante
	あなたの家	自分の家
k	piirakehen	
	涼しい	
b		
d		
g		
c	tacce(taccye か?)	
	だれかの家	
f		
s		
h	piirakehe	abarehe

	涼しい	きれい
v		
z	zen	
	知っている	
m		
n		
r	abarehe	
	きれい	
y	ye	yen
	おい！	来年
w		

表3 母音 a

	a		
子音なし	acca	amaza,amazi	abu
	明日	頭	母
p	pana	giipa	pada
	鼻	かんざし	肌
t	taku	sita	tammunu
	タコ	砂糖	薪
k	nkaza	sikara	tuka
	むかで	力	十日
b	bata	bahaha	buuba
	腹	若い	おば
d	adani	tida	
	アダン	太陽	
g	gaba	gazan	hangan
	あか	蚊	鏡
c	fudaccami	funca	irabuca
	やもり	廊下	イラブチャー
f	maffa	guffa	
	枕	重い	
s	saba	saba	garasa
	サメ	ゾーリ	からす

h	maaha	hata	naha
	おいしい	肩	中
v	uva	siva	遅い
	あなた	心配	niva
z	zan	haza	zza
	ジュゴン	におい	草
m	kuma	maya	mami
	ここ	猫	豆
n	nabi	nada, nadan	isanaki
	なべ	涙	石垣
r	sikara	araku	haara
	力	歩く	瓦
y	yama	yana	
	山	ダメな	
w	hawari		
	変わる		

表 4 母音 o

	o		
子音なし			
p	pocca		
	包丁		
t	hatosi	zotto	
	ハトシ (魚)	いい	
k	gakko		
	学校		
b	uboho		
	大きい		
d			
g			
c			
f	voffo		
	黒々		
s	zosso	iso	bason

	白々	海辺	場所, 時
h	uboho	zooho	
	おおきい	白い	
v	voffo		
	黒々		
z	zosso		
	白々		
m			
n	minossa	wunoho	
	蓑笠	九日	
r	uboho	yooha	
	大きい	四日	
y			
w			

表 5 母音 u

	u		
子音なし	usi	uboho	un
	牛	大きい	芋
p	puni	pusi	pusu
	骨	星	人
t	tuzi	butu	tuman
	妻	夫	浜
k	taku	fukun, fukur	心
	たこ	袋	kukuru
b	budun	buzasa, buza	kibusi
	踊り	おじ	煙
d	du	hadu, adu	midumu
	ぞ (取り立て助詞)	かかと	女
g			
c			
f	funi	fuci	saifu
	船	口	大工

s	suucizuu	maasu	sudi
	大潮	塩	そで
h			
v	vui	vvuku	havu
	降る	黒い	かぶる
z	zzuku	izu	yaaninzu
	白い	魚	家族
m	situmuti	mun	muci
	朝	麦	餅
n	sinu		inuci
	つの		命
r			
y	yunan	yudar, yudan	
	与那国	よだれ	
w	wunoho		
	九日		

表 6 その他の音節

mma	馬
nni	胸
zzu	糞
vva	子ども
ssana	傘
ffun	釘
ngehe	苦い
nziru	出る
nku	剥く
mbusi	蒸す
in	犬
tur	鳥

3. 黒島方言の格助詞・取り立て助詞

黒島の格助詞と取り立て助詞について述べる。東筋集落の話者2名に調査協力をお願いした。以下の格助詞と取り立て助詞は、現在明らかになっている範囲での記述である。

3. 1. 格助詞

3. 1. 1. 格助詞 nu

①動作主

共通語では「が」に該当する。主格の用法がある。

- (1) koocoo+sinsii=nu=du funi=hara ur-i waar-u=waya.
 校長先生=NOM=FOC 船=ABL 下りる-SEQ なさる-NPST=SFP
 校長先生が船から下りなさったよ。

②連体修飾

共通語では「の」に該当する。属格の用法がある。

- (2) kuzu usitu=nu syogakkoo=nu sinsii=he nar-e=waya.
 去年 妹=NOM 小学校=NOM 先生=ALL なる-PFV2=SFP
 去年、妹が小学校の先生になったよ。

ただし、代名詞 uva（あなた）や固有名詞、sinsii（先生）など、呼びかけ詞として使用できる名詞の場合は、nu と言わずに、名詞末の母音を一拍分伸ばすことで代用している。その際、母音が a であれば音声として aa となり、i の場合は、ii が ee となり（例：先生 sinnsi=i→sinse=e）、母音が u の場合は oo となる（例：蛸 taku=u→tako=o）。

- (3) sinse=e tii=nu ubohor-i waar-u=ra.
 先生=GEN 手=NOM 大きい-SEQ いらっしゃる-ADN=SFP
 先生の手は大きいですね。

3. 1. 2. 格助詞 yu

①対格

共通語では「を」に該当する。対格（目的格）の用法を持つ。

- (4) unu uwagi=yu tookyo=na nisen+en=si=du ha-ya=dora.
 この 上着=ACC1 東京=LOC 二千元=INST=FOC 買う-PFV2=SFP
 この上着を東京で2000円で買った。

②強調

共通語では該当する語がない。次の例は、「誰が来るの?」と聞かれて「先生が来るよ。」と答える場面である。yu は動作主を表すと同時に焦点の用法があるのではないかと考える。

よって、取り立て助詞と見るべきかもしれない。

- (5) sinse=yu isanake=hera kyuu waar-un=dora.
 先生=FOC 石垣=ABL 今日 いらっしゃる-NPST=SFP
 先生 がね、石垣から今日いらっしゃるよ。

3. 1. 3. 格助詞 ba

共通語では「を」に該当する。対格（目的格）の用法を持つ。

- (6) ziroo=ya habi=si=du koinobori=ba sukur-i buu=do.
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SFP
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている

3. 1. 4. 格助詞 na・n

共通語の「に」と「で」と「を」に該当する。

①存在の場所

共通語では「に」に該当する。存在の場所を表す。

- (7) hanako=o nzu=nu=du jaa=nu ui=na pus-sar-i b-ee.
 花子=GEN 布団=NOM=FOC 家=GEN 上=LOC 干す-PASS-SEQ いる-PFV2
 花子の布団が屋根の上に干してある。

②動作を行う場所

共通語では「で」に該当する。動作主が行う場所を表す。

- (8) unu uwagi=yu tookyo=na nisen+en=si=du ha-ya=dora.
 この 上着=ACC1 東京=LOC 二千元=INST=FOC 買う-PFV2=SFP
 この上着を東京で2000 円で買った。

また、動作を行う場所として、共通語では「を」に該当する用法がある。以下の例のように、通過点を表すように見えるが、「家の前の道を通る。」のときは na は使用できない。よって、「歩いている」動作を行う場所を na が表しているものを考えられる。

- (9) pataki=nu naha=na arak-i buu=do.
 畑=GEN 中=LOC 歩く-SEQ PROG=SFP
 畑の中を歩いているよ

③動作の着点

共通語では「に」に該当する。動作の着点を表す。

- (10) funi=na nuur-i=ti par-a=ra.
 船=LOC 乗る-SEQ=CVB 行く-INT=SFP
 船に乗って行こう

④時間

共通語では「に」に相当する。時刻を表す。

- (11) situmuti rokuzi=na fuk-ida=dora.
 朝 六時=LOC 起きる-PFV1=SFP
 (今日の) 朝, 六時に起きたよ。

⑤動作の目的

共通語では「に」に相当する。動作の目的を表す。

- (12) asabi=n ku-u-ban misan?
 遊び=LOC 来る-NPST-CNC よい
 遊びに行ってもいいか?

3. 1. 5. 格助詞 ni・n

①対象を表す

共通語の「に」に該当する。与格の用法を持つ。

- (13) hanako=ya paa=n=du aai n-een=waya.
 花子=TOP おばあさん=DAT=FOC あれほど 似る-PFV2=SFP
 花子はおばあさんによく似ている。

②受け身文の動作主

共通語では「に」に該当する。受け身文の動作主を表す。

- (14) taroo=ya ubuza=n=du iz-ar-itta.
 太郎=TOP おじいさん=DAT=FOC 言う-PASS-PST
 太郎はおじいさんに叱られた。

また, n の直前の名詞が-n で終わるときは, 音声として nin に変わる。

- (15) taroo=ya in=nin=du fo-or-i=waja.
 太郎=TOP 犬=DAT=FOC 噛む-PASS-INF=SFP
 太郎は犬に噛まれたよ。

3. 1. 6. 格助詞 ha

共通語では「へ」に該当する。方向格の用法を持つ。ha は前接する名詞末の母音が a の場合や n の場合や ha であり, 名詞末の母音が i の場合は he となり, 母音が u の場合は ho となる。

- (16) uri=yu sinse=he uyah-ai=yo.
 これ=ACC1 先生=ALL 差し上げる -IMP=SFP
 これを先生にあげなさい。

3. 1. 7. 格助詞 hara

①起点

共通語では「から」に該当する。奪格の用法を持つ。起点を表す。

- (17) koocoo+sinsii=nu fune=hara ur-i waar-u-munu mit-tan=dura.
 校長先生=NOM 船=ABL 下りる -SEQ なさる -ADN-NMLZ 見る -PST=SFP
 校長先生が船 から 下りなさるのを見たよ。

②手段

共通語では「で」に相当する。動作を行うための手段を表す。

- (18) fune=hera par-a=ra.
 船=INST 行く -INT=SFP
 船で行こうね。

③並列

共通語では「やら」に相当する。取り立て助詞と考えてもよいかもしれない。

- (19) hon=hara enpicu=hara=du dai=nu ui=na ar-u=waya.
 本=PAL 鉛筆=PAL=FOC 台=GEN 上=LOC ある -NPST=SFP
 本 やら 鉛筆 やら 台の上にあるよ。

3. 1. 8. 格助詞 si

①手段

共通語では「で」に該当する。道具格の用法を持つ。

- (20) banaa kuruma=si par-un=do.
 私.TOP 車=INST 行く -NPST=SFP
 私は車で行くよ。

②原材料

共通語では「で」に相当する。原材料を表す。

- (21) ziroo=ya habi=si=du koinobori=ba sukur-i buu=do.
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SFP
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている。

3. 1. 9. 格助詞 tu

共通語の「と」に該当する。共格の用法を持つ。

- (22) hanako=tu kaori=tu mucumasan=do.
 花子=COM 香=COM 仲良い=SFP
 花子と香と仲がいい。

3. 1. 10. 格助詞 ti

共通語の「と」に該当する。引用の用法を持つ。

- (23) biyaha futaan=ni sudutir-i=yoo=ti iz-i.
 私達 二人=DAT 育てる-IMP=SFP=QUOT 言う-SEQ
 私達二人に育てなさいといって……

3. 1. 11. 格助詞 kin

共通語では「より」に該当する。比較の用法を持つ。音声的に kinna で用いられることが多いが、kin 単独でもよいとされる。

- (24) uri=kin=na kuree masi=dora.
 あれ=COMP=TOP これ.TOP よい=SFP
 あれ より これがよい。

3. 1. 12. 格助詞 φ

いわゆる、ハダカ格となる場合が黒島方言にも見られる。この場合、ハダカ格を用いても格助詞を用いてもよいと判断される。

①到達

共通語では「先生になった。」のような到達の「に」は、ハダカ格で表される。格助詞を使用する場合は、方向を表す ha を入れる。

- (25) kuzu usitu=nu syogakkoo=nu sinsii=he/φ nar-e=waya.
 去年 妹=NOM 小学校=NOM 先生=ALL/φ なる-PFV2=SFP
 去年、妹が小学校の先生になったよ。

②対象

共通語では「水が飲みたい。」か「水を飲みたい。」で揺れるところである。「水、飲みた

い」 とハダカ格で表す。格助詞を使用する場合は、対象を表す *yu* を用いる。

- (26) accaha=ti=du mizi=yu/ phi nun-pisa-dar=waya.
 暑い=CVB=FOC 水=ACC1/ phi 飲む.INF-HOP-FOC.COP=SPF
 暑くて水が飲みたい。

3. 2. 取り立て助詞

3. 2. 1. 取り立て助詞 *du*

共通語では該当する語がない。強意を表す。

- (27) taa=du fuu=ya?
 誰=FOC 来る-NPST=DUB
 誰が来るの？

3. 2. 2. 取り立て助詞 *ya*

共通語の「は」に該当する。名詞によって、音声変化を起こす。*baa* (私) の場合は, *banaa* (私は) となる。*banaa=ya* (私は) と, もう一つ *ya* を重ねていうこともできる (石垣四箇字方言にも同様の現象あり)。*mici* (道) のように名詞末の母音が *i* で終わると, *micee* (道は) となり, *taku* (蛸) のように名詞末の母音が *u* で終わると, *takoo* (蛸は) となる。*tun* (鳥) のように *n* で終わると *tunna* (鳥は) となる。ただし, 必ずそうなるわけではなく, 分析的に *ya* を用いてもよい。二重母音の場合は *ya* で現れる。

- (28) ziroo=ya habi=si=du koinobori=ba sukur-i buu=do.
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SPF
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている。

3. 2. 3. 取り立て助詞 *n*

共通語の「も」に該当する。添加を表す。

- (29) itten=naa=nu mata teekyoo budur uri=yu=n si-i
 一点=LMT4=GEN また 提供 踊り それ=ACC1=ADD する-SEQ
 (結願祭りでは各御嶽から) 一点ぐらいの提供踊り, それをもして……

3. 2. 4. 取り立て助詞 *baak i*

①時間の限界

共通語では「まで」に該当する。限定の用法を持つ。取り立て助詞 *ya* が下接した *baake* が多く使用される。

- (30) acca=baaki mat-i=ba.
 明日=LMT1 待つ-IMP=SFP
 明日 まで 待て。

②添加

共通語では「まで」に相当する。添加の用法を持つ。iiyar とは、通常の土産とは異なり、自分が作ったものや、用意したものを指す。

- (31) iiyar=n taboor-er-u=nu=du zin=baaki taboor-ee.
 手土産=ADD 頂く -PFV2-ADN=ADVRS=FOC お金=LMT1 頂く -PFV2
 手土産だけでなく、お金 まで 頂いた。

3. 2. 5. 取り立て助詞 tanka

①限定（1）

共通語では「だけ」に相当する。限定の用法を持つ。

- (32) hanako=tanka=du k-ee=waya.
 花子-LMT2=FOC 来る -PFV2=SFP
 花子 だけ が来たよ。

②限定（2）

共通語での「しか」に該当する。共通語での「A しかない。」の言い方は、「A ほどある。」の構文に言い換えられる。

- (33) hyaku+en+dama=tanka=du ar-u=waya.
 百円玉=LMT2=FOC ある -NPST=SFP
 100 円 しか 持っていない。

3. 2. 6. 取り立て助詞 bahar

①程度

共通語での「ほど」に該当する。おおよその量を表す用法がある。東筋集落では、音声形として bahara・bahan もある。

- (34) iciman+en=bahar harah-ai=ba.
 一万円=DEG 貸す-IMP=SFP
 一万円 ほど 貸せ。

②限定

共通語での「だけ」に該当する。限定の用法を持つ。

- (35) ai=bahara=du nohor-ee.
 これ=LMT3=FOC 残る-PFV2
 これ だけ 残っているよ（酒の瓶を見せて言う）。

3. 2. 7. 取り立て助詞 naa

共通語では該当する語がない。(36)の場合は「ずつ」が該当しているが、むしろ分量を区切る用法を持っていて、共通語では「だけ」が最も近いのではないかと考える。

- (36) imeemi=naa hakob-i=ba.
 少し=LMT4 運ぶ-IMP=SFP
 少し ずつ 運びなさい。

3. 2. 8. 取り立て助詞 naaka

共通語では「なら」「ぐらい」に該当する。仮定条件を表すので **naaka** の基の形式としては、取り立て助詞の **naa** にコピュラの **aru** がついた、**na akka(arukka)**かもしれない。

- (37) iciman=**naaka** viir-un=doo.
 一万円=LMT5 あげる-NPST=SFP
 一万円 なら あげるよ。

3. 2. 9. 取り立て助詞 ssan

共通語では「さえ」に該当する。軽いものを例として上げて、それより重いものを類推させる。音声として[ssan]～[ccan]で揺れる。東筋集落では[ssan]の方が多いようである。**ssan**の直前にコピュラ **yar** が付いたと見られる、**ya-ssan** の形式でも用いられる。「でさえ」相当の言い方ではないかと考えている。(39)のように、名詞末の音節と融合する。

- (38) midumunu=ssan nar-un=doo.
 女=LMT6 なる-NPST=SFP
 女 さえ できるよ。

- (39) mizyee=ssan num-an-un.
 水.COP=LMT6 飲む-NEG=NPST
 水 でさえ 飲まない。

3. 2. 10. 取り立て助詞 kka

共通語の対訳では表せないことも多い。「か」に該当することもある。不定を表す。

- (40) uri=kka nuu=ya?
 それ=INDF 何=DUB
 それは何か？

3. 2. 1 1. 取り立て助詞 uran

共通語では「くらい」に該当する。おおよその量を表す。uran は名詞である可能性もあるが、今回は品詞の性質に関する調査を行う時間がなかったため、一応、取り立て助詞として用例をあげておく。

- (41) nuu=nu=uran=du nohor-ee=ya?
 何=GEN=DEG=FOC 残る-PFV2=DUB
 どの くらい 残っているか？

* グロス一覧

ABL	ablative	奪格	LMT 1	limitative	限定(baaki)
ACC1	accsative	対格(yu)	LMT2	limitative	限定(tanka)
ACC2	accsative	対格(ba)	LMT3	limitative	限定(bahar)
ADD	additive	添加	LMT4	limitative	限定(naa)
ADVRS	adversal	逆接	LMT5	limitative	限定(naaka)
AND	adnominal	連体	LMT6	limitative	限定(ssan)
ALL	allative	向格	LOC	locative	場所格
CAUS	causative	使役	NEG	negative	否定
CLS	causal	理由	NOM	nominative	主格
COMP	comperative	比較	NMLZ	nominalizer	体言化
COM	comitive	共格	NPST	nonpast	非過去
COP	copula	コピュラ	PAL	parallel	並列
CNC	concessive	譲歩	POT	potential	可能
CVB	comverb	副詞節	QUOT	quotative	引用
DUB	dubitative	疑問	PASS	passive	受身
DAT	dative	与格	PFV(1)	perfective	完了(ida)
DEG	degree	程度	PFV(2)	perfective	完了(eer)
FOC	focus	焦点	PROG	progressive	進行
GEN	genitive	属格	PST	past	過去
IMP	imperative	命令	SFP	sentence final particle	終助詞
INDF	indifinit	不定	SEQ	sequential	継起(テ形)
INF	infinitive	連用(不定)	TOP	topic	主題
INST	instrumental	具格	+		複合境界
INT	intentional	意志			

4. 自由談話

東筋集落話者二人による自由談話を記述する。黒島の東筋集落にて毎年9月に行われる「結願祭」について、結願祭の昔と今を比較しながら話をして頂いた。

A: kicugan na kka rokunici ti sita

結願祭は六日だった？

B: rokunici

六日

A: rokunici ya kka gonici nu

六日だったら五日の

B: yungumur

夜のおこもり

A: nanzye hera nara gogo

何時からなのか 午後

B: sanzi

三時

A: sanzi nu maa hara mainusukuyaa na

三時くらいから 前野底やーに

B: sanzye hera du mainusukuyaa na acamariti sukasa tiziri nu

三時から 前野底やーに集まって ツカサ、ティジリが

A: kami sukasa nu surai waari han nu suu ba sii waari

カミツカサがそろいなさって 神事に関する話し合いをなさって

B: kami sukasa nu surai waaru munoo soo

カミツカサがそろいなさるのは そう

A: unu yuu ya mee unaa yama yama na waari

その夜は 自分自分の御嶽に行って

B: unaa yama yama

それぞれの御嶽

A: yungumar ra

夜ごもりだよね

B: yungumar ba sii

夜ごもりをして

A: yungmar ba siti

夜ごもりをして

B: umana mee akinami nu nigai ba simasiti du

そこで 秋の願いを済ませて

ure hera mata peeziza ha waari

それから また ページ座にいらっしゃって

A: naacaa situmutee mee peeziza na waari

翌日の朝は ページ座にいらっしゃって

umaa mee yuraiza ti izi du kka ya acamari

そこは「ユライ座」と言うか、集まり

B: so yuraiza ha waari

そう 集まる場所に来て

A: unnin du mura hara nu mata sukooru munu nzasi

その時に 村からのまた 作ったものを出し

B: soo soo aiti

そうそう そして

A: asa nu nigai ba simasiti

朝の願いを済まして

B: yaa ha waari

家にいらっしゃって

A: yaa ha hairi waariti mata icizye hera mee

家に帰りなさってまた 一時から

B: zyuunizye hera

十二時から

A: a zyuunizye hera

あ, 十二時から

peeziha ha waari mee buduru kyoon sii ra

ページ座へ集まって 踊り・狂言をするのか

B: ai

はい

A: boo ba uti

棒術をして

B: oo

そう

A: saisyoo ya mee boo du utasiba aiti un hara du mata mee

最初は棒術を打たせて そして それからまた

biaha sima nu mee kicugan muraa mee suban ti izi

私たちの島の 結願, 村は すばんといって

B: ai suban

そう すばん

A: uree mee iciban kyoon ti izu muno hora hazimari

それは 一番狂言というものから始まって

hazi hazi nu mee budur yu sii sizye wara

数々の踊りを やるからね

B: ai

そう

A: aiti mata manuma nari ya mee yama hazye hera

そしてまた 現代になっては それぞれの御嶽から

itten naa nu mata teekyoo budur uri yu n sii

一点くらいの 提供のおどり それをもして

uri naa du mee gakkoo nu sinka n itten na mee sii waaru wa
そこに学校の仲間(教職員)達も 一点ぐらい提供していらっした

uma nu bahan nu gyoozi ba du kka mee sii buru aranun
ここのところの行事をしているんじゃないか

B: mukasyee ya mee syeenenki ni
昔はもう 青年達に

mata fuzinki anu mudunki nu uraha tturi
また女性、女性達も多かったから

A: budur
おどり

B: buduru kyongin ya ti izi
踊り狂言は という

mura hara unigai ba sii
村から お願いをする

uma na du mee kyonyaaya kyonyaa
その場で 狂言家は狂言家

buduruyaa ya buduruyaa ba siti
踊り家は 踊り家をして

unu bason du mee ziiponkin
その時分に 地方（じかた）

mata naasukuyaa nu ziisan nu du
仲底家のじいさんが

sima nu iya mura nu kunu
島の いや 村のこの

iruiru nu budun nu sisyo ba nari waari
いろいろの踊りの師匠を おなりになって

keera ha mee naraasi watta ti yu
みんなに教えなさったってよ

A: buduru ya mee siikuba ti izi uree ya
踊りは 飼育場と言って これは

buduruzaa ya kimari beeru nu
踊り座は決まっていたけど

seenen ki nu kyoonyaa ya mee kunu arayaa yu sukuri
青年たちの狂言する場所は この新しい家を作り

waaru zaa ya mee mainen hai cugicugi sukuri waariba
なさる場所は 毎年そういうふうに次々作りなさるので

teekyoo ba sii du kyonyaa ya mee sitta do
提供して 狂言家はしたよ

bantaa mee seenen zidai hara baakee kyonyaa ya
私の青年時代からまでは 狂言家は

B: unu maan na mee yaa sukuraa me mainen ari du butta ra
その頃は 家作りは 毎年あったので

A: ai yu
そうよ

B: psuningin nu uraha tturi
人が多かったから

A: yaa nu du mee bunke sii yaa nu du urahariba
家が分家する家が多いから

B: maruma du mee nanzyuunen ni ikkai
今は何十年に一回

sinsii syee tee yaa ti izuka mee nanzyuunen buri aranun
先生の家というか 何十年ぶりじゃない

A: airiba du yu naatakiyaa nu sukuri kai

だからよ 仲嵩家の作り替え

B: aya kutu hangairiba unu
そういうことを考えると その

A: koominkan na sukuri
公民館を作って

B: maruma mee pusu n pinariti mata maruma manunbaakee
今もう人も少なくなって また 今、今までは

yuimaar ti izi keera si du mee yaa yu n sukuri tabootta
ゆいまーるといって みんなで 家を作ってくださった

maruma mee ukeoiseedo nari
今もう請負制度になって

pusun nu pusu nu du ukeoisya nu du ukiti du susumu yunti
一人の人が請負者が受けて 進むから

uri n zinhani nu naanaka naran munu aya hatu yunti du mee
それもお金がないとできないもの そうということなので

maruma mee nanzyuunen ni ikkai naa nu yaasukurariba
今は何十年に一回ずつの 家作りなので

kyonyaa yu n mutumirun ti izaban mee
狂言の練習する家も 探そうとしても

psuningin nu burana tturi
人がいなくて

kyongin nun mee suuna nari naanun
狂言もしなくなってしまった

aya mee zidai da du mee nari kii naan ti yu
そういう時代に なってきているよ

A: kyooyuukai nu mee kyooryoku nu aa yunti du biaha mura
郷友会の協力があるから 私たちの村

tanka ya mee kicugan na cuzuki bee
 だけは 結願は続いている

mai ya tti ka mee mura hazi naa
 前は 村ごとに

kicugan nun sii du butta nu du
 結願もしていたけど

pusu nu mura naa ya mee saikin na naana du aru
 よその村では最近はなくなっている

aiti sima kicugan ti uri nu naacaa mee
 そして島結願って それの翌日

asai na waari du icizikan naa ya
 アサイにいらっしゃって 一時間ずつは

mutizikan ti izi uri nu mata zyunban na mee
 持ち時間とって これのまた順番は

iciban na mesitu niban na nahantu
 一番は宮里 二番は仲本

samban na mee puri yoban me naa du me
 三番目は保里 四番目に

biaha murasibi na siiriba
 私たちの村 最後にするので

mee zikangiri si mee icizikan naa ti izi
 時間切りで一時間ずつと言って

yozikkan naa ya mee budurituusi du ariba
 四時間ぐらひは踊りっぱなしなので

marumaa mee uri nu du naanun waya
 今はもう これがないよ

B: maruma mee sinka nu burana tturi

今はもう人がいなくて

buduru pusu n buranun

踊る人もいない

A: kyon sii pusu ti n buranun

狂言するという人もいない

B: kyon sii pusu n buranun

狂言する人もいない

kaku utaki nu mee hoonoo teekyoo ti izi

各御嶽の 奉納提供と言って

itten naa mee keera mee duuduu nu wan nu

一点ずつ みんな自分自分の御嶽の

ooen yu siiru cumori sii du mee siihaki buriba

応援をするつもりで やっているのです

ure hera fuzinki nu nanten

それから婦人会の何点

mata isanaki kyooyuukai nu nanten

また石垣郷友会の何点

A: kyooyuukai hara

郷友会から

B: nzi ti du mee maruma nu unu kicugansai ya mee

そういうことで、今の 結願際は

yattu si mee sii araku ti yu

やっとなで しているよ

A: ai yu kicugan kyon ti izi

そうよ 結願際の狂言といって

B: aya kutu hangairiba du biaha sima nu kunu

そういうことを考えると 私たちの島のこの

psu nu maridaka nu isikaha mata maruma nu yuu ya mee
人の生まれる数が少ない また 今の世はもう

kookoo hara mee muuru isanake he du paru yunti
高校からみんな 石垣へ行くので

tabe he paru yunti
島を出て行くので

hairi furu vanki ti izu munu du pisura ssan buranun wayaka
帰って来る子供が 一人もないよね

kimuiccaha n ari ya siiru nu du kka mee
心苦しくはあるけど

nuu du siraririba ya aya zidai tti yu mee yununaha nu du
なにができるのか そういう時代ってよ、世の中が

A: saikin nari ya mee haiccin na bahamunu nki nu kii maari
最近はかえって若者たちが 戻って来て

usi n sikanai ya buru wa
牛も飼っているよ

B: ai du me ningin ti izu munoo tuzibutu sunagariba du
そういうことで 人間というのは 夫婦が一緒になって

patarakessa n ari pataraki n sii kii genki n nzi
働きやすくもあるし 働きもしてきて元気も出る

maruma nu baa hara bikidumunki miriba
今の 自分から 男たちを見ると

tuzi n tumana mee araku wa
嫁も探さないでいるよ

duu yu n miriba du du tti uri yu hangairiba du
自分を見れば これを考えたときに

nuubasi du ka ra

どういふふうにしたらいいのかな

kunu sima mura atoo nari para ti izi

この島が 村が あとはどうなるのかなと言って

kutu ba umui ya sii sii miri

ことを思っているよ

5. 昔話の黒島方言版：桃太郎

今回は「桃太郎」の話を、東筋集落の話者1名に黒島方言で語って頂いた。

panti du ubuza tu paa tu nu du simai watta tu

昔 おじいさんとおばさんとが 住んでいらっしゃったそうだ

ubuzaa ya yama ha kii turi

おじいさんは 山へ 木を取りに

paa ya mata kyuu ya waasiki nu haiyariba haara ha

おばあさんはまた 今日 天気がよいので 川へ

sentaku suuba du nar ti izi

洗濯しなければならないと言って

tarai na sentaku munu ba iriti haara ha sentaku si n

たらいに洗濯物をいれて 川に洗濯しに

waree tu

いらっしゃったそうだ

paa sentakuba sii beekke du haara nu ui hara

おばあさんが洗濯していると 川の上から

uboobi nu mumu nu nan nu fukeeri ya uti uti fukeeri ya uti uti

大きい桃の実が 浮いては沈み沈み 浮いては沈み沈み

guburukka gurburukka ti izi paa hato ho naari futa tu

どんぶらこ どんぶらこと おばあさんのところに流れてきたよ

paa ya kuree mizirasi munu ti izi kunu momo yu tarai na iriti
おばあさんは珍しいものだなといって この桃をたらいにいれて

kure mee yaa ha muti gii ziisan ubuza tu futaan si du
これは家へもっていき おじいさんと二人で

sookki ba sii taboorarubadu nar tti izi
おやつとしていただかなければならないと

paa ya sentaku tarai na momo ba iri
おばあさんは洗濯タライに 桃をいれ

yaa haa waareta tu
家へいらっしゃったそう

aikée du ziisan nu mata yama hara tti izi
そうしているうちに じいさんも 山からといって

manuma hairi waaree
いま 帰ってきた

paa ya uzuza kyuu ya mee
おばあさんは おじいさん 今日は

pirumasi kutu nu du ar ti izi
珍しいことがあったよと言って

nuu yariba ya ti izu kee du
何ですかって きいてみると

baa sentaku ba sii bee kee du haara nu ui hara
私が洗濯をしているときに 川の上から

momo nu nan nu du fukeeri ya uti tui fukeeri ya uti uti
桃の実が 浮いては沈み 浮いては沈み

naari futara kuree mee ubuza tu futaan si du
流れてきたので これは おじいさんとふたりで

pisuma nu sokki ba sii taboorarirun tti izi muti kee saa
ひるまのおやつにして 頂こうといって 持って来たよ

ai mizirasi kutu wanna ti izi
それはそれは珍しいことがあるもんだな

ubuza n yurukubi tooka mee pocca tu manaita ba muti kuu ti izi
おじいさんも喜んで さあ 包丁とまな板をもってこいといって

futaan si mee kii kisi mumu yu mee sookki suu ti izu kee du
二人で 切って 桃をおやつにしようと言ったときに

paa ya mata manaita tu manaita tu pocca ba muti kii
おばあさんはまたまな板と まな板と 包丁を持って来て

zoo ubuza uva mee uree kisi waari tti
どうぞ おじいさん あなた これ 切ってください

sitara du ubuza aika baa
と言うので おじいさんは そしたら 私が

kisa ti izi muti kii pocca yu zai kee du kee du
切ろうと言って 持ってきて 包丁を かまえたときに

momo ya sinaasi bari naan ba
桃は 自然に 割れてしまったわけ

unu naha hara miru kee du biikoo nu faa nu nzi ketta tu
この中から 見たときに 男の子が 出てきたって

paa tu ubuza ya mee yurukubi turi
おばあさんとおじいさんは 喜んで

biaha futaan na vaa nu naanatturi du kamisama nu du
私たち二人に 子供がいないので 神様が

biaha futaan ni sudutiri yoo ti izi
私たち二人に 育てなさいよと言って

megumi tabooreeru aranun kaya ti umoorita tuki ndu
恵んでくれたのではありませんかねと 思われたときに

paa kuree mee rippai ni sudatiti
おばあさん この子をりっぱに育てて

biaha uri n sukanaaru
私たち この子に養われよう

zoottoo ubuza ai suu ti izi
いいでしょう。 おじいさん そうしましょうと言って

mainici mee atarasa ba sii
毎日 かわいがって

paa tu ubuza yurukubi turi bee kee du mee
おばあさんとおじいさん 喜んでいる間に

kyuu ya kyuu aca a aca tti izi momotaroo ya
今日は今日 明日は明日っているうちに 桃太郎は

seicyoo ba si mata naa yu
成長して 名前を

kuree nuuba du sukuba du nar ti izu kutu nari
なんとか名前をつけなければならないということになって

momo no naha hara nzi keeriba mee momotaroo ti izi
桃の中から 出てきたので 桃太郎と

naa ya suku ti izu kutu nari
名前はつけようということになって

nzi keeriba mee momotaroo ti naa ya suku tti izu kutu sii
出てきたので 桃太郎と名前は付けようということ

naa ya momotaro tti sikita tu
名前は 桃太郎とつけたって

ure hera mee mainici maini mainici mee atarasa ba si sudati bee kee

それから 毎日毎日 かわいがって育てていると

momotaroo ya taki hudu ni nari rippaana seinen ha fudubi tabootta tu
桃太郎は立派な体になって 立派な青年に成長してくれたと

aru tuki aru tuki n du momotaroo ya
ある時 桃太郎は

kure mee ubuza tu paa tu n du unaa mee
えー おじいさんとおばあさんとに 自分は

sikanaari kunu take hudu ni nareeriba
養われて この体格になったので

ubuza tu paa hara nu goon goon yu mee
おじいさんとおばあさんからの御恩，御恩を

haihaba du nariba ti izu kutu si
返さなければならぬのでということ

kyuu ya ubuza tu paa
今日は おじいさんとおばあさん

nuu du masi ti izu munu sikaba du nar ti izu kutu si
どうしたらいいかということを知ることがなければならぬということ

ubuza tu paa yurabi
おじいさんとおばあさんと呼んで

ubuza paa unaa onegai nu ariba siki viiri
おじいさん おばあさん 自分は お願いがあるから聞いてください

nuu nu onegai nu du ariba ya ti izu kee du
どんなお願いがあるのかねと言って

kuri madi mee paa tu ubuza ha sikanaari
これまで おばあさんとおじいさんに 養われて

duu yun mee take hudu nareeriba ubuza tu paa tu nu
私も 青年になったので おじいさんとおばあさんとの

ubuza tu paa tu nu bungi yu sii uyahaba ti umui buru nu
おじいさんとおばあさんの恩を返したいと 思っているけど

ubuza tu paa nuu du uvatta futaan na masi ra?
おじいさんとおばあさん なにがあなたたち二人はいいか?

syooziki ni mee izi viiri ti sitara
正直に言ってくださいと言ったら

una unataa nigai tu site kunu sima naa ya
自分たちの願いとして この島では

mainen ikkai na un nu kii du unu sima nu
毎年一回 鬼が来て この島の

iciban abarikuru bahamunu ba du saari paru
一番きれいな若者を さらっていく

kunu un yu uva mee taizi si tabooruka zootuu yarunu tti
この鬼を あなたが退治してくれたらいいけど

izu kee du
言うとは

too uri du mee ubuza tu paa tu nu
では それがおじいさんとおばあさんの

nigai tti izu kee du hai ai
お願いですかと言うと はい そう

uri du sii tabooruka zootoora tti izuttara
それをしてくれたら上等よと言ったので

too aikka uree baa taizi siirun
では それならば私が退治します

airunu paa uva baa izu kutu siki waari
だけど おばあさん あなた 私の言うことを聞いてください

mai nu uban ba mikku zyunbi ba sii uma ha muti waari
お米のおにぎりを三つ 準備をして こちらに持ってきてください

uri ba muti baa onigasima ha gii
それを持って 私が 鬼が島に行つて

oni ba taizi ba sii furiba tti sitara
鬼を退治してくるので と言つたので

paa ya yurukubitturi mai nu nbon ba mikku bentoo ti izi
おばあさんは喜んで お米のご飯を三つ 弁当と言つて

sukooriti momotaro ho batasita ttu
作られて 桃太郎に渡したつて

momotaroo ya pukorasa ti izi
桃太郎は ありがとうと言つて

kuri ba muti onigasima ha pari oni ba taizi ba sii furiba
これを持って 鬼が島へ行つて 鬼を退治してくるので

ubuza to paa ya mee yaa na mati waari ti izu kutu si
おじいさんとおばあさんは家で 待っていらしてくださいということで

momotaroo ya onitaizi sii n ti izi syuppacu syee raasa
桃太郎は 鬼退治しに出發したらしい

ai kee du minato ho ti izi mee araki araku kee du
そうしたときに 港へということで歩いていると

saisyō in nu in nu kiiti du
最初 犬が 犬が寄つてきて

momotaro uva ka kyuu ya maa ha du waara ti izu kee du
桃太郎 あなたは今日はどこへいらっしゃるかと言つて

bana kyuu ya onigasima ha onitaizi si n du par sa
私は今日は 鬼が島に鬼退治しに行くよ

ti izutara

と言ったので

in na banun mee saari waari taboori
犬は 私も連れて行ってください

arirunu uvaa kusi na fubireeru unu mai nu uban yu pusukku taboori
だけど あなたが腰に くくっているそのおにぎりをひとつください

aiyakka uva tumu ba sii onigasima ha mee mazun onitaizi si n parun ti nu kutu nari
そうならば おともして鬼が島と一緒に鬼退治しに行くということになって

uva ka zun ni parun ti izu kee du parun ti izu kutu nari
あなたは本当に行くかと言うと 行くということになって

mai nu ubon ba pusukku in ha batasitara
おにぎりを ひとつ犬に渡したので

pukorasa taboorarituri momotarosan tu mazun onitaizi si n parun yu ti izi
ありがとう いただいて 桃太郎さんと一緒に 鬼退治しに行きますよと言って

tooka mazun para ti izu kutu si
では 一緒に行こうと言うことで

futaar mata paru kee du mai ibemi si
二人また 歩いていると もうちょっとして

san nu du momotarosan mata uva maa ha du waara ti izu kee du
猿が 桃太郎さん またあなたどこへいらっしゃるかと言ったので

unaa ya kyuu ya onigasima ha onitaizi si n ti du tatee
私は 今日は 鬼が島に鬼退治しにと 出発して

aii aikka banun mazun saari waari taboori
そうですか それならば 私も一緒に連れて行ってください

airunu du uva kusi na fubireeru mai nu ubon yu pusukku taboori
だけど あなたが腰に くびっているおにぎりをひとつください

zootto ti izu kutu si sar ha mai nu ubon ba pusukku batasi
いいよということで 猿におにぎりをひとつ渡し

sar tu micaan si minato ho araki araku kee du
猿と三人で港へ 歩いていると

cugee mata kizi nu kitti du
次はまたキジが来て

momotarosan uva kyuu ya maa ha du waara ti izu kee
桃太郎さん あなたは今日はどこへいらっしゃるかというと

unaa ya mee kyuu ya onigasima ha onitaizi si n du paru doo ti izu kutu si
私は今日は 鬼が島に鬼退治しに行くよということで

kizi nuna n ba nun mee saari waari taboori ti airunu
キジも 私も連れて行ってくださいと だけど

kusi na fubireeru mai nu ubon yu pusukku taboori ti izu kutu nari
腰に くびっているおにぎりをひとつくださいということになって

too aikka unu mai nu ubon yu uva n taboora ti izi
では それなら このおにぎりをあなたにあげましょうと言って

uva n mazun parun ti izu kee du
あなたも一緒に行くかと 言う

parun ti nu kutu nari too minato ho sikee
行くということになって ついに 港について

minatu na ya funi nu attara micaan mee yutaan
港には 船があったので 三人四人

unu funi na nuuriti onigasima ha ti izi mee nzi tatee raasa
この船に乗って 鬼が島へと言って 出て行ったって

ai kee du mee dondon cikazuki fuu kee pama na du mee un nu du
そういううちに どんどん近づいて来ると 浜に鬼が

uraari mee waari piinivi ba sii beere raasa
たくさんいらっしゃる お昼寝をしていたらしい

too

よし

kuri yu mitta mumutaroo ya

これを見た桃太郎は

nuubasi suuba du ucca yu taizi siirari ti izi

どうしたら あいつらを退治できるかと言って

uma na mee yutaan nu munu nu soodan ba sii mazu mazy
そこで 四人で相談をして まず、まずは

pazimite pazime mee unu kizi nu gii un nu mii yu siki
最初は キジが行って 鬼の目をつけ

uvaa mee pani nu ariba gitti un nu mii yu siki
あなた羽があるから行って 鬼の目をつけ

cugee mataa sar nu gitti tiipan yu azi
次はまた 猿が行って 手足をひっかけ

mata in na unu ato hara gii pan yu fuippari
また犬は そのあとから行って 足に食いつけ

ti izu kutu soodan nu kimattara aikka mee ai sii kutu izi
ということで 相談が決まったので それではそうするようにと行って

siki mee onigasima ha mee funee siki
着いて 鬼が島に船が着いて

uma hara mee mazu saisyo ya mee kizi nu du gitti
それからまず最初は キジが行って

oni nu mii ba mee siki fuzee raasa
鬼の目をつついたらしいよ

ai kee du oni nu ucca mee mii nu du yamu ti izu bee kee
そして 鬼たちが 目が痛いと言っている間に

san nu gitti uma hama aziccaasi sii bee kee

猿が行って あちこち ひっかきまわってしていると

in nu kitti pan yu fuipparitara
犬が来て 足に噛み付いたので

tootoo mee oni nu taisyoo ya
ついに 鬼の大將は

uree mee unata n na kyu ya maki sii
自分たちは 今日は負けた

uvata izu kutu sikiba yurasi taboori ti izi
あなたたちの言うことを聞くので 許してください

oni nu taisyoo nu izuttara
鬼の大將が 言ったので

momotaroo ya nucyee tanka ya tasikuru nu
桃太郎は 命だけは助けるけど

kure hara atu unu sima ha
これからあと この島へ

uvata midumunu ba abarehe midumunu ba du mainen
あなたたちは美しい娘を毎年

pusunna unu sima ha saari fuu raasa nu
一人ずつ この島に連れて来ているようだけど

kunu kutoo mata yamirun ti izu kee du
このことはやめるかと言って

oni nu taisyoo ya ure hara ato nuuba syeeru kutu nu araban
鬼の大將は これからあと いかなることがあっても

unu sima hara ya midoo nu ffa yu saari fun ti izu kutu
その島からは 女の子を連れ去って来るということ

suuniba mee yurasi taboori ti izyee raasa
しないので許してくださいと 言ったそうだと

ai yakka mee

そうすると

inuci tanka tasikiriba mata mee maruma hara unu

命だけは助けるからまた 今からこの

kutu mee bassun sukun mamori yo ti izi

こと忘れず守れよと言って

momotaro ya iziti too

桃太郎は言って では

ure hera mata sima ha du par ti izu kee du

これからまた 島へ行くよ言うときに

oni nu taisyoo ya kuree mee kuma hara nu omiyage ti izi

鬼の大將は これは ここからのおみやげと言って

unatta manuma baaki uma hama hara

鬼たちが今まで あちこちから

acameeru takaramono ba du funi nu panturi

集めた宝物を 船にいっぱい

simituri kure mee unata omiyage eriba muti

積んで これは私たちのおみやげなので持って

sima ha waari taboori ti izu tara

島へいらっしゃってくださいと言ったので

momotaroo ya mee yurukubi funi nu panturi omiyage ba mutiti

桃太郎は喜んで 船いっぱい お土産をもって

funi na simiti sima ha ti izi pare raasa

船に積んで 島へといって 行ったらしい

sima ha sikiti kuruma na unu takaramono ba simiti

島へ着いて 車に その宝物を積んで

ubuza to paa mati beeru yaa ha gii
おじいさんとおばあさんが待っている 家に帰って

paa ubuza onigasima ha gitti mee oni ba taizi ba si
おばあさん おじいさん 鬼が島に行って鬼を退治して

keen doo ti izu kutu si izutara
来たよということだったので

ubuza tu paa ya nada ba utasi yurukubi
おじいさんとおばあさんは涙を落として喜んで

boori boori yakudu du uvaa sudati
よい子だ よい子だ 育てた甲斐がある

izi aiti omiyage ti izi kinginsagoo nu
言って そして おみやげと言って 金銀サンゴの

takaramono ba du uraari tabooretara muti keeriba
宝物をたくさんもらったので 持って来たから

kuma nu simazuu murazuu nu puso ho baki
ここの島中村中の人にかけて

uyahai ti izu kutu si momotaroo ya taboorari keeru
あげなさいということ 桃太郎はもらってきた

kinginsango nu omiyage yu sima nu puso ho keera ha
金銀サンゴのおみやげを 島の人にみんなに

baki viitan tu
分け与えたそう

(参考文献)

- 野原三義(2001)「八重山竹富町黒島方言の助詞」『八重山 竹富町調査報告書』3 地域研究シリーズ No.29 沖縄国際大学南島文化研究所
- 内間直仁(2004)「沖縄県宮古・八重山方言の調査研究－宮古郡下地町来間・八重山郡竹富町黒島方言を中心に－」『平成 14・15 年度 科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書』
- 狩俣繁久(2010)「八重山黒島東筋方言と黒島仲本方言」『平成 19・20・21 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書 琉球八重山方言の言語地理学的な研究』（代表・高橋俊三）

沖縄県内のマスメディアにおける 「しまくとうばコンテンツ」の調査

沖縄県内のマスメディアにおける「しまくとうばコンテンツ」の調査

琉球大学・石原昌英

0. はじめに

沖縄県では、インターネットの発達に伴い、テレビ・ラジオだけでなく、新聞もしまくとうばに関連した音声・映像を公開するようになっている。筆者は、これまで沖縄県内の新聞2紙（『琉球新報』『沖縄タイムス』）とNHK沖縄でしまくとうば復興に関する取り組み等について発言・発信してきた。それらを通して、本事業との関連で、沖縄県内のメディアが、アーカイブ機能を果たしているのではないかと考えた。それを確認するために、音声・映像をHP等で公開している県内のメディア6社を対象にアンケート調査（5社）とインタビュー調査（2社）を行った。本稿では、その回答（アンケート調査3社、インタビュー調査）にもとづいて、メディアの「アーカイブ機能」について述べる。

1. 調査結果

本章で言う「アーカイブ機能」とは、例えば、学術的研究（地域言語の記録保存）の研究成果がインターネット上で公開されている琉球大学附属図書館の「琉球方言データベース」やデジタル博物館『ことばと文化』のようなものではなく、放送や紙面で取り扱った番組・記事の音声・映像の保存とその公開のことである。本節では、アンケート・インタビューの質問にそって記述を進める。

1.1. しまくとうば関連のコンテンツ作成の意図

まず、しまくとうば関連のコンテンツを作成する意図を訊いた。回答は以下の通りである。

- ・しまくとうばの継承の機運を高めることへの寄与としまくとうばによる芸能そのものの記録のため
- ・放送局の使命として沖縄の伝統文化の継承発展があると考え。しまくとうばも大事なその一つ。
- ・しまくとうば復興の気運を紙面で紹介しているが、紙では伝えられない音声情報を伝えるため。

最初の二つの回答は放送局のものであるが、放送局として琉球沖縄の芸能文化としまくとうばが密接に関連していることを認識していることがわかる。3つめの回答は、新聞社のものである。同社は、しまくとうばを文字化した記事とその日本語訳（要約）を掲載している。しかし、記述された文字には、イントネーション・リズムや発音から示唆される「方言差」や微妙な意味の違いが明確に表されることは困難である。この意味で、紙面の記述と同社のWP上の音声記録を連結させることは有意義で効果的な取り組みである。

1.2. コンテンツの種類

つぎにしまくとうば関連コンテンツの種類について訊いた。回答は下記の通りである。ここでは、

本報告書の読者が当該コンテンツにアクセスする可能性があることを考えて、メディア（放送局・新聞）名を記して考察する。

まず、ラジオ沖縄は下記の番組を放送している。

- 1 「方言ニュース」 毎週月～金午後1時～1時5分
- 2 「暁で一びる」 毎週月～土 朝5時～6時5分 森和子 民謡番組
- 3 「民謡の花束」 毎週金曜日 午後8時～9時 山川まゆみ 民謡番組
- 4 「沖縄の古典」 iTunes で配信
他民謡番組2本

「方言ニュース」は、地元紙に掲載されたニュース記事（日本語）を伊狩典子他の「方言話者」がしまくとうばに翻訳してニュースとしてほうするものである。5分という短い時間なので、翻訳される記事は一つだけである。「暁で一びる」は早朝の番組で、沖縄民謡歌手（森和子）とその息子がパーソナリティである。森和子はほとんどの発言をしまくとうばでしているが、息子は日本語で対応することが多い。息子は、母親に発言に的確に答えているのでしまくとうばを聞いて理解できていることはあきらかである。「民謡の花束」では、山側まゆみがしまくとうばで発言することは少ない。「沖縄の古典」については、聴視したことがないので、内容について述べることは控えたい。民謡番組が主なしまくとうばコンテンツであることは、ラジオ沖縄の琉球沖縄の芸能（民謡）に対する意識を表している。

NHK沖縄放送局は『うちなーであそぼ』と『沖縄の歌と踊り』の2番組がある。前者は、5分間の短い番組で主対象は子供であると思われるが、大人が見ても十分に楽しめる内容である。内容としては、うちなー昔話、うちなー劇場、うちなーのうた、うちなー絵本がある。最初はEテレでスタートしたが、現在では総合テレビでも放送されている。放送回数はそれぞれ週2回である²。『沖縄の歌と踊り』は45分ほどの番組で、琉球舞踊、組踊、民謡、沖縄芝居などの琉球芸能が幅広く紹介され、月1回ほどの頻度で金曜日の夜に放送されている³。

『沖縄タイムス』では、2013年7月から毎週日曜日に特集紙面（しまくとうば新聞「うちなータイムス」）が掲載されている。同年8月から音声データは『しまくとうば新聞「うちなータイムス」ポッドキャスト（www.okinawatimes.co.jp/special/?file=shimakutuba）としてコーナーを沖縄タイムスホームページに作成し、音声を公開している。また、2015年10月からは、電子紙芝居調の動画に切り替えて音声、字幕付き（しまくとうば、日本語）の写真で公開している。現在、公開されているのは下

¹ 琉球放送には、毎週月曜日から金曜日の午後4時～5時までの1時間放送されている「民謡で今日拝なびら（みんなようでちゅうがなびら）」という50年以上も続く長寿番組がある。同番組では、メインパーソナリティの上原直彦と八木政男（月・水）、北島角子（火・木）、島袋千恵美（金）が聴者からリクエストされた琉球・奄美の民謡を流しながら、その内容に加えて、さまざまな話題についてしまくとうばと日本語で語っている。

² 詳しくは同番組のHP（www.nhk.or.jp/okinawa/asobo/）を参照。

³ 琉球放送（RBC）は琉球民謡や沖縄芝居を不定期に放送している（旧盆・旧正月・正月の時期が多いと思われる。）2015年と2016年の年末年始には同局にアーカイブ保存されていた沖縄芝居『探偵と盗賊』『琉球戦国史（天、地、龍）』が放送された。

記の通りである。

【ポッドキャスト・原稿朗読】

- ・しまくとうば社説朗読
- ・「今なてい何故『しまくとうば、しまくとうば』すが？」(4回)
- ・「ウシーぬしまくとうばはじめやびら学習編」(8回)
- ・「くとうば・芸能の継承」(4回)
- ・「しまくとうばで平和学」(4回)
- ・「チルグラーのむんならーし」
- ・「昔話 聞かちくいみそーり」(7回)
- ・「憲法9条朗読」

【ポッドキャスト・企画連載】

- ・「しまくとうば通信員」(42回)
- ・「はいさい！しんかぬちやー」(16回)

【動画・企画連載】

- ・「ビジネス琉会話」(8回)
- ・「じゅん選手のしまくとうば日記」(54回～継続中)
- ・「再録残さびらな 島くとうば」(5回～継続中)

中でも「しまくとうば通信員」と「再録残さびらな 島くとうば」は話者の出身地のことばの特徴が色濃く出ていて、沖縄県のしまくとうばの多様性を示すものとなっている。

1.3. 保存・アーカイブの状況

次に保存・アーカイブの状況について訊いた。回答は下記の通りである。

コンテンツは、音声・映像の(ビデオ)テープでの保存、沖縄芝居の音声・映像のオープンテープとMDでの保存、音声のMPでの保存が為れている。また、ある放送局では、沖縄民謡の古典の一部をCD化している。コンテンツについては、自社のHP、ポッドキャスト、iTuneで配信されているものもある。なお、アンケートに回答したメディアの全てが、これらのコンテンツの一般への貸出は不可能であると答えている。

テレビ・ラジオ局のホームページでコンテンツの公開が可能か訊いた。ラジオ沖縄の「方言ニュース」は公開されているが、民謡・芝居などのコンテンツを著作権などの制約があり、公開することができない。また、NHK沖縄放送局の「うちなーであそぼ」は、同局のホームページで最近の放送が動画(音声・映像)で公開されているが、一週間程度で過去の放送として文字表記のみと公開となる。これも著作権等の制約があるためである。沖縄タイムス社では、上記のように同社のホームページでコンテンツを公開している。

放送局には、保存している民謡番組・沖縄芝居の再放送について訊いた。ある放送局は、全ての出演者に連絡し、その承諾を得ること、リピート料金の支払いなどが再放送の条件であると回答した。別の放送局は、沖縄芝居は時々再放送しているが、特に条件はないと回答した。

1.4. 公的機関でのコンテンツの公開

公的な機関（県立図書館、県立公文書館、国立国語研究所等）が「しまくとうばアーカイブ」を設置すると、当該アーカイブに保存しているコンテンツを資料として提供していただくことは可能かどうかを訊いた。不可能であるという回答と、検討の価値がある、検討の必要があるという回答があった。

1.5. コンテンツ公開の法的制約

自社ホームページ等でこの種のコンテンツの公開が可能だとすれば、クリアすべき倫理規定はなにかを訊いた。以下の回答があった。

出演者、音楽、原作、脚本、構成台本、その他の著作物についても、肖像権や著作権など、それぞれの著作物に関する使用ルールに沿って必要な権利処理を行う必要がある。

次に、所有するコンテンツの公開を検討するとしたら、公開に向けてクリアすべき課題は何かを訊いた。下記の回答があった。

- ・著作権を担当しているNHK放送センター（東京）の法務部と調整し、公開ができるかどうか、番組ごとに検討する必要がある。
- ・特にないと思われる。
- ・過去録音は、すべて本人、遺族に確認し公開しており、その作業に時間がかかること。

保存されているコンテンツについては、再放送や公開のためには法的・倫理的な制約（出演者の権利を保護し、その承諾を得る必要）があるのである。

2. おわりに

電波メディアで放送される番組は元々インターネット上での公開を想定しているものではないのがほとんどであろう。テレビ・ラジオ番組の出演者は、1回だけの放送ではなく、インターネット上で無制限に見られる・聴かれることは想定していないと思われる。一方で、インターネットは消滅の危機に瀕した言語の復興に活用されていることも事実である。例えば、琉球大学附属図書館の「琉球方言データベース」には数多くのアクセスがある。また、ヒットした映画の一部分の台詞をしまくとうばに吹き替えられてもの（おそらく著作権法に違反している）が YouTube などにアップロードされ、アクセスも数多くある。このような状況を考えると、インターネット上でアクセスが可能なアーカイブを構築することは、しまくとうば復興に効果があると思われる。アーカイブは無料で公開するということを前提とすると、公的な機関（例えば、琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館、国立劇場沖縄、国立国語研究所等）での設置が望ましいだろう。

文化庁委託事業報告書

平成27年度

危機的な状況にある言語・方言の
アーカイブ化を想定した実地調査研究

2016年3月

琉球大学

国際沖縄研究所

